

大阪府都市整備部電子納品要領（案）〔設備工事編〕

1. 大阪府都市整備部電子納品要領（案）〔設備工事編〕
2. 施設コード表（大阪府編）
3. 機器コード表（大阪府編）

大阪府都市整備部電子納品要領(案)
[設備工事編]

平成 28 年 4 月

大阪府都市整備部

大阪府都市整備部電子納品要領(案) [設備工事編]

目 次

1	適用	1
2	用語の定義	2
3	フォルダ構成	4
4	成果品の管理項目	9
4-1	工事管理項目	9
4-2	台帳管理項目	16
4-3	その他管理項目	17
4-4	実施仕様書管理項目	19
4-5	計算書管理項目	21
4-6	施工図管理項目	23
4-7	機器図管理項目	25
4-8	施工管理記録書管理項目	27
4-9	取扱説明書管理項目	29
4-10	施工計画書管理項目	31
4-11	打合せ簿管理項目	33
5	ファイル形式	38
6	ファイルの命名規則	40
7	電子媒体	47
7-1	電子媒体	47
7-2	電子媒体の表記規則	48
7-3	成果品が複数枚に渡る場合の処置	49
8	その他留意事項	50
8-1	ウイルス対策	50
8-2	使用文字	51
8-3	オリジナルファイルの電子化について	52
8-4	電子化が困難な資料の取り扱い	52
8-5	情報共有システム	53
8-6	電子納品チェックシステム	54
8-7	写真の画素数（ファイルの大きさ等）	55
8-8	工事検査	56
8-9	電子納品の適用範囲	57
付属資料 1	管理ファイルの DTD	付 1-1
付属資料 2	管理ファイルの XML 記入例	付 2-1
付属資料 3	図面・書類等の格納例	付 3-1
付属資料 4	場所情報の記入方法	付 4-1
付属資料 5	XML 文書作成における留意点	付 5-1
付属資料 6	台帳フォルダの取り扱い	付 6-1

改定履歴

基準名称	適用要領基準※
大阪府都市整備部電子納品要領(案) 設備工事編 平成 17 年 4 月	機械 200504-01
大阪府都市整備部電子納品要領(案) 設備工事編 平成 28 年 4 月	機械 201604-01

※工事管理項目の基礎情報「適用要領基準」項目に記入する内容

1 適用

「大阪府都市整備部電子納品要領(案)[設備工事編]」(以下、「本要領」という)は、大阪府都市整備部が平成28年度以降に発注する設備工事における工事完成図書を、電子的手段によって発注者に引き渡す書類(以下、「電子成果品」という)の電子データの形式の標準を定めたものである。

本要領と併せて国土交通省が策定した電子納品に関する基準等に基づくものとする。

【解説】

本要領は、表 1-1 に示す基準及び特記仕様書に規定する工事完成図書及び成果品を電子的手段によって発注者に引き渡す電子成果品の電子データの形式の標準を定めている。

本要領は基本的に、国土交通省「工事完成図書の電子納品等要領(案)機械設備工事編 平成24年12月」を準用しており、電子納品支援ソフト等においても、国土交通省対応版のもので作成することが可能である。また、一部大阪府が独自に仕様変更したものがあり、その主な変更項目は、表 1-2 のとおりである。

表 1-1

NO.	名 称	備考
1	機械・電気設備請負工事必携	

各工事において適用されている規程と、本要領の規定との間に差異がある場合は、監督職員の指示に従う。

表 1-2 大阪府と国土交通省の差異

項 目	内 容	
	国土交通省	大阪府
CADデータファイルのフォーマット	原則として SXF (P21)	原則として SXF (sfc)
オリジナルファイルの形式	監督職員と協議	原則、以下形式による word、excel、powerpoint、画像ファイル (JPEG、TIFF)、HTML (情報共有を行った場合)
電子媒体の表記規則	電子媒体及びケースへの表記内容については、大阪府の発注内容合わせて名称変更。著名欄の追加	

2 用語の定義

本要領に使用する用語は機械・電気設備工事共通仕様書のとおりとし、それ以外の用語は次に定めるところとする。

- ・ **納品**とは、受注者が監督職員に工事完成時に成果品を納めることをいう。
- ・ **電子成果品**とは、電子的手段によって発注者に納品する成果品となる電子データをいう。
- ・ **電子納品**とは、電子成果品を納品することをいう。
- ・ **発注図**とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図等をいう。ただし、詳細設計を含む工事においては契約図書及び監督職員の指示に従って作成したものを発注図とすることができる。
- ・ **施工図**とは、設計図書を踏まえて作成される図面のうち、当該設備の維持、修繕、改修、更新等のために必要なすべての部材の位置・組合せ、機器・部品等の形状、配管・配線等個々の機材、施工方法に基づき、現地条件に対応した設備、機器の構造、接続・支持方法、納まり、制御システム等の詳細及び電子計算機で検討した経緯等を示す図面として作成されたもののうち、当該設備に限り使用権を発注者に移譲したものをいう。
- ・ **施工図面**とは、施工図の中で、CAD図面で作図されたものをいう。
- ・ **完成図**とは、出来形測定の結果及び設計図書に従って作成した図面をいう。なお、完成図の電子データは、国土交通省の「CAD製図基準（案）」の規定に基づき作成するものとする。
- ・ **完成図書**とは、工事完成時に提出する実施仕様書、計算書、施工図、機器図、施工管理記録書、購入品等機器一覧表及び取扱説明書等をいう。これらの書類は上記と同じ名前の各々のフォルダに電子納品される。また、それらの書類の詳細は以下のとおりとする。

B 実施仕様書	: 設計図書に基づき受注者が仕様を明確にするために作成する書面をいう。
B 計算書	: 設計図書に基づき、受注者が作成する詳細図にかかわる、強度、機能、数量の計算書をいう。
B 施工図	: 設計図書を踏まえて作成される図面のうち、当該設備の維持、修繕、改修、更新等のために必要なすべての部材の位置・組合せ、機器・部品等の形状、配管・配線等個々の機材、施工方法に基づき、現地条件に対応した設備、機器の構造、接続・支持方法、納まり、制御システム等の詳細及び電子計算機で検討した経緯等を示す図面をいう。
B 機器図	: 受注者が製作・購入する機器図をいう。
B 施工管理記録書	: 品質管理（試験成績書等）、出来形管理、工程管理に関するものをいう。
B 取扱説明書	: 設備全体及び機器単体の取扱説明書、及びサービス体制表をいう。

- ・ **施工計画書**とは、工事着手前に受注者から提出される工事目的物を完成させるために必要な手順や工法等について記載した文書及びその添付資料（文書、図面、写真）をいう。
- ・ **打合せ簿**とは、共通仕様書に示す書面に該当し、施工中に受発注者間で手書き、印刷物等や情報共有システムを利用して電子的に授受される伝達物をいう。
- ・ **指示**とは、契約図書の定めに基づき、監督職員が受注者に対し、工事の施工上必要な事項について書面をもって示し、実施させることをいう。
- ・ **承諾**とは、契約図書で明示した事項について、発注者若しくは監督職員または受注者が書面により同意することをいう。
- ・ **協議**とは、書面により契約図書の協議事項について、発注者または監督職員と受注者が対等の立場で合議し、結論を得ることをいう。
- ・ **提出**とは、監督職員が受注者に対し、または受注者が監督職員に対し工事に係わる書面またはその他の資料を説明し、差し出すことをいう。
- ・ **提示**とは、監督職員が受注者に対し、または受注者が監督職員に対し工事に係わる書面またはその他の資料を示し、説明することをいう。
- ・ **報告**とは、受注者が監督職員に対し、工事の状況または結果について書面をもって知らせることをいう。
- ・ **通知**とは、発注者または監督職員と受注者または現場代理人の間で、監督職員が受注者に対し、または受注者が監督職員に対し、工事の施工に関する事項について、書面をもって知らせることをいう。
- ・ **工事写真**とは、工事着手前及び工事完成、また、施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後に目視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を「写真管理基準」により撮影したものをいう。なお、工事写真の電子データは国土交通省の「デジタル写真管理情報基準」に基づき作成する。
- ・ **出来形管理資料**とは、測定結果総括表、測定結果一覧表、出来形管理図表、出来形管理図、出来形管理表、度数表等をいう。
- ・ **品質管理資料**とは、品質管理表、測定結果総括表、測定結果一覧表、品質管理図、度数表等をいう。
- ・ **工事帳票**とは、施工計画書、打合せ簿、品質管理資料、出来形管理資料等の定型様式の資料、及び打合せ簿等に添付して提出される非定型の資料をいう。
- ・ **工事書類**とは、工事写真および工事帳票をいう。
- ・ **工事完成図**とは、出来形測定の結果及び設計図書に従って作成した図面をいう。なお、工事完成図の電子データは、国土交通省の「CAD製図基準(案)」の規定に基づき作成する。

3 フォルダ構成

電子成果品は、次に示すフォルダ構成とする。ルート直下に「DRAWINGF」、「REGISTER」、「OTHRs」、「BORING」、「K_BOOK」のフォルダ及び工事管理ファイルを置く。各管理ファイルを規定する DTD 及び XML ファイルも該当フォルダに格納する。XSL ファイルの格納は、任意とする。

「REGISTER」、「OTHRs」フォルダの下に「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダを置く。格納する電子データファイルがないフォルダは作成しなくてもよい。

工事帳票を出力する場合は、次に示すフォルダ構成とする。ルート直下に「MEET」、「PLAN」のフォルダ及び工事管理ファイルを置く。各管理ファイルを規定する DTD 及び XML ファイルも該当フォルダに格納する。XSL ファイルの格納は任意とする。

「PLAN」、「MEET」フォルダの下に「ORG」オリジナルファイルフォルダを置く。格納する電子データファイルがないフォルダは作成しなくてもよい。

デジタルカメラで撮影した工事写真を提出する場合は、次に示すフォルダ構成とする。ルート直下に「PHOTO」フォルダ及び工事管理ファイルを置く。写真管理ファイルを規定する DTD 及び XML ファイルも該当フォルダに格納する。XSL ファイルの格納は任意とする。「PHOTO」フォルダには、工事写真の電子データファイルを「デジタル写真管理情報基準」に従い格納する。

各フォルダ及びオリジナルファイルフォルダに格納するファイルは、次の通りとする。

- ・「DRAWINGF」フォルダには、施工図面、完成図の電子データファイルを国土交通省の「CAD 製図基準(案)」に従い格納する。
- ・「REGISTER」フォルダは、台帳管理ファイルと施設台帳ファイル、機器台帳ファイル、その他管理台帳管理ファイル（施設台帳ファイルや機器台帳ファイル以外の台帳ファイル）を格納するものである。大阪府では建設 C A L S システムで台帳管理を行っているため本フォルダは使用せず、別途、ルート直下に「台帳」フォルダを作成し、付属資料 6 に示す方法で台帳登録用のファイル作成を行い、台帳フォルダに格納する。
- ・「OTHRs」フォルダは、その他、工事に関する電子成果品を格納する場合に作成することができ、作成する際は、その他管理ファイルを格納する。DTD 及び XML ファイルもこのフォルダに格納する。XSL ファイルの格納は任意とする。「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダは監督職員の承諾を得て複数作成することができ、各工事の特性に応じたデータ等を格納する。「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダの「nnn」は数字を示しており、連番とする。ただし、発注者の指示及び、参照する各種要領等により指定されている場合は連番としなくてもよい。
- ・「BORING」フォルダには、地質・土質調査の電子データファイルを国土交通省の「地質・土質調査成果電子納品要領(案)」に従い格納する。
- ・「K_BOOK」フォルダには、「B_SPC」、「B_CHECK」、「B_INST」、「B_DEVICE」、「B_EXAM」、「B_MANUAL」サブフォルダを置く。「K_BOOK」フォルダでは、管理ファイルをそれぞれのサブフォルダに置く。DTD 及び XML ファイルはそれぞれのサブフォルダに格納する。XSL ファイルの格納は任意とする。
- ・「B_SPC」サブフォルダには実施仕様書管理ファイルと実施仕様書ファイルを格納する。
- ・「B_CHECK」サブフォルダには計算書管理ファイルと計算書ファイル、検討書ファイル、数量表ファイル（必要時）を格納する。
- ・「B_INST」サブフォルダには施工図管理ファイルと施工図ファイルを格納する。
- ・「B_DEVICE」サブフォルダには機器図管理ファイルと機器図ファイルを格納する。
- ・「B_EXAM」サブフォルダには施工管理記録書管理ファイルと品質ファイル（試験成績書等）、出来形ファイル、工程ファイル等を格納する。

- ・「B_MANUAL」サブフォルダには取扱説明書管理ファイルと取扱説明書ファイル、サービス体制ファイルを格納する。
- ・「MEET」フォルダには、打合せ簿管理ファイルを格納する。DTD 及び XML ファイルもこのフォルダに格納する。XSL ファイルの格納は任意とする。
「ORG」オリジナルファイルフォルダには、打合せ簿オリジナルファイル、打合せ簿（鑑）に添付した工事書類のオリジナルファイルを格納する。
- ・「PLAN」フォルダには、施工計画書管理ファイルを格納する。DTD 及び XML ファイルもこのフォルダに格納する。XSL ファイルの格納は任意とする。
「ORG」オリジナルファイルフォルダには、施工計画書オリジナルファイルを格納する。

フォルダ作成上の留意事項は次の通りとする。

- ・フォルダ名称は、半角英数大文字とする。
- ・「REGISTER」及び「OTHR」フォルダ以外の各フォルダは、「ORG」オリジナルファイルフォルダ内に対象ファイルを格納し、「ORG」オリジナルファイルフォルダの中で階層分けは行わない。
- ・次ページの図 3-1 に示すフォルダ構成は例示であり、表示の順番はこれによるものではない。

図3-1 フォルダとファイルの構成 (1/2)










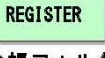
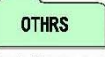




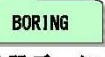







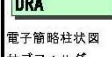

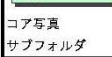



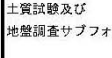





































フォルダ	オリジナルファイル フォルダ	格納する電子成果品	ファイル形式
 電子媒体ルート 工事に関する基礎情報及び電子成果品の構成等を記入した工事管理ファイルを格納します。		<ul style="list-style-type: none"> ● 工事管理ファイル※1 ● DTD※2 	  INDEX_MC.XML IND_MC03.DTD (工事管理ファイル)
 施工図面・完成図フォルダ 施工図面・完成図に関する電子成果品を格納します。		<ul style="list-style-type: none"> ● 図面管理ファイル※3 ● DTD※2 ● 施工図面・完成図ファイル ● ラスタファイル ● SAFファイル 	     DRAWINGF.XML DRAW_MC3.DTD 施工図面・完成図 ラスタファイル SAFファイル (図面管理ファイル) ファイル(SXF形式)
 台帳フォルダ※4 台帳に関する電子成果品を格納します。		・大阪府では本フォルダは使用しないため、フォルダを作成しない又は 空フォルダとする。	
 その他フォルダ※4 その他、工事に関する電子成果品を格納します。		<ul style="list-style-type: none"> ● その他管理ファイル※3 ● DTD※2 	  OTHRS.XML OTHRS03.DTD (その他管理ファイル)
 その他オリジナル ファイルフォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● その他データ 	 (オリジナルファイル)
 地質データフォルダ※4 地質・土質調査成果に関する電子成果品を格納します。		<ul style="list-style-type: none"> ● 地質情報管理ファイル ● DTD※2 	  BORING.XML BRG0150.DTD (地質情報管理ファイル)
 ボーリング交換用 データサブフォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● ボーリング交換用データ ● DTD※2 	  BEDNNW.XML BED0300.DTD (XMLファイル) (DTDファイル)
 電子柱状図 サブフォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 電子柱状図 	 (PDFファイル)
 電子簡略柱状図 サブフォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 電子簡略柱状図 	 ファイル(SXF形式)
 コア写真 サブフォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● コア写真管理ファイル ● DTD※2 ● デジタルコア写真 ● デジタルコア写真整理結果 	   COREPIC.XML CPIC0110.DTD (JPGファイル) (コア写真管理ファイル)
 土質試験及び 地盤調査サブフォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 土質試験及び地盤調査管理ファイル ● DTD※2 ● 電子土質試験結果一覧表 ● 土質試験結果一覧表データ ● 電子データシート ● データシート交換用データ ● デジタル試料供試体写真 	     GRNDTST.XML GST0200.DTD データファイルXML データファイルDTD (PDFファイル) (土質試験及び地盤調査管理ファイル)
 その他の地質・ 土質調査成果 サブフォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● その他管理ファイル ● DTD※2 ● その他の地質・土質調査成果 	   OTHRFLS.XML OTHR0110.DTD (オリジナルファイル) (その他管理ファイル)

図3-1 フォルダとファイルの構成 (2 / 2)

フォルダ	オリジナルファイル フォルダ	格納する電子成果品	ファイル形式
K_BOOK 完成図書フォルダ 完成図書に関する電子成果品を格納します。			
B_SPEC B実施仕様書フォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 実施仕様書管理ファイル ● DTD※2 ● 実施仕様書ファイル 	   BS.XML SPC03.DTD PDFファイル (実施仕様書管理ファイル) (実施仕様書ファイル)
B_CHECK B計算書フォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 計算書管理ファイル ● DTD※2 ● 計算書・検討書・数量表ファイル 	   BC.XML CHECK03.DTD PDFファイル (計算書管理ファイル) (計算書・検討書・数量表ファイル)
B_INST B施工図フォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 施工図管理ファイル ● DTD※2 ● 施工図ファイル 	   BI.XML INST03.DTD PDFファイル (施工図管理ファイル) (施工図ファイル)
B_DEVICE B機器図フォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 機器図管理ファイル ● DTD※2 ● 機器図ファイル 	   BD.XML DEVICE03.DTD PDFファイル (機器図管理ファイル) (機器図ファイル)
B_EXAM B施工管理記録書フォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 施工管理記録書管理ファイル ● DTD※2 ● 品質・出来形・工程ファイル 	   BE.XML EXAM03.DTD PDFファイル (施工管理記録書管理ファイル) (品質・出来形・工程ファイル)
B_MANUAL B取扱説明書フォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 取扱説明書管理ファイル ● DTD※2 ● 取扱説明書・サービス体制ファイル 	   BM.XML MANUAL03.DTD PDFファイル (取扱説明書管理ファイル) (取扱説明書・サービス体制ファイル)
MEET 打合せ簿フォルダ 工事打ち合わせ簿に関する工事書類を格納します。		<ul style="list-style-type: none"> ● 打合せ簿管理ファイル ● DTD※2 	  MEET.XML MEET03.DTD (打合せ簿管理ファイル)
ORG 打合せ簿オリジナルファイルフォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 打合せ簿 ● 工事履行報告書 	 (オリジナルファイル)
PLAN 施工計画書フォルダ 施工計画書に関する工事書類を格納します。		<ul style="list-style-type: none"> ● 施工計画書管理ファイル ● DTD※2 	  PLAN.XML PLAN03.DTD (施工計画書管理ファイル)
ORG 施工計画書オリジナルファイルフォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 施工計画書 (オリジナルファイル) 	 (オリジナルファイル)
PHOTO 写真フォルダ 写真に関する電子書類を格納します。		<ul style="list-style-type: none"> ● 写真管理ファイル ● DTD※2 	  PHOTO.XML PHOTO03.DTD (写真管理ファイル)
PIC 写真フォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 写真ファイル 	 JPEGファイル (デジタル写真)
DRA 参考図フォルダ		<ul style="list-style-type: none"> ● 参考図ファイル 	 JPEG、TIF、他ファイル (参考図)
台帳 台帳フォルダ 台帳に関する電子成果品を格納します。		・大阪府 建設CALSシステムへ台帳登録を行うため、「台帳」フォルダを作成する。 登録するファイルは、付属資料6により作成を行うものとする。	

※1 市販の電子成果品作成支援ツールなどを利用して作成することができます。事前協議チェックシート及び CORINS のデータをもとに、受注者が作成します。
 ※2 「電子納品 Web サイト」よりダウンロードすることで入手できます。
 ※3 市販の電子成果品作成支援ツールなどを利用して作成することができます。
 ※4 電子納品対象データがない場合はフォルダを作成する必要はありません。

【解説】

(1) DRAWINGF フォルダ (施工図面・完成図フォルダ)

当該設備に限り使用権を発注者に移譲した施工図面の電子データファイルを「CAD 製図基準 (案)」に従い格納する。

(2) OTHERS フォルダ (その他フォルダ)

- ・「OTHERS」フォルダを作成する際は、その他管理ファイルを格納する。
「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダは、複数作成することができる。
- ・「OTHERS」フォルダの、「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダ内には任意でフォルダを作成することができるが、階層は、「7-1 電子成果品」において使用を原則とする CD-R の論理フォーマットの制約からルートから数えて最大 8 階層までとなることに注意する。
- ・オリジナルファイルとは、「CAD、ワープロ、表計算ソフト等で作成した電子データ」を指す。なお、PDF ファイル等を含む。
- ・各要領に記載されていないフォルダについては作成しない。
- ・本要領や他の要領はホームページ等で確認し最新のものを入手すること。また、正誤表等についても、確認すること。

(3) K_BOOK フォルダ (完成図書フォルダ)

「K_BOOK」フォルダの各サブフォルダには、PDF 形式でファイルを格納する。なお、各サブフォルダに格納する図面・書類等の範囲は付属資料 3 を参照のこと。

※ ルート

ルートとは階層型ファイル構造における最上階層のディレクトリやフォルダのことをいう。

※ XML eXtensible Markup Language (拡張型構造化記述言語)

ユーザが任意でデータ(タグ)の要素・属性や論理構造を定義できる記述言語(メタ言語)であり、1998 年 2 月に W3C(WWW コンソーシアム)において策定された。

※ DTD Document Type Definitions(文書型定義)

XML 文書では、ユーザが任意でデータ(タグ)の要素・属性や文書構造を定義したものを DTD(文書型定義)という。文書に含まれるデータの要素名や属性や構造を表現する。

※ XSL eXtensible Style Language

XML 文書の書式(体裁)を指定するスタイルシートを提供する仕様であり、「標準仕様書 TSX088:2006 拡張可能なスタイルシート(XSL)1.1」、「JIS X 4169:2007 XSL 交換(XSLT)1.0」の規格がある。

4 成果品の管理項目

4-1 工事管理項目

電子成果品に格納する工事管理ファイル (INDEX_MC.XML) に記入する工事管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-1 工事管理項目 (1/4)

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
基礎情報	メディア番号	提出した電子媒体の通し番号を記入する。単一の電子媒体であれば1となる。	半角数字	8	<input type="checkbox"/>	◎	
	メディア総枚数	提出した電子媒体の総枚数を記入する。	半角数字	8	<input type="checkbox"/>	◎	
	適用要領基準	電子成果品の作成で適用した要領・基準の版(「設備 201604-01」で固定)を記入する。 (分野:設備、西暦年:2016、月:04、版:01) ※但し、電子納品作成ソフトにより修正不可の場合は国の要領(機械 201212-01)でも可。	全角文字 半角英数字	30	▲	◎	
	施工図面・完成図フォルダ名	施工図面・完成図を格納するために「DRAWINGF」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(DRAWINGFで固定)を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	○	
	台帳フォルダ名	施設台帳ファイル、機器台帳ファイルやその他の台帳管理ファイルを格納するためのフォルダ名称「REGISTER」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(REGISTERで固定)を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	不要	
	台帳オリジナルファイルフォルダ情報※	台帳オリジナルファイルフォルダ名	台帳オリジナルファイルを格納するフォルダ名称(REGISTER/ORG001~nnn)を記入する(nnnは連番を示す)。台帳オリジナルファイルフォルダがある場合は必ず記入する。	半角英数大文字	15 固定	▲	不要
		台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名	台帳オリジナルファイルを格納するフォルダの日本語名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	▲	不要
	地質データフォルダ名	地質データを格納するために「BORING」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(BORINGで固定)を記入する。	半角英数大文字	6 固定	▲	○	
	その他フォルダ名	その他資料を格納するために「OTHRs」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(OTHRsで固定)を記入する。	半角英数大文字	5 固定	▲	○	
	その他オリジナルファイルフォルダ情報※	その他オリジナルファイルフォルダ名	その他オリジナルファイルを格納するフォルダ名称(OTHRs/ORG001~nnn)を記入する(nnnは連番を示す)。その他オリジナルフォルダがある場合は必ず記入する。	半角英数大文字	12 固定	▲	◎
その他オリジナルファイルフォルダ日本語名		その他オリジナルファイルを格納するフォルダの日本語名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	▲	◎	
完成図書フォルダ名	完成図書を格納するために「K_BOOK」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(K_BOOKで固定)を記入する。	半角英数大文字	6 固定	▲	○		
B 実施仕様書フォルダ名	B 実施仕様書管理ファイルと実施仕様書ファイルを格納するフォルダ名称(K_BOOK/B_SPCで固定)を記入する。	半角英数大文字	12 固定	▲	○		
B 計算書フォルダ名	B 計算書管理ファイルと計算書・検討書・数量表ファイルを格納するフォルダ名(K_BOOK/B_CHECKで固定)を記入する。	半角英数大文字	14 固定	▲	○		
B 施工図フォルダ名	B 施工図管理ファイルと施工図ファイルを格納するフォルダ名称(K_BOOK/B_INSTで固定)を記入する。	半角英数大文字	13 固定	▲	○		

表 4-1 工事管理項目 (2/4)

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
基礎情報	B 機器図フォルダ名	B 機器図管理ファイルと機器図ファイルを格納するフォルダ名称(K_BOOK/B_DEVICE で固定)を記入する。	半角英数大文字	15 固定	▲	○	
	B 施工管理記録書フォルダ名	B 施工管理記録書管理ファイルと施工管理記録書ファイルを格納するフォルダ名称(K_BOOK/B_EXAM で固定)を記入する。	半角英数大文字	13 固定	▲	○	
	B 取扱説明書フォルダ名	B 取扱説明書管理ファイルと取扱説明書・サービス体制ファイルを格納するフォルダ名称(K_BOOK/B_MANUAL で固定)を記入する。	半角英数大文字	15 固定	▲	○	
	写真フォルダ名	写真を格納するために「PHOTO」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(PHOTO で固定)を記入する。	半角英数大文字	5 固定	▲	○	
	施工計画書フォルダ名	施工計画書を格納するために「PLAN」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(PLAN で固定)を記入する。	半角英数大文字	4 固定	▲	○	
	施工計画書オリジナルファイルフォルダ名	施工計画書オリジナルファイルを格納するフォルダ名称(PLAN/ORG で固定)を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	○	
	打合せ簿フォルダ名	打合せ簿を格納するために「MEET」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(MEET で固定)を記入する。	半角英数大文字	4 固定	▲	○	
	打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名	打合せ簿オリジナルファイルを格納するフォルダ名称(MEET/ORG で固定)を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	○	
工事件名等	発注年度	工事の発注年度を西暦4桁で記入する。	半角数字	4 固定	□	◎	
	工事番号	設計図書等にある契約番号 12 桁を記入する。	半角英数字	127	□	◎	
	工事名称	契約図書に記載されている正式の工事名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	■	◎	
	施工金額	CORINS の「請負金額」に従って記入する。	半角数字	16	■	◎	
	工事実績システム登録番号	CORINS センターが発行する受領書に記載される番号を記入する。CORINS 登録番号がない工事は「0」を記入する。	半角英数字	11	■	◎	
	工事分野	CORINS の「工事の分野」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎	
	工事業種	CORINS の「工事の業種」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎	
	工法型式※	工種	CORINS の「工種、工法・型式」の「工種」を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
		工法型式	CORINS の「工種、工法・型式」の「工法・型式」を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	住所情報※	住所コード	CORINS のコード表に表示される住所コード(27102～27385)の数字(5 桁)を記入する。該当がない場合は「99999」とする。(複数記入可)	半角数字	5	□	◎
		住所	「大阪府」を記入後、設計図書等にある「工事場所」を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	工期開始日	工期の開始日の年月日をCCYY-MM-DD方式で記入する。月または日が1桁の数の場合「0」を付加して、必ず10桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例)平成22年4月1日 → 2010-04-01	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10	■	◎	
工期終了日	工期の終了日の年月日をCCYY-MM-DD方式で記入する。月または日が1桁の数の場合「0」を付加して、必ず10桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例)平成22年12月3日 → 2010-12-03	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10	■	◎		
工事内容	設計図書等にある設計大要を記入。	全角文字 半角英数字	127	□	◎		

表 4-1 工事管理項目 (3/4)

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度		
場所情報	測地系	日本測地系、世界測地系(日本測地系 2000)の区分コードを記入する。日本測地系は「00」、世界測地系(日本測地系 2000)は「01」を記入する。	半角数字	2 固定	<input type="checkbox"/>	○		
	水系 路線情報※	対象水系路線名	CORINS の路線・水系名等に従って記入する。複数の水系・路線にまたがる工事の場合、関連する水系・路線名を記入する。当該情報が複数ある場合の記入方法は付属資料4を参照のこと。	全角文字 半角英数字	127	<input checked="" type="checkbox"/>	○	
		現道-旧道区分	「現道:1」、「旧道:2」、「新道:3」、「未調査:0」のいずれかを記入する。	半角数字	1 固定	<input type="checkbox"/>	○	
		対象河川コード	「河川コード仕様書」に準拠し発注者が指示する河川コードを記入する。(複数記入可)	半角数字	10 固定	<input type="checkbox"/>	○	
		左右岸上下線コード	河川の左岸・右岸の別または道路の上下線の別を示す左右岸上下線コードを記入する。(複数記入可)	半角数字	2 固定	<input type="checkbox"/>	○	
		測点 情報※	起点側測点-n	(自)n+m nを4桁で記入する。	半角数字	4 固定	<input type="checkbox"/>	○
			起点側測点-m	(自)n+m mを3桁で記入する。	半角数字	3 固定	<input type="checkbox"/>	○
			終点側測点-n	(至)n+m nを4桁で記入する。	半角数字	4 固定	<input type="checkbox"/>	○
			終点側測点-m	(至)n+m mを3桁で記入する。	半角数字	3 固定	<input type="checkbox"/>	○
	距離 情報※	起点側距離標-n	(自)n+m nを3桁で記入する。	半角数字	3 固定	<input type="checkbox"/>	○	
		起点側距離標-m	(自)n+m mを3桁で記入する。	半角数字	3 固定	<input type="checkbox"/>	○	
		終点側距離標-n	(至)n+m nを3桁で記入する。	半角数字	3 固定	<input type="checkbox"/>	○	
		終点側距離標-m	(至)n+m mを3桁で記入する。	半角数字	3 固定	<input type="checkbox"/>	○	
	境界 座標 情報	西側境界座標経度	対象領域の最西端の外側境界の経度を記入する。度(4桁)分(2桁)秒(2桁) 対象領域が西経の場合は頭文字に「-」(HYPHEN-MINUS)を含み4桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	<input type="checkbox"/>	○	
		東側境界座標経度	対象領域の最東端の外側境界の経度を記入する。度(4桁)分(2桁)秒(2桁) 対象領域が西経の場合は頭文字に「-」(HYPHEN-MINUS)を含み4桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	<input type="checkbox"/>	○	
		北側境界座標緯度	対象領域の最北端の外側境界の緯度を記入する。度(4桁)分(2桁)秒(2桁) 対象領域が南緯の場合は頭文字に「-」(HYPHEN-MINUS)を含み4桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	<input type="checkbox"/>	○	
南側境界座標緯度		対象領域の最南端の外側境界の緯度を記入する。度(4桁)分(2桁)秒(2桁) 対象領域が南緯の場合は頭文字に「-」(HYPHEN-MINUS)を含み4桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	8	<input type="checkbox"/>	○		

表 4-1 工事管理項目 (4/4)

分類・項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
発注者情報	発注者-大分類	「大阪府」と記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎
	発注者-中分類	CORINS の「発注機関名・小分類」より該当する名称を記入する。	全角文字 半角英数字	32	■	◎
	発注者-小分類	CORINS の「発注機関名・細分類」より該当する名称を記入する。	全角文字 半角英数字	30	■	◎
	発注者コード	327XXXXX(CORINS のコード 8 桁)を記入する。	半角英数字	8 固定	■	◎
受注者情報	受注者名	受注者の正式名称を記入する。JV の場合には、JV の正式名称及び代表会社名を続けて記入する。	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	受注者コード	大阪府電子調達(電子入札)システムで使用するコードを記入する。	半角数字	127	□	○
予備	特記事項がある場合に記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△	
ソフトメーカ用 TAG	ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△	

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】 ■：CORINS から出力される XML ファイル (CORINS 提出用ディスクのファイルフォーマット) から取り込むことが可能な項目。

□：電子成果品作成者が記入する項目。

▲：電子成果品作成ソフト等が自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。(データが分かる場合は必ず記入する)

△：任意記入。

※複数ある場合には、この項を必要回数繰り返す。

【解説】

(1) 基礎事項

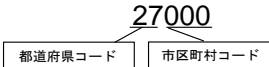
- ・ 工事管理項目は、電子成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 工事管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- ・ CORINS(コリンズ: COstruction Records Information Service)は、「工事実績と技術者のデータベース」であり、公共工事の一般競争入札方式等の入札・契約手続きを支援する。

(2) 場所に関わる情報の記入（詳細は付属資料 4 参照）

1) 「住所コード」

住所コードは工事対象地域が位置する都道府県または市区町村を表し、CORINS の施工場所コード表を参考に記入する。工事対象地域が複数の市区町村にまたがる場合は、該当する市区町村コードを全て記入する（複数記入可）。工事対象地域の境界が判定し難い場合は、わかる範囲で記入する。また工事対象地域の範囲により、市区町村コード・都道府県コードを選択して記入する。特定の地域に該当しない工事については、「99999」（対象地域なし）を記入する。

住所コードを都道府県レベルで表す場合は、全 5 桁の住所コードのうち市区町村コード部（下 3 桁）を「000」として記入する。

(例) 大阪府全域を表す住所コード：

2) 「住所」

住所は設計図書等に明示されている住所、地名（○○事務所管内、○○川流域など）を含め、当該地域の住所を記入する（複数記入可）。文字コードは全角文字・半角英数字を標準とし、全角英数字は用いない。また、原則として住所に俗称は用いない。

3) 場所情報

場所情報については、特定の場所・地域によらない工事を除き「境界座標」を必ず記入する。水系・路線により場所が示される工事においては「測点」または「距離標」のいずれかを記入することができる。また、「測点」及び「距離標」は「対象水系路線名」、「対象河川コード」（いずれも複数記入可）の件数に対応して複数記入することができる。

(A) 測点

工事対象となる起点側測点及び終点側測点を測点番号 (n) 及び測点からの距離 (m) の組み合わせで記入する (複数記入可)。

(B) 対象水系路線名

対象水系路線名は対象水系路線名の情報がある場合に記入する。

(C) 現道-旧道区分

現道-旧道区分は、「道路管理関係デジタル道路地図データベース標準第 3.0 版 平成 15 年 4 月 財団法人 日本デジタル道路地図協会」に準拠し、「現道：1」、「旧道：2」、「新道：3」、「未調査：0」のいずれかを記入する。

(D) 対象河川コード

対象河川コードは「河川コード仕様書 国土交通省河川局」に準拠し発注者が指示する河川コードを記入する (複数記入可)。なお、河川コードを記入する場合は左右岸コードを併せて記入する。

(E) 左右岸上下線コード

場所情報として距離標を記入する場合は、河川の左岸・右岸等の別又は道路の上下線の別を示す左右岸上下線コードを記入する。

(河川) 00：不明、01：左岸、02：右岸、03：中州、99：その他

(道路) 00：不明、10：上り線、20：下り線、03 上下線共通、99：その他

* 左右岸コードは「河川基盤地図ガイドライン(案)第 2.1 版 平成 13 年 12 月 国土交通省河川局河川計画課」に準拠している。

* 上下線コードは「道路管理関係デジタル道路地図データベース標準 第 3.0 版 平成 15 年 4 月 財団法人 日本デジタル道路地図協会」に基づき左右岸コードとのコードの重複を避けるため「0」を付加して桁上げしている。

* 「99：その他」は水部・河川敷部外、車道部外等の場合に適用する。

(F) 距離標

工事対象となる起点側距離標及び終点側距離標について、起点側からの距離「○○○km」「△△△m」を各々「距離標-n」及び「距離標-m」として記入する (複数記入可)。

(G) 境界座標

「境界座標」は世界測地系（日本測地系 2000）に準拠する。その範囲は対象範囲を囲む矩形の領域を示し、西側及び東側の経度と北側及び南側の緯度を各々、度（3桁）分（2桁）秒（2桁）で表される7桁の数値を記入する。特定の地域に該当しない工事については、「9999999」（対象地域なし）を各項目に記入する。「境界座標」は「対象領域の外側」を記入する。なお、対象領域が南緯及び西経の場合は頭文字に「-」（HYPHEN-MINUS）を記入する。

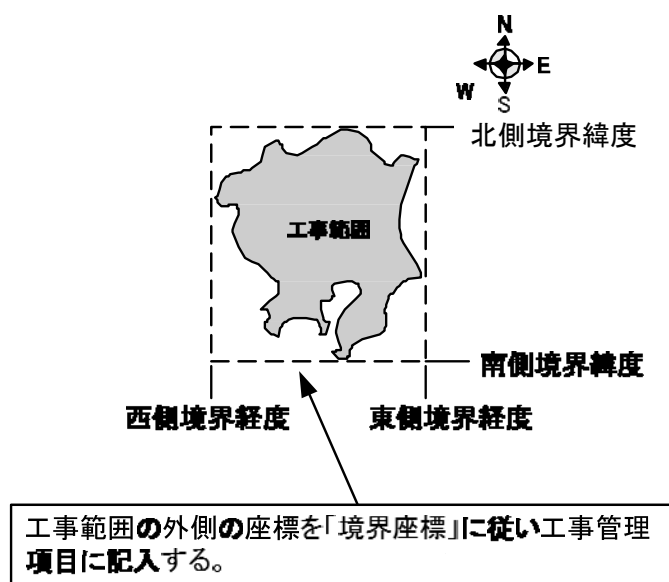


図 4-1 境界座標が示す範囲

<境界座標の取得精度について>

成果品の「工事管理ファイル」の管理項目に記入する境界座標の精度は、工事範囲にもよるが100m程度を目安とする（ちなみに、経緯度の1秒は地上距離で約30mに相当する）。なお、工事範囲が大きくなれば一般に精度も粗くなるが、可能な範囲の精度で取得することが望ましい。

4-2 台帳管理項目

本項目は使用しないため、台帳管理ファイル（RESIST_M.XML）に記入する管理項目については記載しない。

4-3 その他管理項目

電子成果品に格納するその他管理ファイル(OTHR.S.XML)に記入する管理項目は、
下表に示す通りである。

表 4-3 その他資料管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度		
サブフォルダ情報 ※	その他サブフォルダ名	作成したその他サブフォルダ名(ORG001~nnn)を記入する。	半角英数大文字	6	▲	◎		
	その他サブフォルダ日本語名	格納している資料の内容がわかるようにフォルダの日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○		
	その他資料情報 ※	資料名	その他サブフォルダ名に格納している資料名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎	
		オリジナルファイル情報 ※	シリアル番号	シリアル番号は1より開始する。提出時の電子媒体を通して、一連のまとまった資料についてユニークであれば、中抜けしても良い。2番目を、“00002”の様に0を付けて表現してはいけない。	半角数字	5	□	◎
			オリジナルファイル名	その他資料のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
			オリジナルファイル日本語名	オリジナルファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	■ △
			オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納したオリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
			オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくはその他資料のオリジナルファイルに記載されている内容を簡潔にを記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で特記すべき事項がある場合記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△	
		発注者説明文	発注者側で特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△	
予備		電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△		
ソフトウェア用TAG		ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△		

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字2文字で全角文字1文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】 □：電子成果品作成者が記入する項目。

▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

■：ORG サブフォルダに格納しているファイルをその他管理ファイルにおいて管理する際に記入する。記入の有無は、格納するデータの特性を踏まえ、監督職員の指示に従う。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

【解説】

- ・その他管理項目は、ルート直下のその他フォルダに格納する電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・その他管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- ・その他管理ファイルにおいて ORG サブフォルダ内のファイルを管理する場合は、ORG サブフォルダの直下にオリジナルファイルを格納する。ORG サブフォルダ内にフォルダを作成することは可能であるが、その際、その他管理ファイルでは、作成したフォルダおよびフォルダ内に格納されているファイルの管理は行わない(ORG サブフォルダレベルでの管理とする)。

4-4 実施仕様書管理項目（完成図書）

電子成果品（完成図書フォルダ）に格納する実施仕様書管理ファイル（BS.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-4 実施仕様書管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
実施仕様書情報 ※1	実施仕様書名称	実施仕様書の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎	
	オリジナルファイル情報 ※2	実施仕様書オリジナルファイル名	実施仕様書のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
		実施仕様書オリジナルファイル日本語名	実施仕様書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトウェア名とバージョン情報	格納した実施仕様書オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは実施仕様書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード ※3	施設コードの記入は任意扱いとするため、コードが無い場合は、「Z」を記入する。	半角英数字	17	□	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で実施仕様書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で実施仕様書に関して特記すべき事項がある場合（発注者から指示を受けた場合は）記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトウェア用 TAG		ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△	

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字2文字で全角文字1文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

※1) 実施仕様書情報以下は、実施仕様書情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3) 施設コードは、施設コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】 □：電子成果品作成者が記入する項目。

▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- ・実施仕様書管理項目は、電子成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・実施仕様書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・付属資料 1に管理ファイルの DTD、付属資料 2に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-5 計算書管理項目（完成図書）

電子成果品（完成図書フォルダ）に格納する計算書管理ファイル（BC.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-5 計算書管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
計算書情報 ※1	計算書名称	計算書・検討書・数量表の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎	
	オリジナルファイル情報 ※2	計算書オリジナルファイル名	計算書・検討書・数量表のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
		計算書オリジナルファイル日本語名	計算書・検討書・数量表のファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		計算書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納した計算書・検討書・数量表を作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは計算書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔にを記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード ※3	施設コードの記入は任意扱いとするため、コードが無い場合は、「Z」を記入する。	半角英数字	17	□	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で計算書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で計算書に関して特記すべき事項がある場合（発注者から指示を受けた場合は記入する。）	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	△
	ソフトウェア用 TAG		ソフトウェアメーカが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

※1) 計算書情報以下は、計算書情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3) 施設コードは、施設コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】 □：電子成果品作成者が記入する項目。

▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- ・ 計算書管理項目は、電子成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 計算書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1に管理ファイルの DTD、付属資料 2に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-6 施工図管理項目（完成図書）

電子成果品（完成図書フォルダ）に格納する施工図管理ファイル（BI.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-6 施工図管理項目

分類・項目名		記 入 内 容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
施工図情報※ ※1	施工図名称	施工図の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎	
	オリジナルファイル情報※ ※2	施工図オリジナルファイル名	施工図のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
		施工図オリジナルファイル日本語名	施工図ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		施工図オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納した施工図オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは施工図オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔にを記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード ※3	施設コードの記入は任意扱いとするため、コードが無い場合は、「Z」を記入する。	半角英数字	17	□	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で施工図に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で施工図に関して特記すべき事項がある場合（発注者から指示を受けた場合は記入する。）	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	△
	ソフトメーカー用 TAG		ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字2文字で全角文字1文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

- ※1) 施工図情報以下は、施工図情報の数分を複数繰り返し登録する。
- ※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。
- ※3) 施設コードは、施設コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】 □：電子成果品作成者が記入する項目。

▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- 施工図管理項目は、電子成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- 施工図管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- 付属資料 1に管理ファイルの DTD、付属資料 2に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-7 機器図管理項目（完成図書）

電子成果品（完成図書）に格納する機器図管理ファイル（BD. XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-7 機器図管理項目

分類・項目名		記 入 内 容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
機器図情報 ※1	機器図名称	機器図の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎	
	オリジナルファイル情報 ※2	機器図オリジナルファイル名	機器図のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
		機器図オリジナルファイル日本語名	機器図ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		機器図オリジナルファイル作成ソフトウェア名とバージョン情報	格納した機器図オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは機器図オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード ※3	施設コードの記入は任意扱いとするため、コードが無い場合は、「Z」を記入する。	半角英数字	17	□	◎
		機器コード ※3	機器コードの記入は任意扱いとするため、コードが無い場合は、「ZZ」を記入する。	半角英数字	14	□	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で機器図に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で機器図に関して特記すべき事項がある場合（発注者から指示を受けた場合）は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカー用 TAG		ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△	

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字2文字で全角文字1文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

※1) 機器図情報以下は、機器図情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3) 施設コード及び機器コードは、施設コード及び機器コードの数分を複数繰り返し登録する。

- | |
|--|
| <p>【記入者】 □：電子成果品作成者が記入する項目。
▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。</p> <p>【必要度】 ◎：必須記入。
○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）
△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。</p> |
|--|

【解説】

- ・機器図管理項目は、電子成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・機器図管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・付属資料 1に管理ファイルの DTD、付属資料 2に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-8 施工管理記録書管理項目（完成図書）

電子成果品（完成図書）に格納する施工管理記録書管理ファイル（BE.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-8 施工管理記録書管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
施工管理記録書情報 ※1	施工管理記録書名称	品質管理(試験成績書等)、出来形管理、工程管理の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎	
	オリジナルファイル情報 ※2	施工管理記録書オリジナルファイル名	施工管理記録書のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数字大文字	12	▲	◎
		施工管理記録書オリジナルファイル日本語名	施工管理記録書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトウェア名とバージョン情報	格納した施工管理記録書オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは施工管理記録書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔にを記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード ※3	施設コードの記入は任意扱いとするため、コードが無い場合は、「Z」を記入する。	半角英数字	17	□	◎
		機器コード ※3	機器コードの記入は任意扱いとするため、コードが無い場合は、「ZZ」を記入する。	半角英数字	14	□	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で施工管理記録書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で施工管理記録書に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトウェア用 TAG		ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△	

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字2文字で全角文字1文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

- ※1) 施工管理記録書情報以下は、施工管理記録書情報の数分を複数繰り返し登録する。
- ※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。
- ※3) 施設コード及び機器コードは、施設コード及び機器コードの数分を複数繰り返し登録する。

- 【記入者】** □：電子成果品作成者が記入する項目。
▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。
- 【必要度】** ◎：必須記入。
○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）
△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- ・ 施工管理記録書管理項目は、電子成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 施工管理記録書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-9 取扱説明書管理項目（完成図書）

電気成果品（完成図書フォルダ）に格納する取扱説明書管理ファイル（BM.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-9 取扱説明書管理項目

分類・項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
取扱説明書名称	取扱説明書、サービス体制ファイルの標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎	
オリジナルファイル情報 ※2	取扱説明書オリジナルファイル名	取扱説明書のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
	取扱説明書オリジナルファイル日本語名	取扱説明書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトウェア名とバージョン情報	格納した取扱説明書オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは取扱説明書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	施設コード ※3	施設コードの記入は任意扱いとするため、コードが無い場合は、「Z」を記入する。	半角英数字	17	□	◎
	機器コード ※3	機器コードの記入は任意扱いとするため、コードが無い場合は、「ZZ」を記入する。	半角英数字	14	□	◎
その他	受注者説明文	受注者側で取扱説明書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	発注者説明文	発注者側で取扱説明書に関して特記すべき事項がある場合（発注者から指示を受けた場合）は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトウェア用TAG	ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△	

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字2文字で全角文字1文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

- ※1) 取扱説明書情報以下は、取扱説明書情報の数分を複数繰り返し登録する。
- ※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。
- ※3) 施設コード及び機器コードは、施設コード及び機器コードの数分を複数繰り返し登録する。

- 【記入者】** □：電子成果品作成者が記入する項目。
▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。
- 【必要度】** ◎：必須記入。
○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）
△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- ・取扱説明書管理項目は、電子成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・取扱説明書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・付属資料 1に管理ファイルの DTD、付属資料 2に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-10 施工計画書管理項目

電子成果品に格納する施工計画管理ファイル（PLAN.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-10 施工計画書管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
施工計画書情報※	シリアル番号	施工計画書の通し番号を記入する。提出時の電子媒体を通して、一連のまとまった施工計画書について、やむを得ない理由である場合は、中抜けしてもよい。12番目を、“00012”の様に0を付けて表現してはいけない。	半角数字	5	<input type="checkbox"/>	◎	
	施工計画書名称	施工計画書の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	◎	
	オリジナルファイル情報※	施工計画書オリジナルファイル名	施工計画書の文書、図面等のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
		施工計画書オリジナルファイル日本語名	施工計画書ファイルに関日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	△
		施工計画書オリジナルファイル作成ソフトウェア名とバージョン情報	格納した施工計画書オリジナルファイルの作成ソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは施工計画書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔にを記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で施工計画書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	△
		発注者説明文	発注者側で施工計画書に関して特記すべき事項がある場合（発注者から指示を受けた場合）は記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	△
		予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	△
ソフトウェア用TAG		ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。（複数記入可）	全角文字 半角英数字	127	▲	△	

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字2文字で全角文字1文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】 ：電子成果品作成者が記入する項目。

▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

【解説】

- ・ 施工計画書管理項目は、ルート直下の施工計画書フォルダに格納する電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 施工計画書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1に管理ファイルの DTD、付属資料 2に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- ・ 文書中に組み込む図、表、写真のオリジナルファイルの提出は不要である。オリジナルファイルの形式については監督職員と協議する。

4-11 打合せ簿管理項目

電子成果品に格納する打合せ簿管理ファイル (MEET.XML) に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-11 打合せ簿管理項目 (1/2)

分類・項目名		記 入 内 容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
打 合 せ 簿 情 報 ※	シリアル番号	打合せ簿の通し番号を記入する。連番を原則とするが、やむを得ない理由である場合は、中抜け(欠番)してもよい。12 番目を、“00012”の様に0を付けて表現してはいけない。	半角数字	5	<input type="checkbox"/>	◎	
	上位打合せ簿 シリアル番号	当該打合せ簿が派生した上位にあたる打合せ簿のシリアル番号を記入する。(本項目は、シリアル番号の属性として保持) 例)シリアル番号「5」の打合せ簿の上位にシリアル番号「20」の打合せ簿が該当する場合は、「20」と記入する。	半角英数字	15	<input type="checkbox"/>	○	
	下位打合せ簿 シリアル番号	当該打合せ簿から派生した下位にあたる打合せ簿のシリアル番号を記入する。(本項目はシリアル番号の属性として保持) 例)シリアル番号「5」の打合せ簿の下位にシリアル番号「20」の打合せ簿が該当する場合は、「20」と記入する。	半角英数字	15	<input type="checkbox"/>	○	
	工事帳票種類	「打合せ簿」「工事履行報告書」「材料確認書」「段階確認書」「確認・立会願」の工事帳票の鑑の種類を記入する。	全角文字 半角英数字	16	<input type="checkbox"/>	◎	
	打合せ簿種類	発議事項を記入する。 (「指示」「承諾」「協議」「提出」「報告」「通知」「確認」「立会」「その他」)	全角文字 半角英数字	16	<input type="checkbox"/>	◎	
	打合せ簿名称	打合せ簿の標題もしくは打合せ簿の内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	◎	
	管理区分	「施工計画」「施工体制」「施工管理」「安全管理」「工程管理」「出来形管理」「品質管理」「契約変更」「その他」等の管理区分を記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	○	
	関連資料	図面ファイル名	関連する図面がある場合は、図面管理項目の[図面ファイル名]を記入する。(複数記入可)	半角英数大文字	12 固定	<input type="checkbox"/>	△
		シリアル番号	関連する写真がある場合は、写真管理項目の[シリアル番号]を記入する。(複数記入可)	半角数字	7	<input type="checkbox"/>	△
	作成者	打合せ簿の作成者を記入する。 (受注者:現場代理人、主任技術者 等) (発注者:監督員 等)	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	◎	
提出先	打合せ簿の提出先(発注者、受注者)を記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	◎		

表 4-11 打合せ簿管理項目 (2/2)

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度		
打合せ簿情報※	発行日付	発行元が打合せ簿を発行した年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が1桁の数の場合「0」を付加して、必ず10桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例)平成22年4月1日 → 2010-04-01	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	<input type="checkbox"/>	◎		
	受理日付	提出先担当者(受注者:現場代理人、主任技術者等、発注者:監督員等)が打合せ簿を受理した年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が1桁の数の場合「0」を付加して、必ず10桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例)平成22年4月20日 → 2010-04-20	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	<input type="checkbox"/>	◎		
	完了日付	発注者又は受注者が処理・回答した年月日がある場合は CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が1桁の数の場合「0」を付加して、必ず10桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例)平成22年6月9日 → 2010-06-09	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	<input type="checkbox"/>	○		
	オリジナルファイル情報※	打合せ簿オリジナルファイル名	打合せ簿のファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎	
		打合せ簿オリジナルファイル日本語名	打合せ簿ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	△	
		工種区分※	工種	工種以下の分類が明確で記入可能であれば、新土木工事積算体系のレベル 2「工種」を記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	不要
			種別	工種以下の分類が明確で記入可能であれば、新土木工事積算体系のレベル 3「種別」を記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	不要
			細別	工種以下の分類が明確で記入可能であれば、新土木工事積算体系のレベル 4「細別」を記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	不要
		打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納した打合せ簿オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョンを記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	◎	
	オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは打合せ簿オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔にを記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	◎		
その他	受注者説明文	受注者側で打合せ簿に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	△		
	発注者説明文	発注者側で打合せ簿に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	△		
	予備	電子化が困難等の理由により受発注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	△		
ソフトウェア用 TAG		ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△		

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】 □：電子成果品作成者が記入する項目。

▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。(データが分かる場合は必ず記入する)

△：任意記入。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

【解説】

- ・ 打合せ簿管理項目は、電子成果品の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 打合せ簿管理項目は、ルート直下の打合せ簿フォルダに格納する電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 打合せ簿管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- ・ 施工中に授受する打合せ簿には、協議に対する回答として、別途指示を出すといったように、主従・継承関係を持っている場合がある。これらの関係がある場合は、「シリアル番号」の項目の属性情報として定義している「上位・下位打合せ簿シリアル番号」に関連する打合せ簿の「シリアル番号」を記入する。
- ・ 打合せ簿に関連する CAD 図面と工事写真がある場合は「関連資料」を記入する。
- ・ 関連する CAD 図面がある場合は、図面管理項目を参照して「図面ファイル名」を記入する。関連する写真がある場合は、写真管理項目を参照して「シリアル番号」を記入する。

- ・打合せ簿管理項目のオリジナルファイル情報は、1つの打合せ簿に使用されたオリジナルファイルを繰り返し登録する。

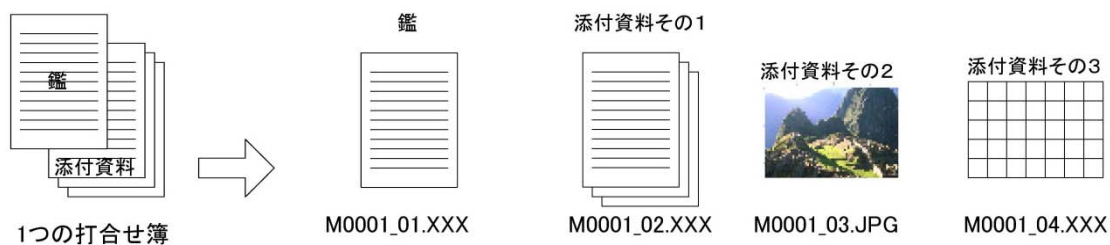


図 4-2 オリジナルファイル情報の登録

- ・文書中に組み込む図、表、写真のオリジナルファイルの提出は不要である。オリジナルファイルの形式については監督職員と協議する。

5 ファイル形式

電子成果品のファイル形式は、以下のとおりとする。

- 工事管理ファイル、施工図面・完成図ファイル、施工計画書管理、ファイル、打合せ簿管理ファイル、写真管理ファイル、その他管理ファイルのファイル形式はXML形式(XML1.0 に準拠)とする。
- 図面管理ファイルは国土交通省の「CAD 製図基準(案)」、地質情報管理ファイルは「地質・土質調査成果電子納品要領(案)」、写真管理ファイルは、「デジタル写真管理情報基準(案)」に準じる。
- 打合せ簿オリジナルファイルを作成するソフトは、基本的に word、excel、power point、画像ファイル (JPEG、TIFF)、HTML (情報共有を行った場合) とする。PDF で納品する場合は、事前に発注者と協議する。
- 施工計画書オリジナルファイルは、基本的に word、excel、powerpoint、画像ファイル (JPEG、TIFF)、HTML (情報共有を行った場合) とする。オリジナルファイルと合わせて PDF で納品することが望ましい。
- 施工図面・完成図ファイルのファイル形式は SFX (sfc 形式) とする。
- 完成図書フォルダの各サブフォルダに格納するファイルの形式は PDF 形式とする。
- 写真ファイルの形式は、JPEG とする。ただし、参考図ファイルは、JPEG 又は TIFF 形式とする。
- 地質・土質調査データのファイル形式は国土交通省の「地質・土質調査成果電子納品要領(案)」に準じる。
- 各管理ファイルのスタイルシートの作成は任意とするが、作成する場合は XSL に準じる。

【解説】

- ・ 工事管理ファイルおよび各管理ファイルのファイル形式は XML 形式とする。
- ・ 台帳、施工計画書、打合せ簿のオリジナルファイルとして登録される図面等については、必ずしも「CAD 製図基準(案)」に従う必要はない。
- ・ 施工図面・完成図フォルダに格納する電子データのファイル形式の詳細は、付属資料 3を参考とする。
- ・ 各管理ファイルの閲覧性を高めるため、スタイルシートを用いてもよいが、XSL に準じて作成する。スタイルシートを作成した場合は、各管理ファイルと同じ場所に格納する。
- ・ 拡張子が 4 文字以上、ファイル間でリンクや階層を持った資料など、本要領によがたい場合は、ファイルを圧縮して、該当するフォルダに格納する。圧縮ファイル形式は監督職員と協議し、決定する。
- ・ 受発注者協議により、オリジナルファイルから変換した PDF ファイルも格納可 とする。
- ・ データを変換して作成したファイルを納品する場合は、「オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報」へは変換ソフト名を記入する。

6 ファイルの命名規則

電子成果品のファイルの命名規則は、以下のとおりとする。

- ・ファイル名・拡張子は、半角英数大文字とする。
- ・ファイル名 8 文字以内、拡張子 3 文字以内とする。
- ・工事管理ファイルは「INDEX_MC.XML」とし、工事管理ファイルの DTD は「IND_MC03.DTD」（03 は版番号）とする。
- ・各管理ファイルのスタイルシートのファイル名は、「INDE_MC03.XSL」、「REG_M01.XSL」、「OTHR03.XSL」とする。
- ・台帳管理ファイルは「REGIST_M.XML」とし、DTD は「REG_M01.DTD」（01 は版番号）とする。
- ・台帳オリジナルファイルの命名規則は次図の通り。
なお、別に作成要領等で規定されている場合は、それに従うものとする。

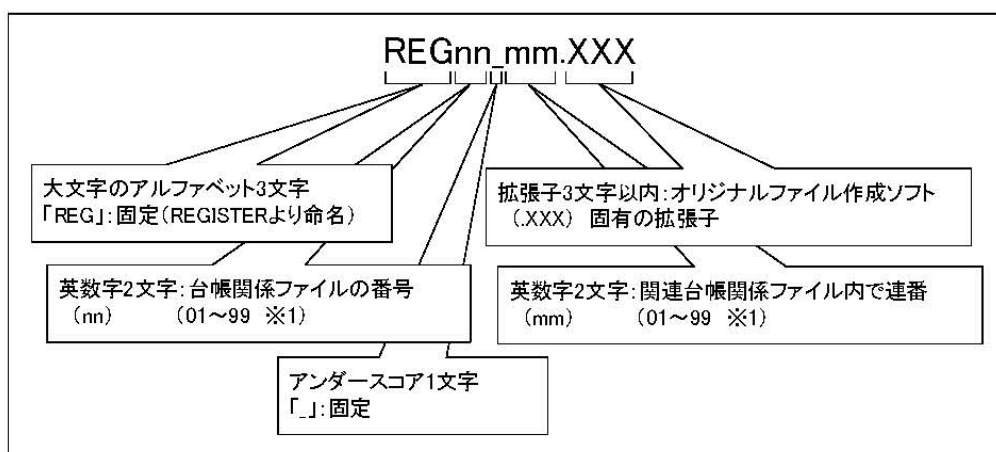


図 6-1 台帳オリジナルファイルの命名規則

- ・その他管理ファイルは「OTHERS.XML」とし、DTD は「OTHERS03.DTD」（03 は版番号とする。）
- ・完成図書フォルダのサブフォルダに格納する管理ファイルは次のとおり。
 - * B 実施仕様書管理ファイルは「BS.XML」とし、DTD は「SPC03.DTD」（03 は版番号）とする。
 - * B 計算書管理ファイルは「BC.XML」とし、DTD は「CHECK03.DTD」（03 は版番号）とする。
 - * B 施工図管理ファイルは「BI.XML」とし、DTD は「INST03.DTD」（03 は版番号）とする。
 - * B 機器図管理ファイルは「BD.XML」とし、DTD は「DEVICE03.DTD」（03 は版番号）とする。
 - * B 施工管理記録書管理ファイルは「BE.XML」とし、DTD は「EXAM03.DTD」（03 は版番号）とする。

* B 取扱説明書管理ファイルは「BM.XML」とし、DTDは「MANUAL03.DTD」(03は版番号)とする。

- 完成図書/B 実施仕様書ファイル
完成図書/B 実施仕様書フォルダに入れる B 実施仕様書ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

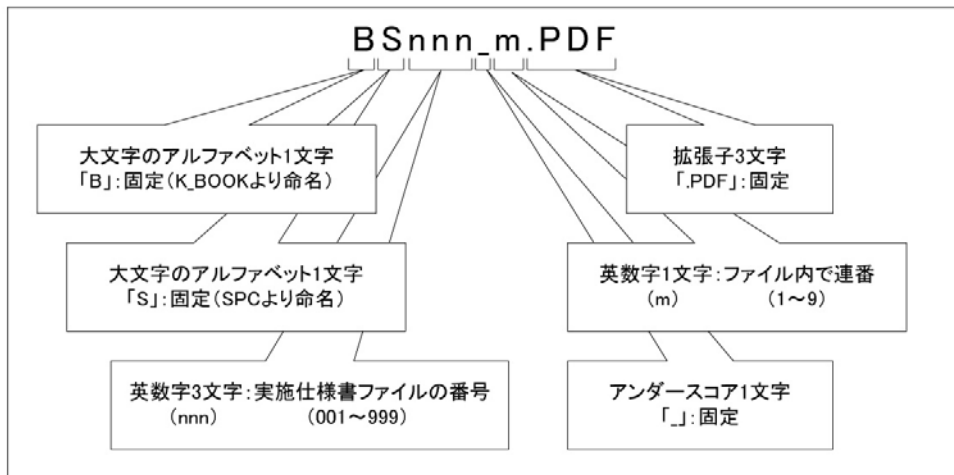


図 6-2 B 実施仕様書ファイルの命名規則

- 完成図書/B 計算書・検討書・数量表ファイル
完成図書/B 計算書フォルダに入れる B 計算書・検討書・数量表ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

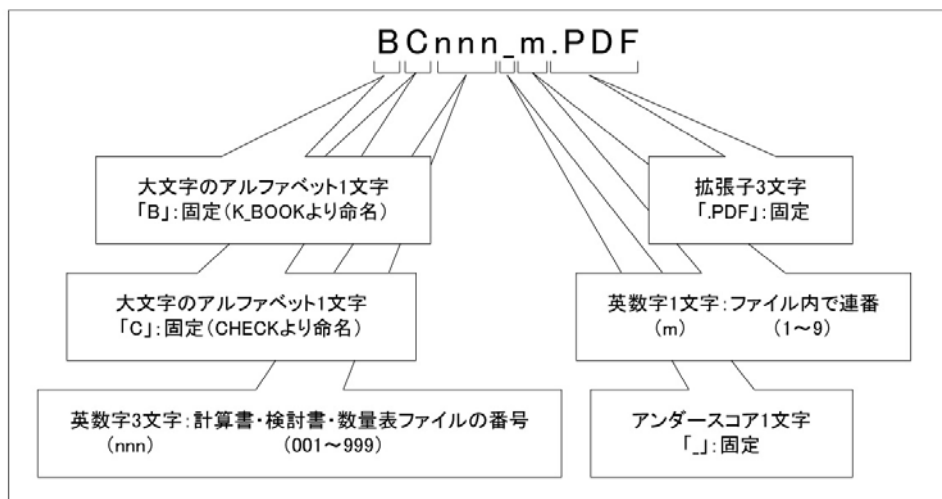


図 6-3 B 計算書・検討書・数量表ファイルの命名規則

・完成図書／B 施工図ファイル

完成図書／B 施工図フォルダに入れるB 施工図ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

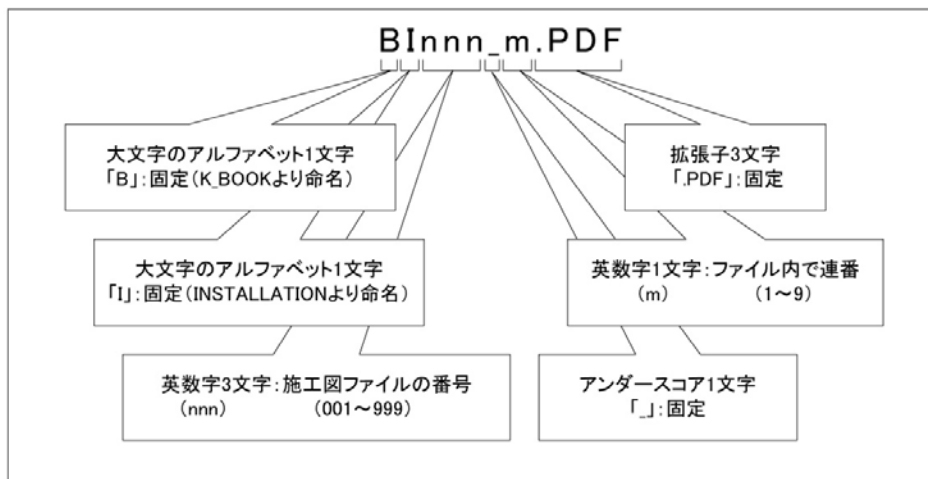


図 6-4 B 施工図ファイルの命名規則

・完成図書／B 機器図ファイル

完成図書／B 機器図フォルダに入れるB 機器図ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

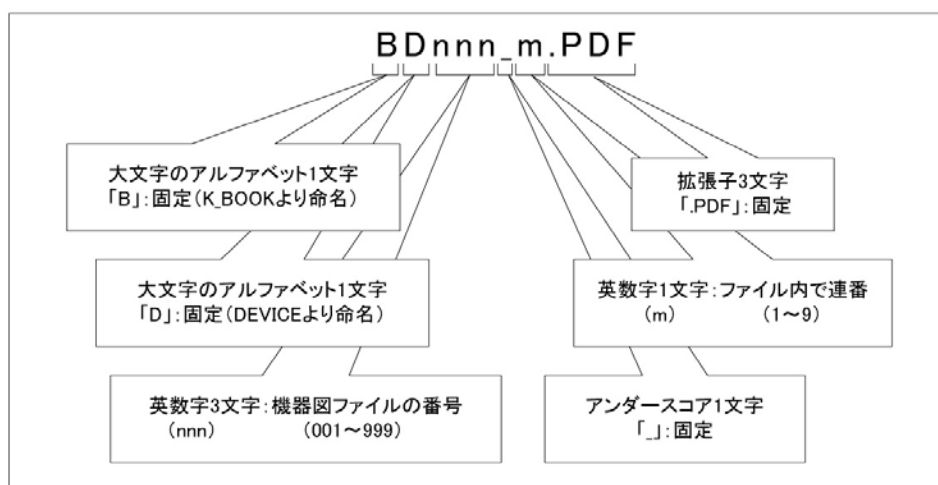


図 6-5 B 機器図ファイルの命名規則

・完成図書／B 施工管理記録書ファイル

完成図書／B 施工管理記録書フォルダに入れる B 施工管理記録書(品質管理(試験成績書等)、出来形管理、工程管理) ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

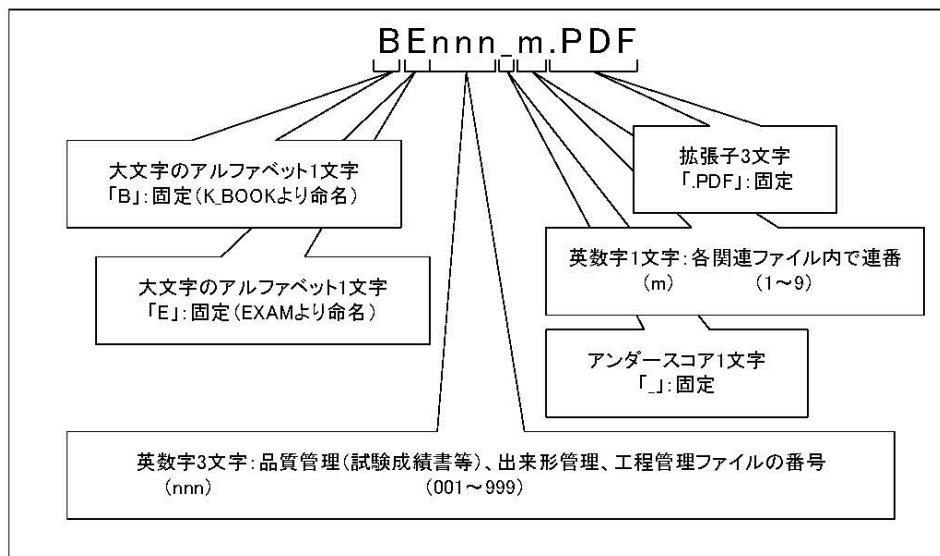


図 6-6 B 施工管理記録書ファイルの命名規則

・完成図書／B 取扱説明書ファイル

完成図書／B 取扱説明書フォルダに入れるB 取扱説明書(全体設備取扱説明書、機器取扱説明書、サービス体制等) ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

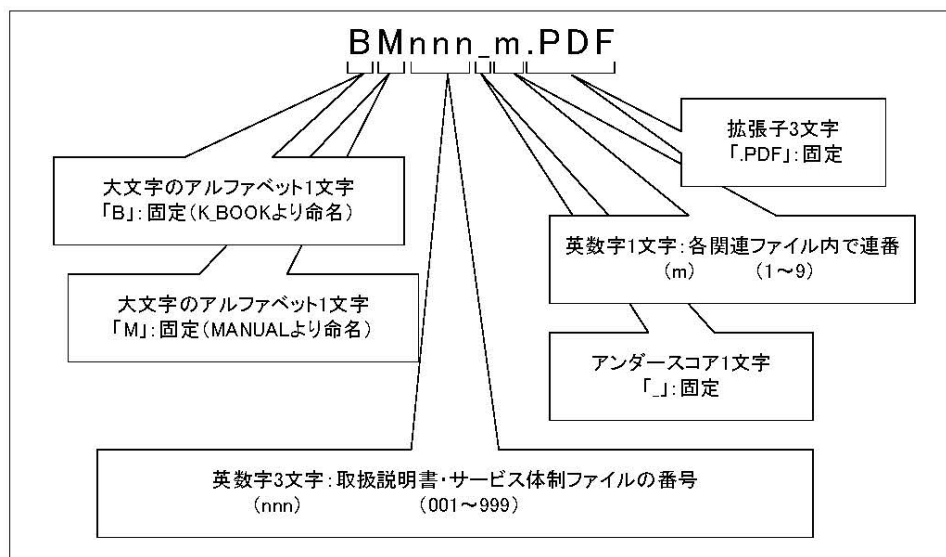


図 6-7 B 取扱説明書ファイルの命名規則

- 施工計画書管理ファイルは「PLAN.XML」とし、DTDは「PLAN03.DTD」（03は版番号）とする。
- 施工計画書オリジナルファイルの命名規則は次図の通り。

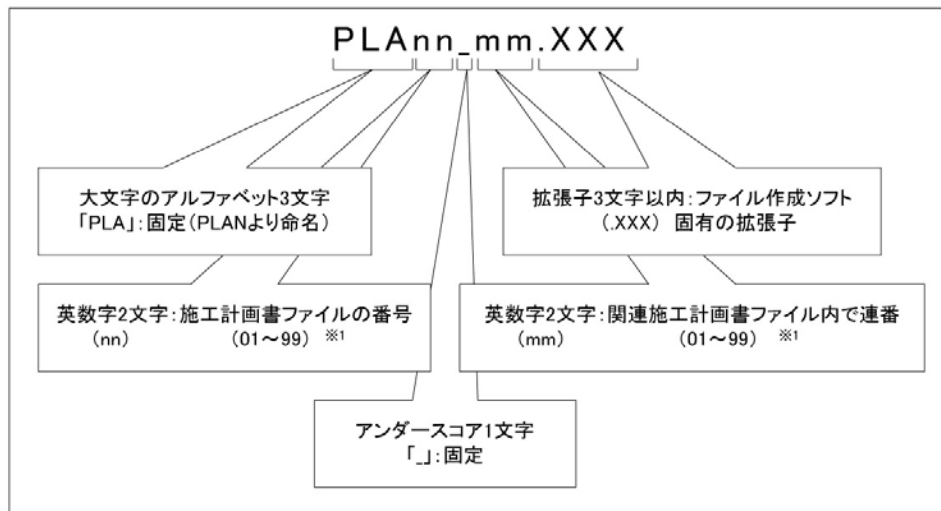


図 6-8 施工計画書ファイルの命名規則

- 打合せ簿管理ファイルは「MEET.XML」とし、DTDは「MEET03.DTD」（03は版番号）とする。

打合せ簿オリジナルファイルの命名規則は次図の通り。

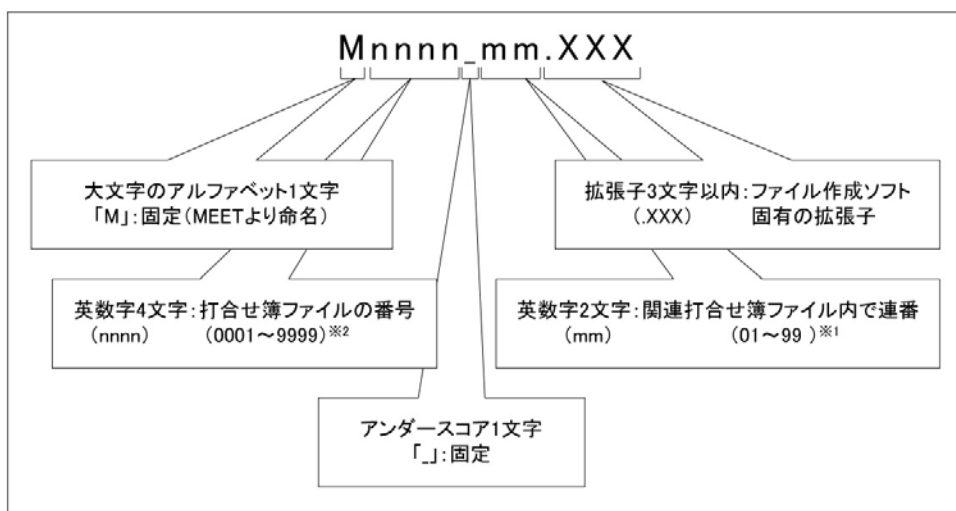


図 6-9 打合せ簿ファイルの命名規則

情報共有システムから工事帳票を出力する場合のファイルの命名規則は、以下のとおりとする。

- ・ファイル名・拡張子は、半角英数大文字とする。
- ・ファイル名 8 文字以内、拡張子 3 文字以内とする。
- ・工事管理ファイルは「INDEX_MC.XML」とし、工事管理ファイルの DTD は「IND_MC03.DTD」（03 は版番号）とする。
- ・その他管理ファイルは「OTHERS.XML」とし、DTD は「OTHERS03.DTD」（03 は版番号）とする。
- ・各管理ファイルのスタイルシートのファイル名は、「IND_MC03.XSL」、「LAN03.XSL」、「MEET03.XSL」、「OTHR03.XSL」とする。

【解説】

(1) 共通規則

- ・ファイル名の文字数は、半角(1 バイト文字)で 8 文字以内、拡張子 3 文字以内とする。ファイル名に使用する文字は、半角(1 バイト文字)で、大文字のアルファベット「A～Z」、数字「0～9」、アンダースコア「_」とする。
- ・オリジナルファイルの通し番号は、工事の経緯がわかるように日付昇順に付番号することを基本とする。
- ・「ORGnnn」サブフォルダに格納するファイル名は、上記の規則に準じ、監督職員と協議する。

(2) オリジナルファイル

1 つの文書に対し、オリジナルファイルが複数存在する場合がある。この場合、ファイル名から内容が想定できるように、ファイル名の付け方を規定し、01 からの連番により、ファイルを区別することを基本とするが、欠番があっても構わない。

例) ワープロソフトファイル : M0001_01.XXX

ワープロソフトファイル : M0001_02.XXX

表計算ソフトファイル : M0001_03.XXX

(3) 連番の扱い

(※1 について)

連番が 100 を超える場合は、以下のようにアルファベットを用いる。

例) 100～109 の場合…A0～A9

110～119 の場合…B0～B9

120～129 の場合…C0～C9

(※2 について)

連番が 9999 を超える場合は、以下のようにアルファベットを用いる。

例) 10000～10999 の場合…A000～A999

11000～11999 の場合…B000～B999

12000～12999 の場合…C000～C999

7 電子成果品

7-1 電子成果品

電子媒体へ格納された情報は、次の条件を満たさなければならない。

- 1 情報の真正性が確保されていること。
- 2 情報の見読性が確保されていること。
- 3 情報の保存性が確保されていること。

【解説】

- ・電子成果品が第三者により書き換えられないようにするため、電子成果品に格納する成果品には、真正性、見読性及び保存性を確保する必要がある。
- ・真正性の確保とは、正当な人が作成した電子成果品の情報(文書、図面等)に対して第三者の確認により作成の責任と所在が明確であるとともに、故意または過失による虚偽記入、書き換え、消去等が防止されていることである。
- ・見読性の確保とは、電子媒体に格納された情報(文書、図面等)を必要・目的に応じてパソコン等電子機器を用いて速やかに確認可能な状態を確保することである。
- ・保存性の確保とは、電子成果品の情報(文書、図面等)が、規程で定められた期間において真正性と見読性を満足した状態で保存することである。
- ・上記の 3 条件を満たす電子的な情報の手段として、CD-R 又は DVD-R(一度しか書き込みができないもの)の使用を原則とする。
- ・CD-R の論理フォーマットは、ISO9660 (レベル 1)を原則とし、DVD-R にデータを記録する (パソコンを使って記録する) 際のファイルシステムの論理フォーマットは、UDF (UDF Bridge) とする。
- ・基本的には、1 枚の CD-R 又は DVD-R に情報を格納する。
- ・複数枚の電子媒体になる場合は、「7-3 媒体が複数に渡る場合の処置」に従う。

7-2 電子媒体の表記規則

- 電子媒体には、「契約番号」、「工事名称」、「作成年月」、「発注者名」、「受注者名」、「何枚目／全体枚数」、「ウイルスチェックに関する情報」、「フォーマット形式」、「監督職員署名欄」、「現場代理人署名欄」を明記する。
- 電子媒体を収納するケースの背表紙には、「契約番号」、「工事名称」、「作成年月」、「発注者名」、「受注者名」を横書きで明記する。

【解説】



図 7-1 電子媒体・ケースへの表記例

- 電子媒体には、必要項目を表面に直接印刷、または油性フェルトペンで表記し、表面に損傷を与えないよう注意する。
- シールによっては温湿度の変化で伸縮し、電子媒体に損傷を与えることがあるため、シールは使用しない。
- 監督職員署名欄、現場代理人署名欄は、受発注者双方が、油性フェルトペンにて記述又は押印する。
- 「ウイルスチェックに関する情報」は、使用した「ウイルス対策ソフト名」「ウイルス定義年月日」もしくは「パターンファイル名」、「チェック年月日」を明記する。ウイルス対策の詳細は「8-1 ウイルス対策」に示す。
- プラスチックケースのラベルの背表紙には、以下の例のように記載する。工事名が長く書ききれない場合は先頭から書けるところまで記入する。

例： 平成〇〇年度〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇工事 平成〇〇年〇月
 (長い場合) 平成〇〇年度〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 平成〇〇年〇月

7-3 成果品が複数枚に渡る場合の処置

- ・電子成果品は、原則1枚の電子媒体に格納する。
- ・データが容量的に1枚の電子媒体に納まらず複数枚になる場合は、同一の工事管理ファイル（INDEX_MC.XML）を各電子媒体のルート直下に格納する。ただし、基礎情報の「メディア番号」には該当する番号を記入する。
- ・各フォルダにおいても同様に、同一の管理ファイルを各電子媒体に格納する。
- ・工事管理ファイルの基礎情報の「メディア番号」は、ラベルに明記してある何枚目／全体枚数と整合を取る。

【解説】

- ・成果品を複数枚の電子媒体に分けて格納する場合の例を下図に示す。
（下図は例であるため設備工事編でなく、工事編のフォルダ構成）

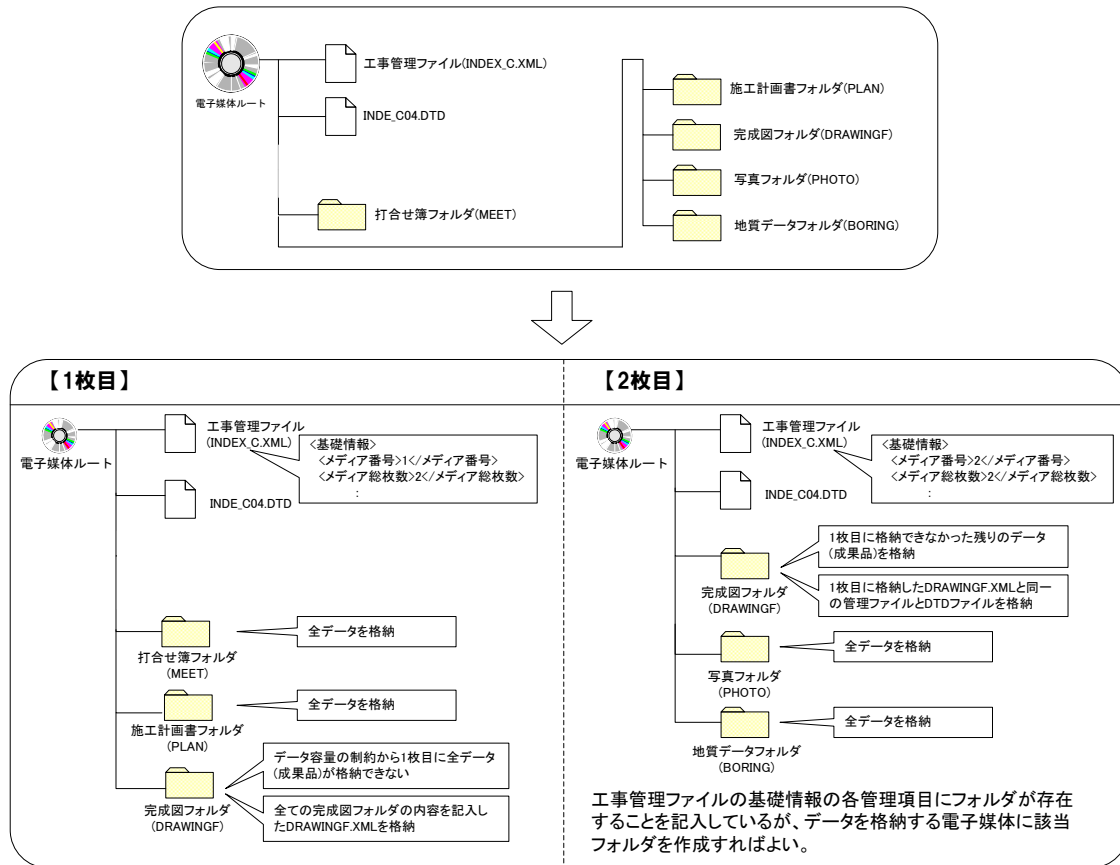


図 7-2 成果品が複数枚に渡る場合の電子媒体への格納例

- ・工事管理ファイルの基礎情報の「メディア番号」は、ラベルに明記してある何枚目／全体枚数と整合を取る。

8 その他留意事項

8-1 ウイルス対策

- ・受注者は、電子成果品が完成した時点で、ウイルスチェックを行う。
- ・ウイルス対策ソフトは特に指定はしないが、信頼性の高いものを利用する。
- ・最新のウイルスも検出できるように、ウイルス対策ソフトは常に最新のデータに更新（アップデート）したものを利用する。
- ・電子媒体の表面には、「使用したウイルス対策ソフト名」、「ウイルス（パターンファイル）定義年月日またはパターンファイル名」、「チェック年月日（西暦表示）」を明記する。

8-2 使用文字

- ・本規定は、管理ファイル（XML 文書）を対象とする。
- ・使用できる半角文字は、JIS X 0201 で規定されている文字から片仮名用図形文字を除いたラテン文字用図形文字のみとする。
- ・使用できる全角文字は、JIS X 0208 で規定されている文字から数字とラテン文字を除いた文字のみとする。

【解説】

(1) 管理ファイルのデータ表現形式

使用文字の一般原則は上記の通りであり、管理ファイルでの文字の表現方法は、一般原則に従っている。以下に、管理ファイルでの文字の表現方法を解説する。

1) 全角文字

管理ファイルのデータ表現形式に示す「全角文字」とは、JIS X 0208 で規定されている文字から数字とラテン文字を除いた文字をいう。すなわち、全角文字には、漢字、数字ラテン文字（a～z、A～Z）、ギリシャ文字、記号などがあるが、のうち全角の数字、ラテン文字は使用できない。全角文字を使用する項目では、必ず半角英数字も合わせて使用出来るので、「平成27年」といったデータでは“27”を半角文字とする。

2) 半角英数字

同じく「半角英数字」とは、JIS X 0201 で規定されている文字から片仮名用図形文字（半角カタカナ、日本語文で使用する半角の記号（句点（。）、カギ括弧（「）、（」）、読点（、）、中点（・）、濁点（ゝ）、半濁点（゜）））を除いた文字をいう。

3) 半角英数大文字

同じく「半角英数大文字」とは、「半角英数字」からラテン小文字（a～z）を除いた文字をいう。半角英数大文字を使用する項目は、フォルダ名やファイル名といった命名規則が決められている場合があるので、命名規則に従ってデータを入力する。

4) 半角数字

同じく「半角数字」とは、JIS X 0201 で規定されている文字のうち数字（0～9）及び小数点（.）をいう。

(2) 留意事項

機種依存文字（例えば、丸囲い数字、ローマ数字、(株)、No.、kg、m²、地名や人名等の特殊漢字等）、利用者が独自に作成した外字等は、他の端末では表示できない場合もあるので使用しない。また、数字やラテン文字も全角、半角を混在して使用すると検索する上で問題となるため、数字やラテン文字は半角文字で統一する。

8-3 オリジナルファイルの電子化について

- ・ 図面等は、基本的には文書ファイルにリンクまたは貼り付けて管理する。
- ・ 貼り付けられた図面等は、管理ファイルで管理を行わず文書内容で図面等を判断できればよい。
- ・ 貼り付けていない図表等は文書ファイルと分離した形で管理ファイルにおいて管理する。なお、管理ファイルでは、図表等の位置（ページ数、図表番号等）を管理しない。

【解説】

オリジナルファイルに貼り付けられた図表は、管理ファイルによる管理を行わないとともに図表等の位置も管理しない。

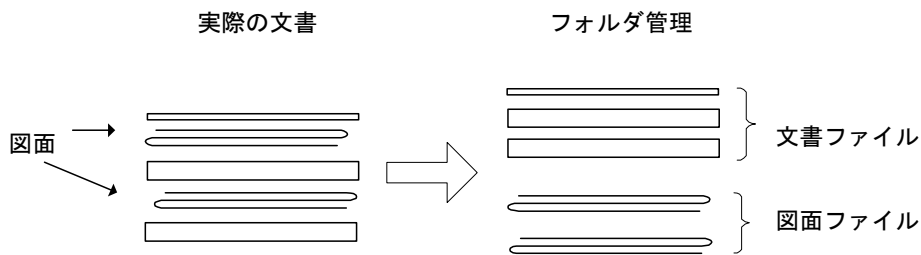


図 8-1 図表等の取り扱いイメージ

8-4 施工中に紙資料で交換・共有した書類の取り扱い

品質証明書、カタログ、見本など、電子化されていない資料については、PDF化等により可能な限り納品することが望ましい。

8-5 情報共有システム

情報共有システムは、工事の施工段階で打合せ簿等の各種書類の提出や承認といった日々のやりとりを、インターネットを介して大阪府建設CALSシステム上で行うものである。

このシステムを利用することにより、インターネットで提出承認されたデータがサーバに蓄積されるため、書類の紛失・破損防止や書類の提出のためだけの移動といった時間・経費の削減が可能となり、より適正で効率的な公共事業の執行が期待できる。

施工中の書類のやりとりは、本システムを介して行うこととなるが、公印や社印が必要な書類については、オリジナルデータとして電子化するとともに従来通り紙での提出とする。

また、情報共有システムを利用して、成果品を作成した案件については電子媒体（CD-R等）の提出を不要とする。

【解説】

情報共有システムの対象範囲は以下のとおりであり、今後順次拡大を図るものとする。

- ・設備工事のうち全プラント工事（一部試行）

上記案件以外にも、情報共有システムの利用について、受発注者間で協議の整ったものについては対象とする。

情報共有システムを利用した打合せ簿等の提出書類については、押印の必要はない。ただし、公印等の必要な書類は除く。

8-6 電子納品チェックシステム

電子納品チェックシステムは、CD-R等に格納された電子成果品が電子納品要領に整合しているかの確認作業を支援するために提供するシステムです。

このシステムを利用することにより、電子成果品の管理ファイル（XMLファイル）、ファイル名、フォルダ名等が適用する電子納品要領に従っているか否かを確認し、受注者及び監督職員における電子成果品のチェックの作業負担軽減及び効率的な業務処理を図るものである。

受注者は、電子成果品を監督職員に提出する際、事前に電子納品チェックシステムでチェックし、システムから出力されるチェック結果を併せて提出すること。

ただし、本システムでは、成果品（報告書やCAD図面など）の内容を確認することはできません。

【解説】

設備工事編における電子納品チェックシステムは、以下、国土交通省の「電子納品チェックシステム（機械）」により行うこと。

http://www.cals-ed.go.jp/ed_what/

チェック結果は、エラーが無いことが基本であるが、受発注者間での合意があれば、この限りではない。

8-7 写真の画素数（ファイルの大きさ等）

ファイル仕様は、以下の通りとする。

写真ファイル：JPEG

参考図ファイル：JPEG もしくは TIFF

【解説】

写真データの画像ファイル形式は、JPEG とする。また、有効画素数を大きくすると、ファイル容量が大きくなり、電子媒体が複数枚になるとともに、操作性も悪くなるので、有効画素数は、黒板の文字が確認できる程度（100 万画素程度）を基本とするが、現在のデジタルカメラの性能から鑑み、これによらない場合も是とする。

デジタルカメラにおけるファイル容量の一例

画像サイズ (pixels)	画質	画像ファイルサイズ
12M (4000×3000)	高精細-F	約 7.87MB
	標準-N	約 4.13MB
	エコノミー-E	約 2.76MB
8M (3264×2448)	高精細-F	約 4.59MB
	標準-N	約 2.46MB
	エコノミー-E	約 1.67MB
5M (2560×1920)	高精細-F	約 2.99MB
	標準-N	約 1.62MB
	エコノミー-E	約 1.12MB
3M (2048×1536)	高精細-F	約 1.26MB
	標準-N	約 790KB
	エコノミー-E	約 470KB
VGA (640×480)	高精細-F	約 330KB
	標準-N	約 190KB
	エコノミー-E	約 140KB

8-8 工事検査

電子納品された成果物の書類検査は、発注者が電子データで検査することを原則とするが、検査を効率的に行うために以下のように定める。

- ・電子成果物により検査を行う書類の範囲は、検査を効率的に行う観点から、受発注者間の協議により取り決めるものとする。
- ・書類検査を行うための準備（検査用機器等）は、原則として発注者が行う。

【解説】

検査の準備は原則として発注者が行い、建設 CALS/EC を推進するためにも出来るだけ電子データで検査を行う事が望ましい。

(1) 電子成果物により検査を行う書類の範囲

基本的には、電子化を行ったすべての成果品に対して行う。

(2) 書類検査用機器構成

標準的な機器構成は以下のとおりである。

- ・パソコン
- ・プロジェクタ
- ・スクリーン

(3) 閲覧用ソフトウェア

検査時における書類の閲覧は、発注者の用意する電子納品検査閲覧ソフトを利用するものとする。ただし、受注者からの申し出があれば、市販の電子媒体作成用ソフト等の検索・閲覧機能を利用することもできる。ただしその場合、機器類は受注者が用意する。

(4) 機器の操作

検査官が閲覧を希望する書類の検索・表示を行うための機器の操作は、原則として受注者が行う。受注者は電子媒体の内容や閲覧用ソフトの機能を熟知するものを、操作補助員としてつけても良い。また、検査を効率的に行うために受注者は、余分に電子納品媒体（CD-R 等）、パソコン等を監督員との協議により準備する。

8-9 電子納品の適用範囲

工事の電子納品の適用範囲は以下のとおりとし、普及啓発を図りながら順次拡大をめざすものとする。

- ・設備工事のうち、プラント工事の全案件

【解説】

上記案件以外にも、受注者より電子納品の申し出があったもの（部分的な電子納品含む）及び受発注者間で協議の整ったものについては、電子納品の対象とする。

付属資料 1 管理ファイルの DTD

各管理ファイルの DTD を以下に示す。なお、DTD ファイルは、電子納品 Web サイト (<http://www.cals-ed.go.jp/>) から入手できる。

1 工事管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体に格納する工事管理ファイル (INDEX_MC.XML) の DTD (IND_MC03.DTD) を以下に示す。

```
<!--IND_MC03.DTD / 2012/12 -->
<!ELEMENT constdata (基礎情報, 工事件名等, 場所情報?, 発注者情報, 受注者情報, 予備*, ソフトメーカー TAG*)>
<!ATTLIST constdata DTD_version CDATA #FIXED "03">

<!-- 基礎情報 -->
<!ELEMENT 基礎情報 (メディア番号, メディア総枚数, 適用要領基準, 施工図面完成図フォルダ名?, 台帳フォルダ名?, 台帳オリジナルファイルフォルダ情報*, 地質データフォルダ名?, その他フォルダ名?, その他オリジナルファイルフォルダ情報*, 完成図書フォルダ名?, B 実施仕様書フォルダ名?, B 計算書フォルダ名?, B 施工図フォルダ名?, B 機器図フォルダ名?, B 施工管理記録書フォルダ名?, B 取扱説明書フォルダ名?, 写真フォルダ名?, 施工計画書フォルダ名?, 施工計画書オリジナルファイルフォルダ名?, 打合せ簿フォルダ名?, 打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名?)>

<!ELEMENT メディア番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT メディア総枚数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 適用要領基準 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工図面完成図フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 台帳フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 台帳オリジナルファイルフォルダ情報 (台帳オリジナルファイルフォルダ名, 台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名)>
    <!ELEMENT 台帳オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 地質データフォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT その他フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT その他オリジナルファイルフォルダ情報 (その他オリジナルファイルフォルダ名, その他オリジナルファイルフォルダ日本語名)>
    <!ELEMENT その他オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT その他オリジナルファイルフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 完成図書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 実施仕様書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 計算書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 施工図フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 機器図フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 施工管理記録書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 取扱説明書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 写真フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>
```

<!-- 工事件名等 -->

<!ELEMENT 工事件名等 (発注年度, 工事番号, 工事名称, 施工金額, 工事実績システム登録番号, 工事分野, 工事業種, 工種-工法型式+, 住所情報+, 工期開始日, 工期終了日, 工事内容)>

<!ELEMENT 発注年度 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事番号 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事名称 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 施工金額 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事実績システム登録番号 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事分野 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事業種 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工期開始日 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工期終了日 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事内容 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工種-工法型式 (工種+, 工法型式+)>

<!ELEMENT 工種 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工法型式 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 住所情報 (住所コード+, 住所+)>

<!ELEMENT 住所コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT 住所 (#PCDATA)>

<!-- 場所情報 -->

<!ELEMENT 場所情報 (測地系?, 水系-路線情報*, 境界座標情報?)>

<!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>

<!-- 水系-路線情報 -->

<!ELEMENT 水系-路線情報 (対象水系路線名?, 現道-旧道区分?, 対象河川コード*, 左右岸上下線コード*, 測点情報*, 距離標情報*)>

<!ELEMENT 対象水系路線名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 現道-旧道区分 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 対象河川コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT 左右岸上下線コード (#PCDATA)>

<!-- 測点情報 -->

<!ELEMENT 測点情報 (起点側測点-n?, 起点側測点-m?, 終点側測点-n?, 終点側測点-m?)>

<!ELEMENT 起点側測点-n (#PCDATA)>

<!ELEMENT 起点側測点-m (#PCDATA)>

<!ELEMENT 終点側測点-n (#PCDATA)>

<!ELEMENT 終点側測点-m (#PCDATA)>

<!-- 距離標情報 -->

<!ELEMENT 距離標情報 (起点側距離標-n?, 起点側距離標-m?, 終点側距離標-n?, 終点側距離標-m?)>

<!ELEMENT 起点側距離標-n (#PCDATA)>

<!ELEMENT 起点側距離標-m (#PCDATA)>

<!ELEMENT 終点側距離標-n (#PCDATA)>

<!ELEMENT 終点側距離標-m (#PCDATA)>

<!-- 境界座標情報 -->

<!ELEMENT 境界座標情報 (西側境界座標経度, 東側境界座標経度, 北側境界座標緯度, 南側境界座標緯度)>

<!ELEMENT 西側境界座標経度 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 東側境界座標経度 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 北側境界座標緯度 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 南側境界座標緯度 (#PCDATA)>

<!-- 発注者情報 -->

<!ELEMENT 発注者情報 (発注者-大分類, 発注者-中分類, 発注者-小分類, 発注者コード)>

<!ELEMENT 発注者-大分類 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 発注者-中分類 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 発注者-小分類 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 発注者コード (#PCDATA)>

<!-- 受注者情報 -->

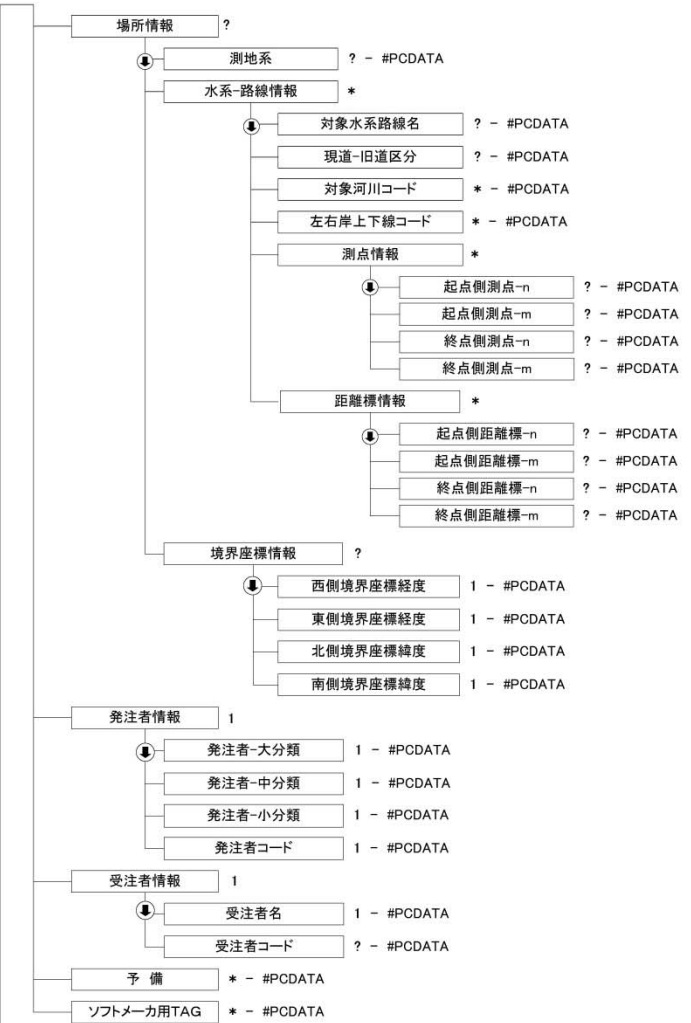
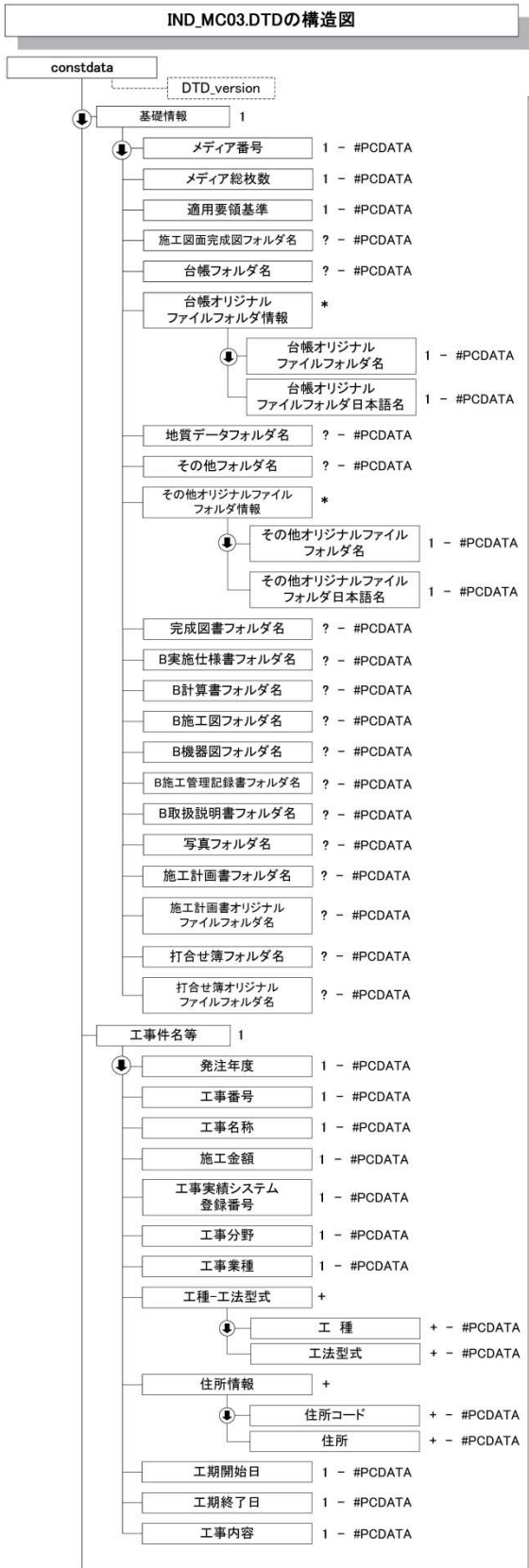
<!ELEMENT 受注者情報 (受注者名, 受注者コード?)>

<!ELEMENT 受注者名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 受注者コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>



↓ : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

2 その他管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体に添付するその他管理ファイル (OTHERS.XML の DTD (OTHERS03.DTD) を以下に示す。

```
<!--OTHERS03.DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT othrsdata (サブフォルダ情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>  
<!ATTLIST othrsdata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!-- サブフォルダ情報 -->
```

```
<!ELEMENT サブフォルダ情報 (その他サブフォルダ名, その他サブフォルダ日本語名?, その他資料情報*)>
```

```
  <!ELEMENT その他サブフォルダ名 (#PCDATA)>
```

```
  <!ELEMENT その他サブフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
```

```
<!-- その他資料情報 -->
```

```
<!ELEMENT その他資料情報 (資料名, オリジナルファイル情報*, その他?)>
```

```
  <!ELEMENT 資料名 (#PCDATA)>
```

```
<!-- オリジナルファイル情報 -->
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (シリアル番号, オリジナルファイル名, オリジナルファイル日本語名?, オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容)>
```

```
  <!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>
```

```
  <!ELEMENT オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
```

```
  <!ELEMENT オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
```

```
  <!ELEMENT オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
```

```
  <!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!-- その他 -->
```

```
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
```

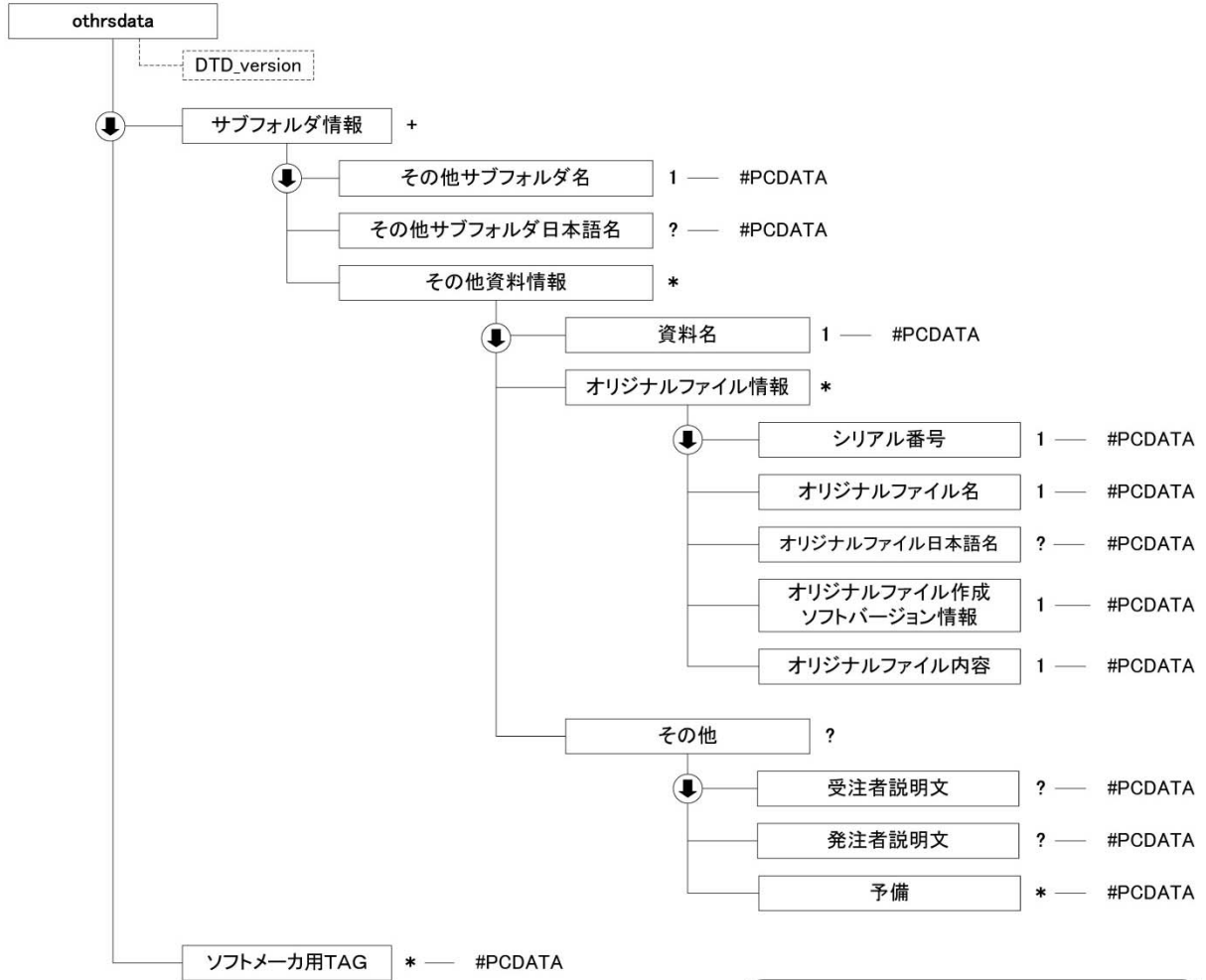
```
  <!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
  <!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
  <!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

OTHR03.DTDの構造図



- ↓ : 上から順に記述することを示す。
- 1 : 必ず、1回記述する。
- ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
- + : 必ず、1回以上記述する。
- * : 記述は任意。複数の記述を認める。

3 B 実施仕様書管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する実施仕様書管理ファイル（BS.XML）の DTD（SPC03.DTD）を以下に示す。

```
<!--SPC03.DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT specdata (実施仕様書情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
```

```
<!ATTLIST specdata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!ELEMENT 実施仕様書情報 (実施仕様書名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>
```

```
<!ELEMENT 実施仕様書名称 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (実施仕様書オリジナルファイル名, 実施仕様書オリジナルファイル日本語名?, 実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コード+)>
```

```
<!ELEMENT 実施仕様書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 実施仕様書オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
```

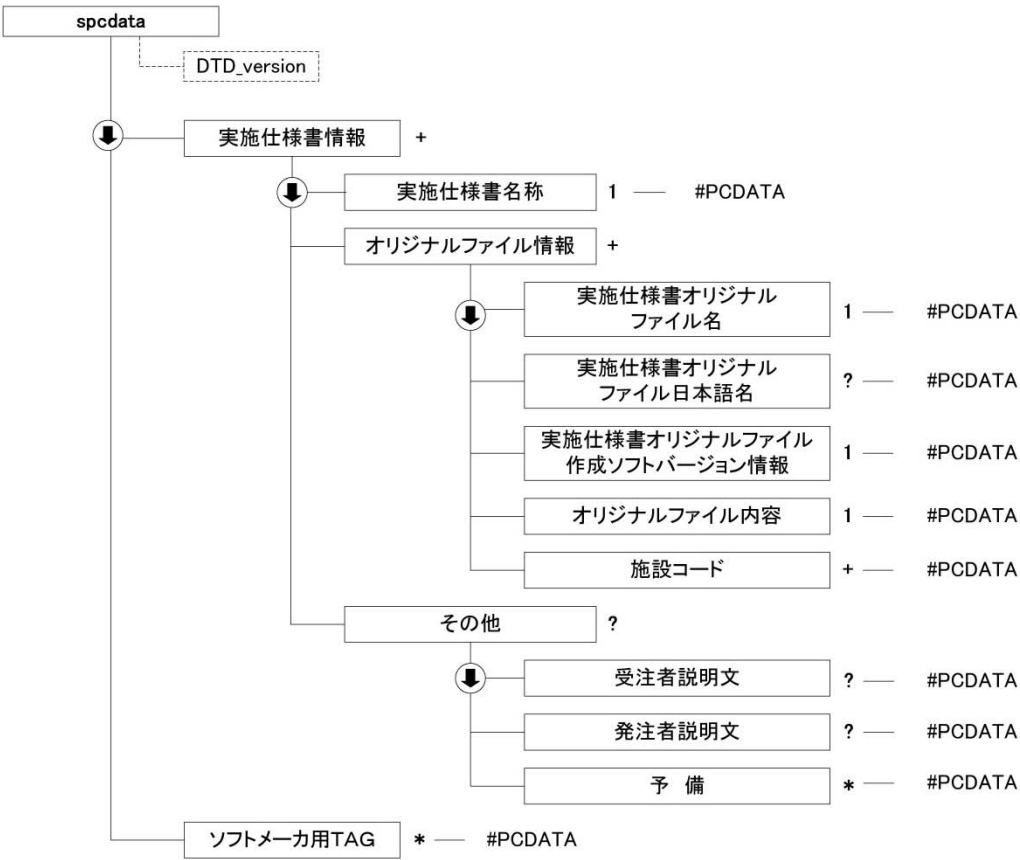
```
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

SPC03.DTDの構造図



↓ : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

4 B 計算書管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する計算書管理ファイル（BC.XML）の DTD（CHECK03.DTD）を以下に示す。

```
<!--CHECK03.DTD / 2012/12 -->
<!ELEMENT checkdata (計算書情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
<!ATTLIST checkdata DTD_version CDATA #FIXED "03">

<!ELEMENT 計算書情報 (計算書名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>

<!ELEMENT 計算書名称 (#PCDATA)>

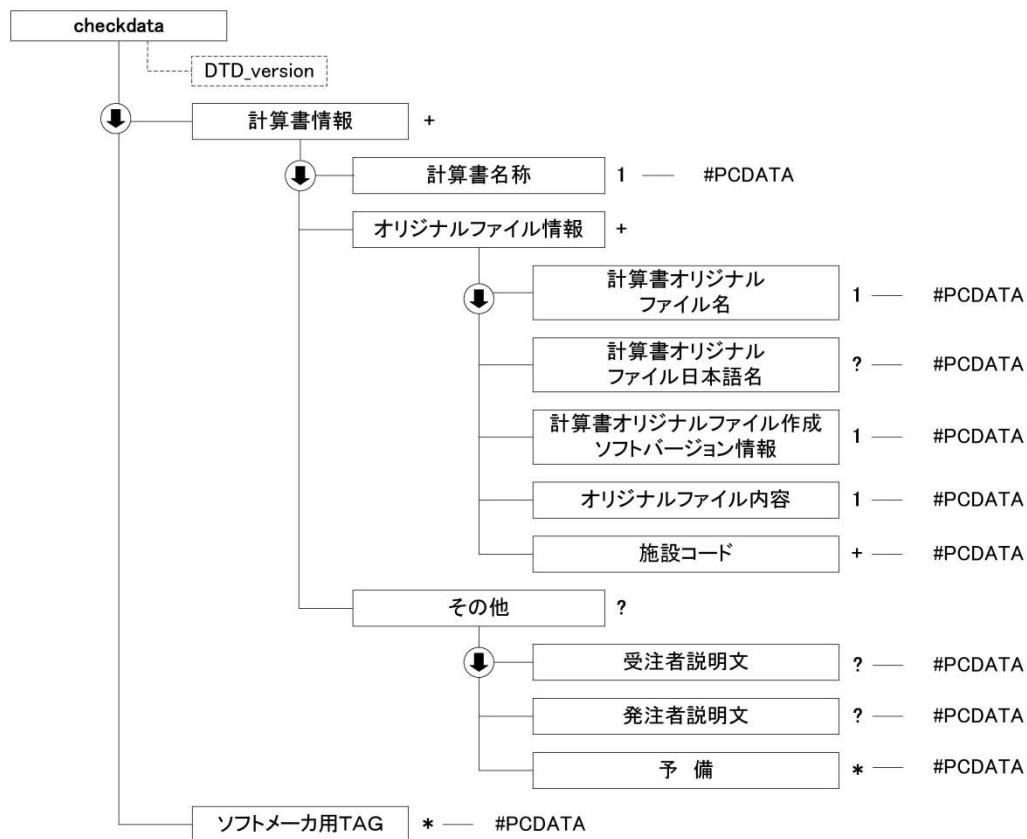
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (計算書オリジナルファイル名, 計算書オリジナルファイル日
本語名?, 計算書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コー
ド+)>
<!ELEMENT 計算書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 計算書オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 計算書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>

<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

CHECK03.DTDの構造図



- ↓ : 上から順に記述することを示す。
- 1 : 必ず、1回記述する。
- ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
- + : 必ず、1回以上記述する。
- * : 記述は任意。複数の記述を認める。

5 B 施工図管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する施工図管理ファイル（BI.XML）の DTD（INST03.DTD）を以下に示す。

```
<!--INST03.DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT instdata (施工図情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
```

```
<!ATTLIST instdata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!ELEMENT 施工図情報 (施工図名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>
```

```
<!ELEMENT 施工図名称 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (施工図オリジナルファイル名, 施工図オリジナルファイル日本語名?, 施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コード+)>
```

```
<!ELEMENT 施工図オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施工図オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
```

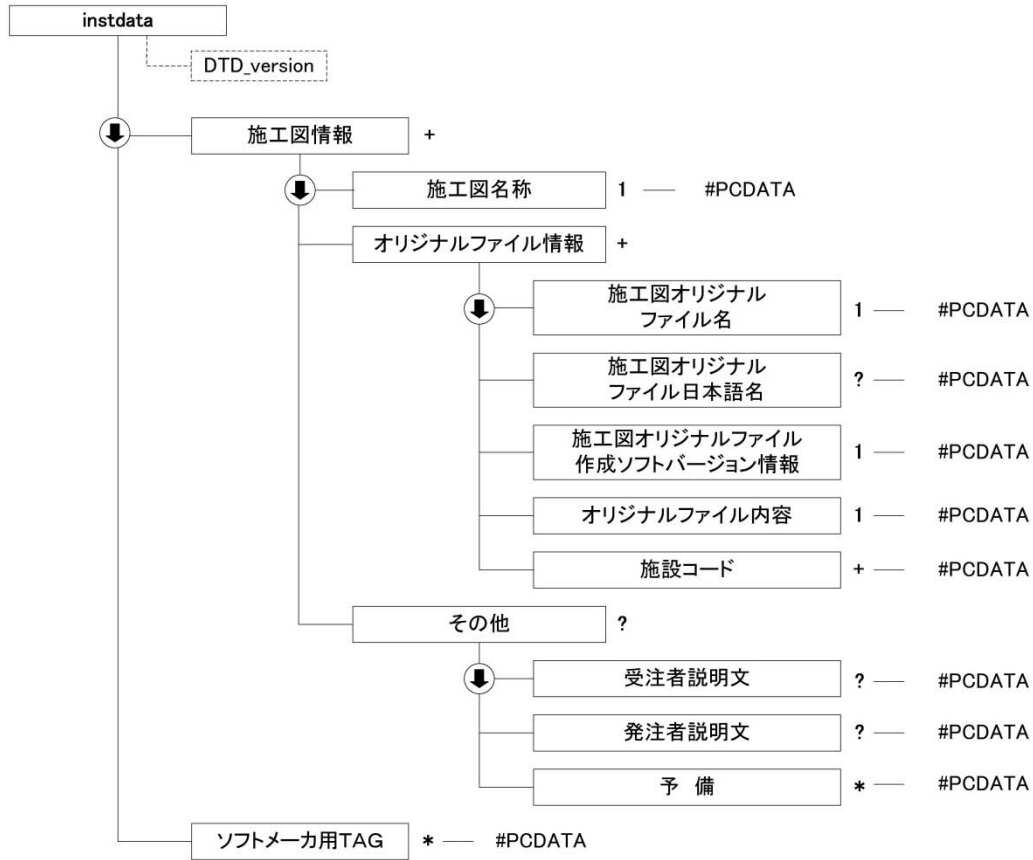
```
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

INST03.DTDの構造図



↓ : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

6 B 機器図管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する機器図管理ファイル（BD.XML）の DTD（DEVICE03.DTD）を以下に示す。

```
<!--DEVICE03.DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT devicedata (機器図情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
```

```
<!ATTLIST devicedata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!ELEMENT 機器図情報 (機器図名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>
```

```
<!ELEMENT 機器図名称 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (機器図オリジナルファイル名, 機器図オリジナルファイル日本語名?, 機器図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コード+, 機器コード+)>
```

```
<!ELEMENT 機器図オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 機器図オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 機器図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 機器コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
```

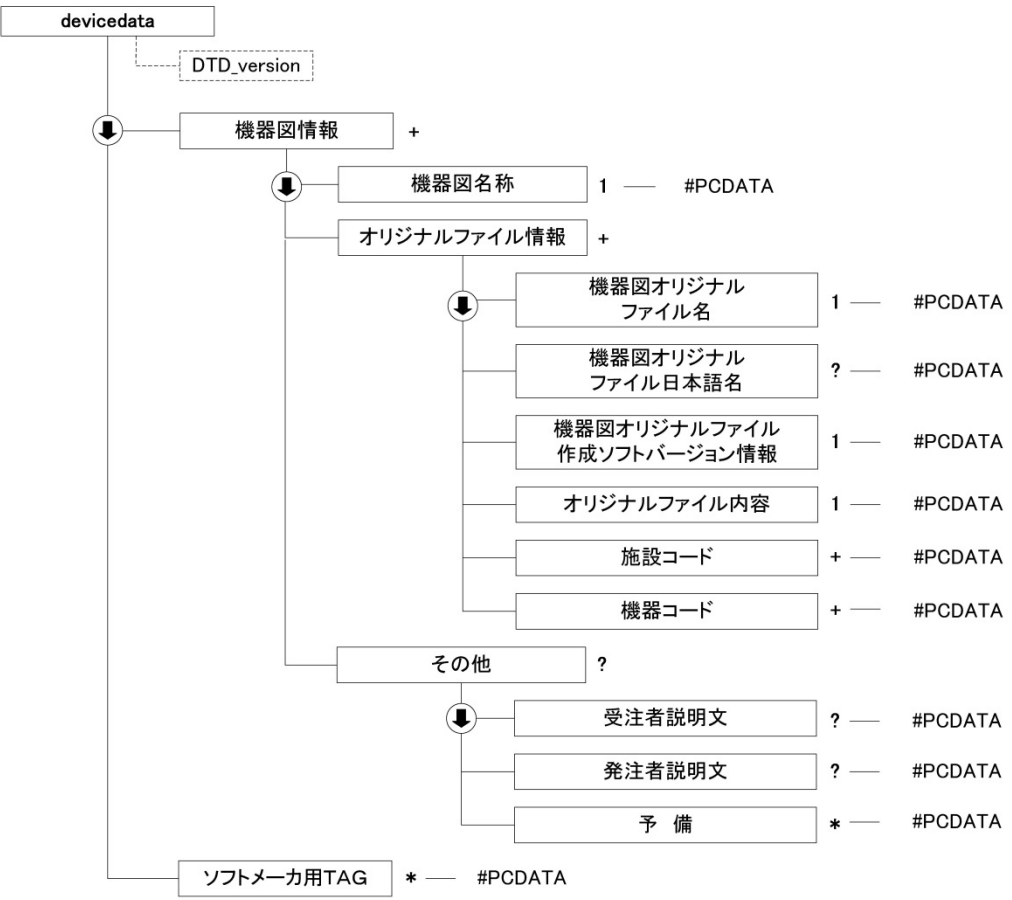
```
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

DEVICE03.DTDの構造図



↓ : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

7 B 施工管理記録書管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する施工管理記録書管理ファイル（BE.XML）の DTD（EXAM03.DTD）を以下に示す。

```
<!--EXAM03.DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT examdata (施工管理記録書情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
```

```
<!ATTLIST examdata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!ELEMENT 施工管理記録書情報 (施工管理記録書名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>
```

```
<!ELEMENT 施工管理記録書名称 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (施工管理記録書オリジナルファイル名, 施工管理記録書オリジナルファイル日本語名?, 施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コード+, 機器コード+)>
```

```
<!ELEMENT 施工管理記録書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施工管理記録書オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 機器コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
```

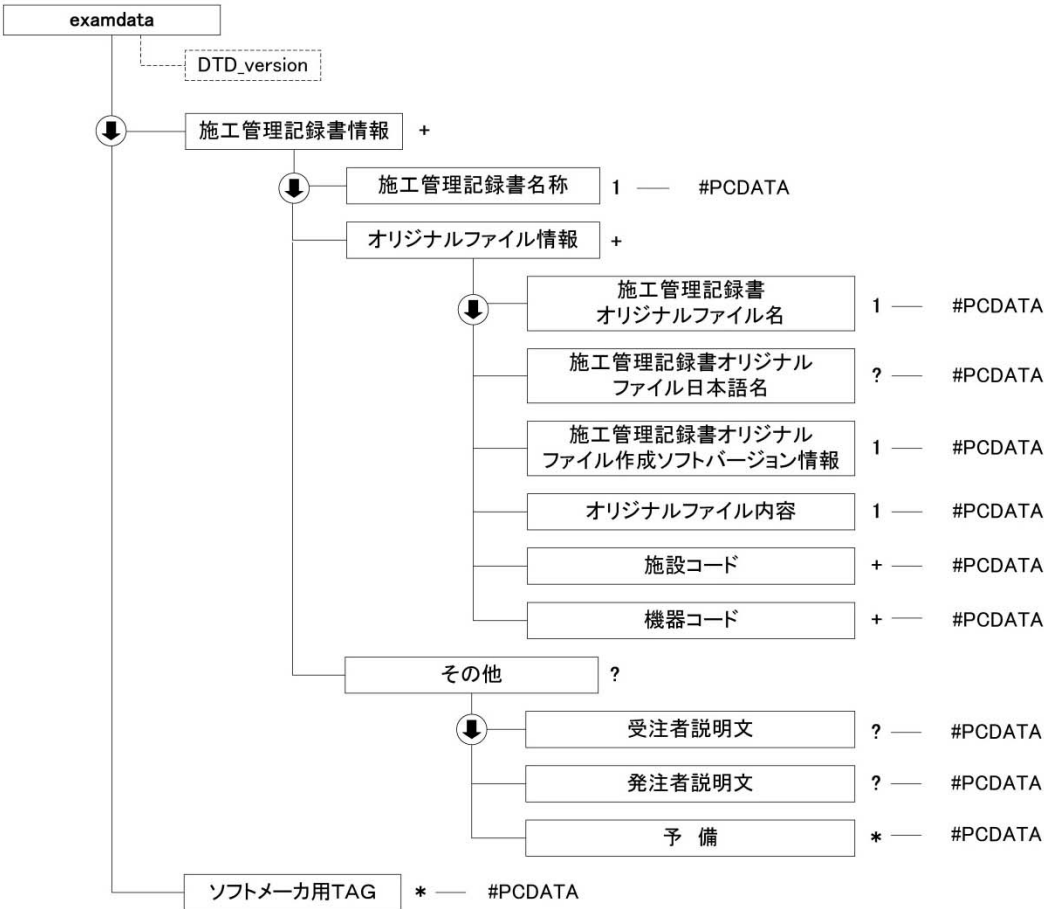
```
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

EXAM03.DTDの構造図



- ⬇️ : 上から順に記述することを示す。
- 1 : 必ず、1回記述する。
- ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
- + : 必ず、1回以上記述する。
- * : 記述は任意。複数の記述を認める。

8 B 取扱説明書管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する取扱説明書管理ファイル（BM.XML）の DTD（MANUAL03.DTD）を以下に示す。

```
<!--MANUAL03.DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT manualdata (取扱説明書情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
```

```
<!ATTLIST manualdata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!ELEMENT 取扱説明書情報 (取扱説明書名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>
```

```
<!ELEMENT 取扱説明書名称 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (取扱説明書オリジナルファイル名, 取扱説明書オリジナルファイル日本語名?, 取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コード+, 機器コード+)>
```

```
<!ELEMENT 取扱説明書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 取扱説明書オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 機器コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
```

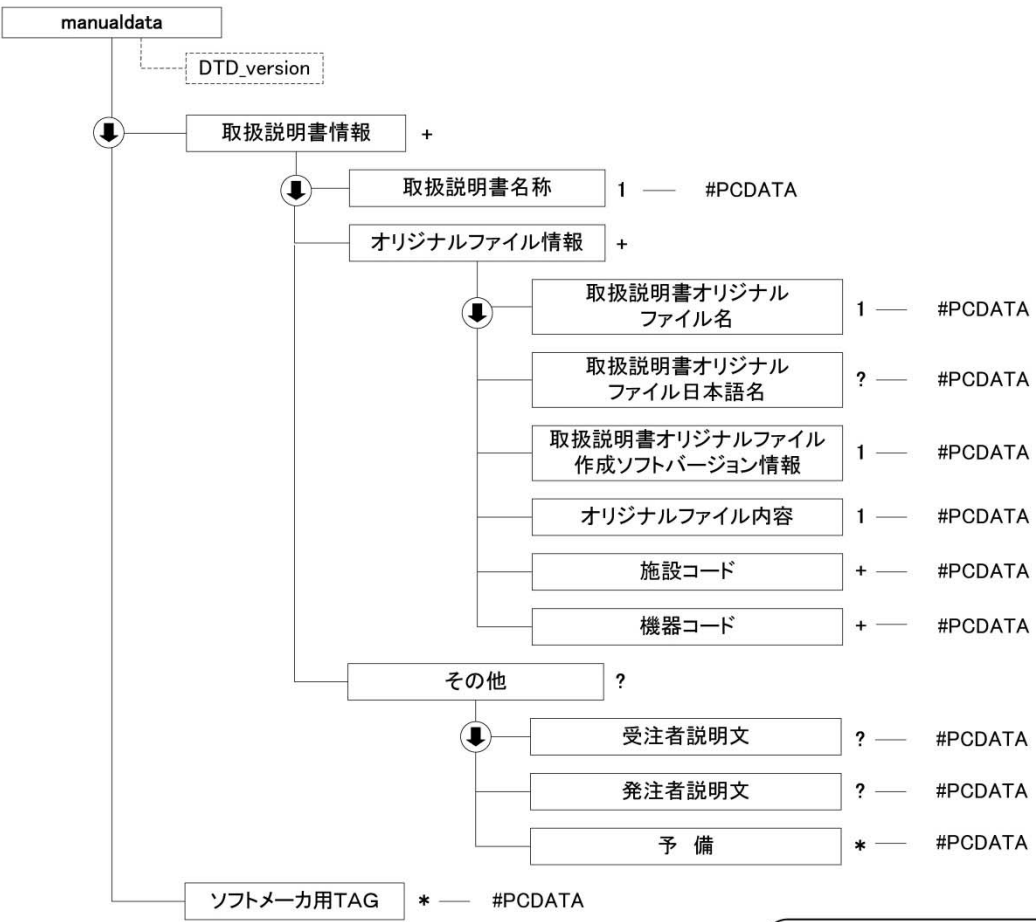
```
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

MANUAL03.DTDの構造図



- ↓ : 上から順に記述することを示す。
- 1 : 必ず、1回記述する。
- ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
- + : 必ず、1回以上記述する。
- * : 記述は任意。複数の記述を認める。

9 施工計画書管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体に添付する施工計画書管理ファイル (PLAN.XML) の DTD (PLAN03.DTD) を以下に示す。

```
<!--PLAN03.DTD / 2012/12 -->
<!ELEMENT plandata (施工計画書情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
<!ATTLIST plandata DTD_version CDATA #FIXED "03">

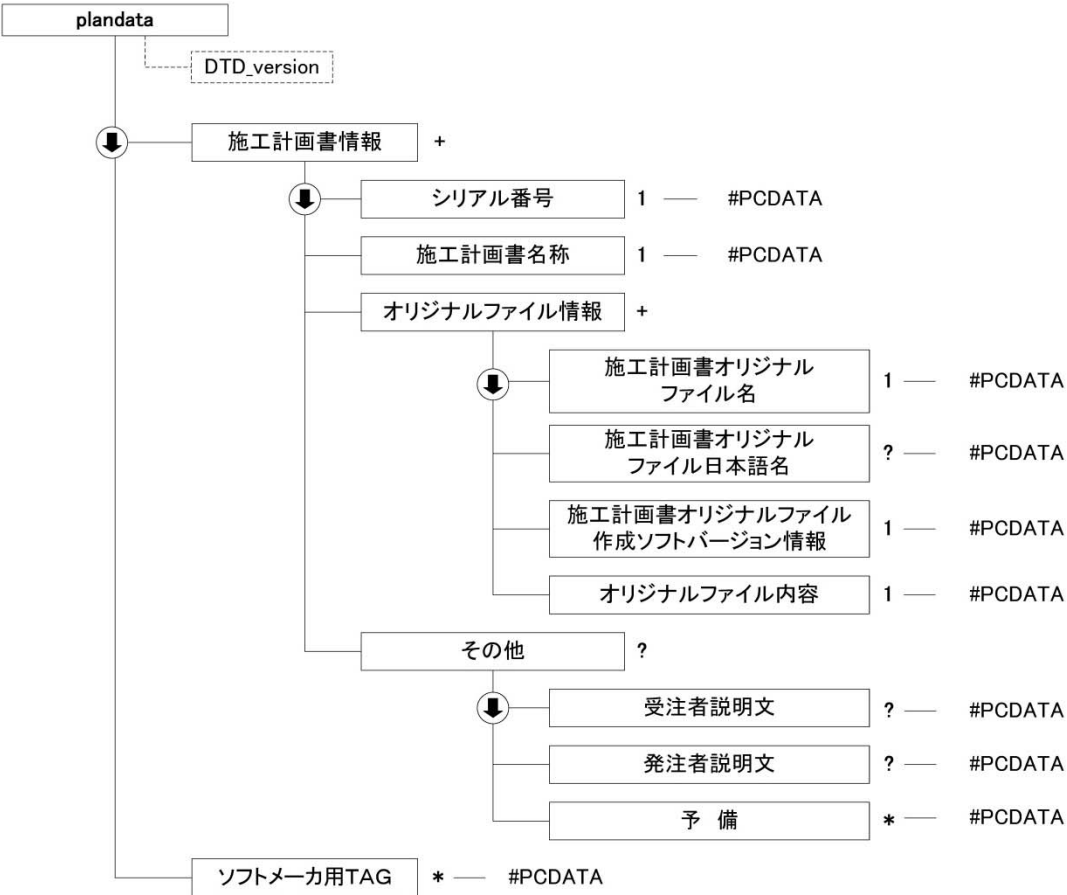
<!-- 施工計画書情報 -->
<!ELEMENT 施工計画書情報 (シリアル番号, 施工計画書名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>
<!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書名称 (#PCDATA)>

<!-- オリジナルファイル情報 -->
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (施工計画書オリジナルファイル名, 施工計画書オリジナルファイル日本語名?, 施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容)>
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>

<!-- その他 -->
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

PLAN03.DTDの構造図



- ⬇ : 上から順に記述することを示す。
- 1 : 必ず、1回記述する。
- ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
- + : 必ず、1回以上記述する。
- * : 記述は任意。複数の記述を認める。

10 打合せ簿管理ファイルの DTD

成果品の電子媒体に添付する打合せ簿管理ファイル (MEET.XML の DTD (MEET03.DTD) を以下に示す。

```
<!--MEET03.DTD / 2012/12 -->
<!ELEMENT meetdata (打合せ簿情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
<!ATTLIST meetdata DTD_version CDATA #FIXED "03">

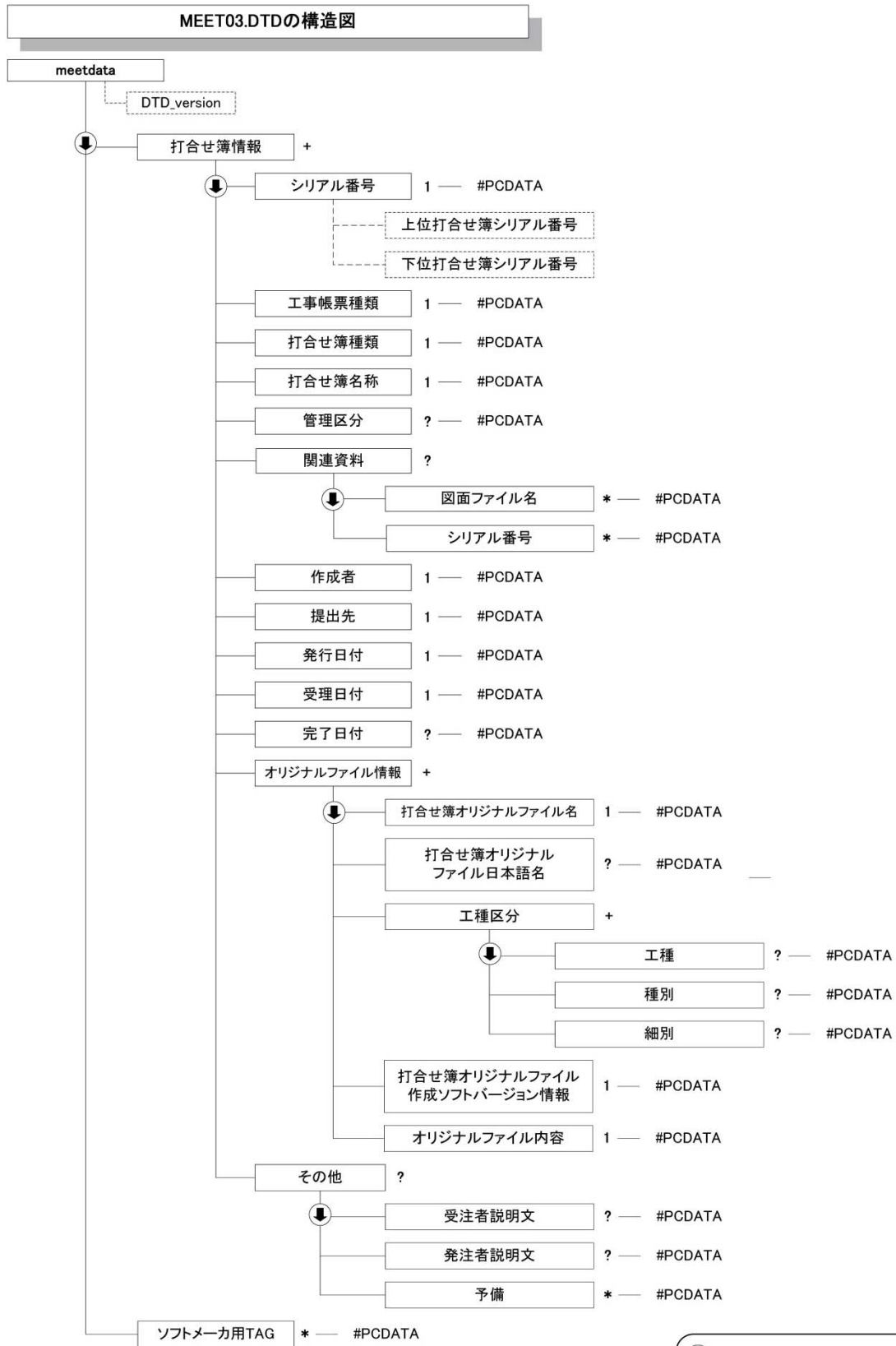
<!-- 打合せ簿情報 -->
<!ELEMENT 打合せ簿情報 (シリアル番号, 工事帳票種類, 打合せ簿種類, 打合せ簿名称, 管理区分?, 関連資料?, 作成者, 提出先, 発行日付, 受理日付, 完了日付?, オリジナルファイル情報+, その他?)>
<!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>
<!ATTLIST シリアル番号 上位打合せ簿シリアル番号 NMTOKEN #IMPLIED>
<!ATTLIST シリアル番号 下位打合せ簿シリアル番号 NMTOKEN #IMPLIED>
<!ELEMENT 工事帳票種類 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿種類 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿名称 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 管理区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 作成者 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 提出先 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発行日付 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 受理日付 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 完了日付 (#PCDATA)>

<!-- 関連資料 -->
<!ELEMENT 関連資料 (図面ファイル名*, シリアル番号*)>
<!ELEMENT 図面ファイル名 (#PCDATA)>

<!-- オリジナルファイル情報 -->
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (打合せ簿オリジナルファイル名, 打合せ簿オリジナルファイル日本語名?, 工種区分+, 打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容)>
<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>

<!-- 工種区分 -->
<!ELEMENT 工種区分 (工種?, 種別?, 細別?)>
<!ELEMENT 工種 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 種別 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 細別 (#PCDATA)>

<!-- その他 -->
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```



↓ : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

付属資料 2 管理ファイルの XML 記入例

1 工事管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納する工事管理ファイル（INDEX_MC.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE constdata SYSTEM "IND_MC03.DTD">
<!-- <?xml-stylesheet type="text/xsl" href="IND_MC03.XSL"? -->
<constdata DTD_version="03">

<基礎情報>
  <メディア番号>2</メディア番号>
  <メディア総枚数>3</メディア総枚数>
  <適用要領基準>設備 201604-01</適用要領基準>
  <施工図面完成図フォルダ名>DRAWINGF</施工図面完成図フォルダ名>
  <地質データフォルダ名>BORING</地質データフォルダ名>
  <その他フォルダ名>OTHERS</その他フォルダ名>
  <その他オリジナルファイルフォルダ情報>
    <その他オリジナルファイルフォルダ名>OTHERS/ORG001</その他オリジナルファイルフォル
    ダ名>
    <その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>維持管理システム登録データ</その他オリ
    ジナルファイルフォルダ日本語名>
    </その他オリジナルファイルフォルダ情報>
  <完成図書フォルダ名>K_BOOK</完成図書フォルダ名>
  <B 実施仕様書フォルダ名>K_BOOK/B_SPC</B 実施仕様書フォルダ名>
  <B 計算書フォルダ名>K_BOOK/B_CHECK</B 計算書フォルダ名>
  <B 施工図フォルダ名>K_BOOK/B_INST</B 施工図フォルダ名>
  <B 機器図フォルダ名>K_BOOK/B_DEVICE</B 機器図フォルダ名>
  <B 施工管理記録書フォルダ名>K_BOOK/B_EXAM</B 施工管理記録書フォルダ名>
  <B 取扱説明書フォルダ名>K_BOOK/B_MANUAL</B 取扱説明書フォルダ名>
  <写真フォルダ名>PHOTO</写真フォルダ名>
  <施工計画書フォルダ名>PLAN</施工計画書フォルダ名>
  <施工計画書オリジナルファイルフォルダ名>PLAN/ORG</施工計画書オリジナルファイルフォル
  ダ名>
  <打合せ簿フォルダ名>MEET</打合せ簿フォルダ名>
  <打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名>MEET/ORG</打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名
  >
</基礎情報>

<工事件名等>
  <発注年度>2016</発注年度>
```

<工事番号>201610012345</工事番号>
<工事名称>一級河川〇〇川〇〇排水機場ポンプ設備工事</工事名称>
<施工金額>360000000</施工金額>
<工事实績システム登録番号>12345678901</工事实績システム登録番号>
<工事分野>機械</工事分野>
<工事業種>機械器具設置工事</工事業種>
<工種-工法型式>
 <工種>機械器具設置工事</工種>
 <工法型式>ポンプ設備工</工法型式>
</工種-工法型式>
<住所情報>
 <住所コード>27118</住所コード>
 <住所>大阪府大阪市城東区〇〇〇丁目地内</住所>
</住所情報>
<工期開始日>2016-04-01</工期開始日>
<工期終了日>2016-12-01</工期終了日>
<工事内容>ポンプおよび付属設備一式</工事内容>
</工事件名等>

<場所情報>

<測地系>01</測地系>
<水系-路線情報>
 <対象水系路線名>一級河川〇〇川</対象水系路線名>
 <現道-旧道区分>1</現道-旧道区分>
 <対象河川コード>8606040022</対象河川コード>
 <左右岸上下線コード>99</左右岸上下線コード>
<測点情報>
 <起点側測点-n>0015</起点側測点-n>
 <起点側測点-m>008</起点側測点-m>
 <終点側測点-n>0018</終点側測点-n>
 <終点側測点-m>005</終点側測点-m>
</測点情報>
<距離標情報>
 <起点側距離標-n>031</起点側距離標-n>
 <起点側距離標-m>045</起点側距離標-m>
 <終点側距離標-n>036</終点側距離標-n>
 <終点側距離標-m>067</終点側距離標-m>
</距離標情報>
</水系-路線情報>
<境界座標情報>
 <西側境界座標経度>1353311</西側境界座標経度>
 <東側境界座標経度>1353314</東側境界座標経度>
 <北側境界座標緯度>0344116</北側境界座標緯度>
 <南側境界座標緯度>0344113</南側境界座標緯度>
</境界座標情報>

</場所情報>

<発注者情報>

<発注者-大分類>大阪府</発注者-大分類>
<発注者-中分類>(土木事務所)</発注者-中分類>
<発注者-小分類>〇〇事務所</発注者-小分類>

<発注者コード>32701007</発注者コード>
</発注者情報>

<受注者情報>
<受注者名>〇〇建設株式会社△△組共同企業体(代表：〇〇建設株式会社)</受注者名>
<受注者コード>10012345000</受注者コード>
</受注者情報>

<予備></予備>

<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</constdata>

2 その他資料管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納するその他資料管理ファイル (OTHR.S. XML) の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE othrsdata SYSTEM "OTHR.S03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="OTHR.S03.XSL"?>
<othrsdata DTD_version="03">

<サブフォルダ情報>
  <その他サブフォルダ名>ORG001</その他サブフォルダ名>
  <その他サブフォルダ日本語名>〇〇システム入力データ</その他サブフォルダ日本語名>
  <その他資料情報>
    <資料名>維持管理〇〇データ</資料名>
    <その他>
      <受注者説明文></受注者説明文>
      <発注者説明文>維持管理において〇〇システムに入力するデータを格納する。</発注者
説明文>
    </その他>
  </その他資料情報>
</サブフォルダ情報>

<サブフォルダ情報>
  <その他サブフォルダ名>ORG002</その他サブフォルダ名>
  <その他サブフォルダ日本語名>段階確認書</その他サブフォルダ日本語名>
  <その他資料情報>
    <資料名>〇〇に関する段階確認書</資料名>
    <オリジナルファイル情報>
      <シリアル番号>1</シリアル番号>
      <オリジナルファイル名>CHK01_01.XXX</オリジナルファイル名>
      <オリジナルファイル日本語名>20161101 段階確認書.XXX</オリジナルファイル日本語名
>
      <オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>〇△□ワープロソフト_2010</オリジ
ナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇□に関する段階確認書</オリジナルファイル内容>
    </オリジナルファイル情報>
    <その他>
      <受注者説明文></受注者説明文>
      <発注者説明文>段階確認書が重要書類であることから格納する。</発注者説明文>
      <予備></予備>
    </その他>
  </その他資料情報>
</サブフォルダ情報>

<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</othrsdata>
```

3 実施仕様書管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納する完成図書管理ファイル（BS.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE specdata SYSTEM "SPC03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="SPC03.XSL"?>
<specdata DTD_version="03">

  <実施仕様書情報>
    <実施仕様書名称>〇〇〇実施仕様書</実施仕様書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <実施仕様書オリジナルファイル名>BS001_1.PDF</実施仕様書オリジナルファイル名>
      <実施仕様書オリジナルファイル日本語名>〇〇〇実施仕様書.XXX</実施仕様書オリジナルファイル日本語名>
      <実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>PDF 作成ソフト_8.1</実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>実施仕様書</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>Z</施設コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文/>
      <発注者説明文/>
      <予備/>
    </その他>
  </実施仕様書情報>

  <ソフトメーカー用 TAG/>

</specdata>
```

4 計算書管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納する計算書管理ファイル (BC.XML) の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE checkdata SYSTEM "CHECK03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="CHECK03.XSL"?>
<checkdata DTD_version="03">

  <計算書情報>
    <計算書名称>〇〇計算書</計算書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <計算書オリジナルファイル名>BC001_1.PDF</計算書オリジナルファイル名>
      <計算書オリジナルファイル日本語名>〇〇計算書.XXX</計算書オリジナルファイル日本語名>
      <計算書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>〇〇ソフト_2010</計算書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇計算書</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>Z</施設コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文/>
      <発注者説明文/>
      <予備/>
    </その他>
  </計算書情報>

  <ソフトメーカー用 TAG/>

</checkdata>
```


5 施工図管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納する施工図管理ファイル (BI. XML) の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE instdata SYSTEM "INST03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="INST03.XSL"?>
<instdata DTD_version="03">

<施工図情報>
  <施工図名称>〇〇装置図</施工図名称>
  <オリジナルファイル情報>
    <施工図オリジナルファイル名>BI001_1.PDF</施工図オリジナルファイル名>
    <施工図オリジナルファイル日本語名>〇〇装置図. XXX</施工図オリジナルファイル日本語名>
    <施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>PDF 作成ソフト_8.1</施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
    <オリジナルファイル内容>〇〇〇装置図(1/2)</オリジナルファイル内容>
    <施設コード>Z</施設コード>
  </オリジナルファイル情報>

  <その他>
    <受注者説明文/>
    <発注者説明文/>
    <予備/>
  </その他>
</施工図情報>

<ソフトメーカー用 TAG/>

</instdata>
```

6 機器図管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納する機器図管理ファイル (BD.XML) の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE devicedata SYSTEM "DEVICE03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="DEVICE03.XSL"?>
<devicedata DTD_version="03">

  <機器図情報>
    <機器図名称>〇〇機器構成図</機器図名称>
    <オリジナルファイル情報>
      <機器図オリジナルファイル名>BD001_1.PDF</機器図オリジナルファイル名>
      <機器図オリジナルファイル日本語名>〇〇機器構成図.XXX</機器図オリジナルファイル日本語名>
      <機器図オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>PDF 作成ソフト_8.1</機器図オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇〇機器図(1/2)</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>Z</施設コード>
      <機器コード>ZZ</機器コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文></受注者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備></予備>
    </その他>
  </機器図情報>

  <ソフトメーカー用 TAG/>

</devicedata>
```

7 施工管理記録書管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納する施工管理記録書管理ファイル (BE. XML) の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE examdata SYSTEM "EXAM03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="EXAM03.XSL"?>
<examdata DTD_version="03">

  <施工管理記録書情報>
    <施工管理記録書名称>〇〇試験成績書</施工管理記録書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <施工管理記録書オリジナルファイル名>BE001_1.PDF</施工管理記録書オリジナルファイル名>
      <施工管理記録書オリジナルファイル日本語名>〇〇試験成績書.XXX</施工管理記録書オリジナルファイル日本語名>
      <施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>PDF 作成ソフト_8.1</施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇試験成績書(1/2)</オリジナルファイル内容>
      <施設コード> Z </施設コード>
      <機器コード> ZZ </機器コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文></受注者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備></予備>
    </その他>
  </施工管理記録書情報>

  <ソフトメーカー用 TAG/>

</examdata>
```

8 取扱説明書管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納する取扱説明書管理ファイル (BM.XML) の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE manualdata SYSTEM "MANUAL03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="MANUAL03.XSL"?>
<manualdata DTD_version="03">

  <取扱説明書情報>
    <取扱説明書名称>〇〇〇取扱説明書</取扱説明書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <取扱説明書オリジナルファイル名>BM001_1.PDF</取扱説明書オリジナルファイル名>
      <取扱説明書オリジナルファイル日本語名>〇〇〇取扱説明書.XXX</取扱説明書オリジナル
      ファイル日本語名>
      <取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>PDF 作成ソフト_8.1</取扱説明
      書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇取扱説明書(1/2)</オリジナルファイル内容>
      <施設コード> Z </施設コード>
      <機器コード> ZZ </機器コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文></受注者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備></予備>
    </その他>
  </取扱説明書情報>

  <ソフトメーカー用 TAG/>

</manualdata>
```

9 施工計画書管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納する工事管理ファイル (PLAN.XML) の出力例を以下に示す。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE plandata SYSTEM "PLAN03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="PLAN03.XSL"?>
<plandata DTD_version="03">

  <施工計画書情報>
    <シリアル番号>1</シリアル番号>
    <施工計画書名称>〇〇〇施工計画書</施工計画書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <施工計画書オリジナルファイル名>PLA01_01.XXX</施工計画書オリジナルファイル名>
      <施工計画書オリジナルファイル日本語名>〇〇〇施工計画書.XXX</施工計画書オリジナル
      ファイル日本語名>
      <施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>□△▽ワープロソフト_2010</ 施
      工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>工事概要、安全管理</オリジナルファイル内容>
    </オリジナルファイル情報>

    <オリジナルファイル情報>
      <施工計画書オリジナルファイル名>PLA01_02.XXX</施工計画書オリジナルファイル名>
      <施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>□△▽表計算ソフト_2010</施工計
      画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>計画工程</オリジナルファイル内容>
    </オリジナルファイル情報>

    <オリジナルファイル情報>
      <施工計画書オリジナルファイル名>PLA01_03.XXX</施工計画書オリジナルファイル名>
      <施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>□△▽ワープロソフト_2010</施工
      計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>施工方法</オリジナルファイル内容>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文></受注者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備>紙資料：〇〇□図</予備>
    </その他>
  </施工計画書情報>

  <ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</plandata>

```

10 打合せ簿管理ファイルの XML 記入例

成果品の電子媒体に格納する工事管理ファイル (MEET.XML) の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>  
<!DOCTYPE meetdata SYSTEM "MEET03.DTD">  
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="MEET03.XSL"?>  
<meetdata DTD_version="03">
```

<打合せ簿情報>

<シリアル番号 下位打合せ簿シリアル番号="2">1</シリアル番号>

<工事帳票種類>打合せ簿</工事帳票種類>

<打合せ簿種類>通知</打合せ簿種類>

<打合せ簿名称>〇〇〇に関する協議</打合せ簿名称>

<管理区分>品質管理</管理区分>

<関連資料>

<図面ファイル名>C0PL001Z.P21</図面ファイル名>

<シリアル番号>200</シリアル番号>

</関連資料>

<作成者>受注者:現場代理人</作成者>

<提出先>発注者</提出先>

<発行日付>2016-04-09</発行日付>

<受理日付>2016-04-15</受理日付>

<完了日付>2016-04-20</完了日付>

<オリジナルファイル情報>

<打合せ簿オリジナルファイル名>M0001_01.XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>

<打合せ簿オリジナルファイル日本語名>〇〇〇に関する打合せ簿 0001_01.XXX</打合せ簿オリジナルファイル日本語名>

<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>□△▽ワープロソフト_2010</打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>

<オリジナルファイル内容>〇〇〇の通知に関する事項の鑑</オリジナルファイル内容>

</オリジナルファイル情報>

<オリジナルファイル情報>

<打合せ簿オリジナルファイル名>M0001_02.XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>

<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>△▽○表計算ソフト_2010</打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>

<オリジナルファイル内容>〇〇〇の通知に関する事項の本文</オリジナルファイル内容>

</オリジナルファイル情報>

<その他>
 <受注者説明文></受注者説明文>
 <発注者説明文></発注者説明文>
 <予備>〇〇のカタログ</予備>
 <予備>〇〇のミルシート</予備>
</その他>
</打合せ簿情報>

<打合せ簿情報>
 <シリアル番号 上位打合せ簿シリアル番号="1" 下位打合せ簿シリアル番号="3">2</シリアル番号>
 <工事帳票種類>打合せ簿</工事帳票種類>
 <打合せ簿種類>提出</打合せ簿種類>
 <打合せ簿名称>請負代金内訳書及び工程表</打合せ簿名称>
 <管理区分>施工管理</管理区分>
 <関連資料>
 <図面ファイル名>COPL002Z. P21</図面ファイル名>
 <シリアル番号>225</シリアル番号>
 <シリアル番号>228</シリアル番号>
 </関連資料>
 <作成者>受注者:現場代理人</作成者>
 <提出先>発注者</提出先>
 <発行日付>2016-04-23</発行日付>
 <受理日付>2016-04-25</受理日付>
 <完了日付>2016-04-30</完了日付>

<オリジナルファイル情報>
 <打合せ簿オリジナルファイル名>M0002_01. XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>
 <打合せ簿オリジナルファイル日本語名>工程表. XXX</打合せ簿オリジナルファイル日本語名>
 <打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>△▽○表計算ソフト_2010</打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>
 <オリジナルファイル内容>工程表</オリジナルファイル内容>
 </オリジナルファイル情報>

<オリジナルファイル情報>
 <打合せ簿オリジナルファイル名>M0002_02. XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>
 <打合せ簿オリジナルファイル日本語名>請負代金内訳書. XXX</打合せ簿オリジナルファイル日本語名>

<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>△▽○表計算ソフト_2010</打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>

<オリジナルファイル内容>請負代金内訳書</オリジナルファイル内容>
</オリジナルファイル情報>

<その他>

<受注者説明文></受注者説明文>

<発注者説明文></発注者説明文>

<予備></予備>

</その他>

</打合せ簿情報>

<打合せ簿情報>

<シリアル番号 上位打合せ簿シリアル番号="2">3</シリアル番号>

<工事帳票種類>打合せ簿</工事帳票種類>

<打合せ簿種類>提示</打合せ簿種類>

<打合せ簿名称>中間技術検査の中止について</打合せ簿名称>

<作成者>発注者：主任監督員</作成者>

<提出先>受注者</提出先>

<発行日付>2016-04-23</発行日付>

<受理日付>2016-04-25</受理日付>

<オリジナルファイル情報>

<打合せ簿オリジナルファイル名>M0003_01. XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>

<打合せ簿オリジナルファイル日本語名>20061215 中間技術検査の中止. XXX</打合せ簿オリジナルファイル日本語名>

<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>□△▽ワープロソフト_2010</打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>

<オリジナルファイル内容>本文</オリジナルファイル内容>

</オリジナルファイル情報>

<その他></その他>

</打合せ簿情報>

<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</meetdata>

付属資料 3 図面・書類等の格納例

1 水門設備工事 図面、書類 提出リストと格納フォルダ（例）

フォルダ名

B_SPC:完成図書/実施仕様書、B_CHECK:完成図書/計算書、B_INST:完成図書/施工図、B_DEVICE:完成図書/機器図、B_EXAM:完成図書/施工管理記録書、B_MANUAL:完成図書/取扱説明書、DRAWINGF:施工図面・完成図

CAD:CADデータ(原則として SXF(sfc)形式)、PDF:PDFデータ、×:提出不要

項目	機器名	図 面 名 称	完成図書 フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
実施仕様書		実施仕様書	B_SPC	—
設計計算書		設計計算書	B_CHECK	—
数量表		重量総括表	B_CHECK	—
		塗装面積総括表	B_CHECK	—
		仕上り重量表	B_CHECK	—
		購入品一覧表	B_CHECK	—
設計図面	全体	全体配置図	B_INST	DRAWINGF
		一般図	B_INST	DRAWINGF
		箱抜き及び挿し筋配置図	B_INST	DRAWINGF
		水密詳細図	B_INST	DRAWINGF
	戸当り	戸当り組立図	B_INST	DRAWINGF
		戸当り製作図	B_INST	DRAWINGF
		戸当り伸縮継手	B_INST	DRAWINGF
		アンカ金物製作図	B_INST	DRAWINGF
	扉体	扉体組立図	B_INST	DRAWINGF
		扉体製作図	B_INST	DRAWINGF
		水密ゴム製作図	B_INST	DRAWINGF
		水密ゴム押え板製作図	B_INST	DRAWINGF
		主ローラ製作図	B_INST	DRAWINGF

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図フォルダ
			PDF	CAD
設計図面	扉体	サイドローラ製作図	B_INST	DRAWINGF
		シーブ・軸製作図	B_INST	DRAWINGF
		給油配管図	B_DEVICE	DRAWINGF
	開閉(昇降)装置	開閉装置組立図	B_INST	DRAWINGF
		開閉装置駆動部組立図	B_INST	DRAWINGF
		開閉装置従動部組立図	B_INST	DRAWINGF
		荷重分布図	B_INST	DRAWINGF
		アンカ金物配置および製作図	B_INST	DRAWINGF
		機械台詳細図	B_INST	DRAWINGF
		ドラム詳細図	B_INST	DRAWINGF
		歯車詳細図	B_INST	DRAWINGF
		軸詳細図	B_INST	DRAWINGF
		軸受詳細図	B_INST	DRAWINGF
		ドラム軸受詳細図	B_INST	DRAWINGF
		シーブ詳細図	B_INST	DRAWINGF
		シーブブラケット及び軸詳細図	B_INST	DRAWINGF
		休止装置組立図	B_INST	DRAWINGF
		休止装置詳細図	B_INST	DRAWINGF
		ロープ端末装置	B_DEVICE	—
		非常上限検出装置	B_DEVICE	DRAWINGF
	開度指示装置組立図	B_DEVICE	DRAWINGF	
	開度指示装置詳細図	B_DEVICE	—	

項目	機器名	図 面 名 称	完成図書 フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
設計図面	開閉(昇降)装置	カップリング	B_DEVICE	—
		ブレーキホイール	B_DEVICE	—
		集中給油配置図	B_DEVICE	DRAWINGF
		ギヤカバー詳細図	B_INST	DRAWINGF
		減速機組立図	B_DEVICE	—
		切替装置組立図	B_DEVICE	—
		ワイヤロープ及びソケット	B_DEVICE	—
		シリンダ架台組立図	B_INST	DRAWINGF
		油圧シリンダ組立図	B_DEVICE	—
		シリンダ詳細図	B_DEVICE	—
		開度計組立図	B_DEVICE	—
		開度計詳細図	B_DEVICE	—
		油圧シリンダ点検台	B_INST	DRAWINGF
		油圧ユニット外形図	B_DEVICE	—
		油圧回路図	B_DEVICE	—
		油圧配管組立図	B_DEVICE	DRAWINGF
	油圧配管詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF	
	制御設備	盤外形図	B_DEVICE	DRAWINGF
		盤内配置図	B_DEVICE	—
		操作フローチャート	B_DEVICE	DRAWINGF
		単線結線図	B_DEVICE	DRAWINGF
		展開接続図	B_DEVICE	—

項目	機器名	図 面 名 称	完成図書 フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
設計図面	制御設備	配線系統図	B_DEVICE	DRAWINGF
		電路布設図	B_INST	DRAWINGF
		電気機器図	B_DEVICE	—
		配線ピット配置図	B_DEVICE	—
		配線ピット組立図	B_DEVICE	—
		配線ピット詳細図	B_DEVICE	—
	付属設備	付属設備組立図	B_INST	DRAWINGF
		付属設備詳細図	B_INST	DRAWINGF
		付属設備機器図	B_DEVICE	—
取扱説明書		操作説明書	B_MANUAL	—
		主要機器取扱説明書	B_MANUAL	—
		メーカー取扱説明書	B_MANUAL	—
		点検整備要領	B_MANUAL	—
		チェックシート	B_MANUAL	—
		油脂リスト	B_MANUAL	—
		工具・予備品一覧表	B_MANUAL	—
		サービス連絡体制	B_MANUAL	—

項目	機器名	図 面 名 称	完成図書 フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
施工管理記録	工場	原寸検査	B_EXAM	—
		材料検査	B_EXAM	—
		溶接検査	B_EXAM	—
		仮組立検査	B_EXAM	—
		機器性能検査	B_EXAM	—
		塗装検査	B_EXAM	—
	現場	据付基準点検査	B_EXAM	—
		工事材料検査	B_EXAM	—
		据付寸法検査	B_EXAM	—
		溶接検査	B_EXAM	—
据付機能検査		B_EXAM	—	

2 揚排水ポンプ設備工事 図面、書類 提出リストと格納フォルダ(例)

フォルダ名

PLAN:施工計画書 B_SPC:完成図書/実施仕様書、B_CHECK:完成図書/計算書、B_INST:完成図書/施工図、
 B_DEVICE:完成図書/機器図、B_EXAM:完成図書/施工管理記録書、B_MANUAL:完成図書/取扱説明書、DRAWINGF:
 施工図面・完成図

CAD:CADデータ(原則として SXF(sfc)形式)、PDF:PDFデータ、×:提出不要

項目	機器名	図 面 名 称	完成図書 フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
全体		製作仕様書	B_SPC	—
		設計計算書	B_CHECK	—
		一般平面図	B_INST	DRAWINGF
		据付平面図	B_INST	DRAWINGF
		据付断面図	B_INST	DRAWINGF
		機器構成図	B_INST	DRAWINGF
		全体フロー図	B_INST	DRAWINGF
		検査試験要領書	B_CHECK	—
		塗装要領書	B_CHECK	—
		写真撮影要領書	×	×
		工程管理表	×	×
(機器単体)	主ポンプ	組立断面図	B_DEVICE	DRAWINGF
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		ケーシング製作図	×	×
		羽根車製作図	×	×
		主軸製作図	×	×
		軸受製作図	×	×
		その他部品製作図	×	×
		木型図	×	×

項目	機器名	図 面 名 称	完成図書 フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
(機器単体)	主ポンプ	購入部品構造図	B_DEVICE	—
		組立要領図	B_DEVICE	—
	減速機	構造図	B_DEVICE	DRAWINGF
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		センサー給油系統図	B_DEVICE	DRAWINGF
		歯車製作図	×	×
		軸製作図	×	×
		軸受製作図	×	×
		購入部品構造図	B_DEVICE	—
		組立要領図	B_DEVICE	—
	原動機	外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		機器構成図	B_DEVICE	DRAWINGF
		部品製作図	×	×
		潤滑油システムフローシート	B_DEVICE	DRAWINGF
		燃料システムフローシート	B_DEVICE	DRAWINGF
		タイムスケジュール	B_DEVICE	DRAWINGF
		始動停止シーケンスブロック図	B_DEVICE	DRAWINGF
		制御盤詳細図(外形図)	B_DEVICE	DRAWINGF
		サイレンサー外形構造図	B_DEVICE	DRAWINGF
	弁 ダンパー	外形寸法図	B_DEVICE	—
		組立断面図	B_DEVICE	—
駆動部詳細図		B_DEVICE	—	

項目	機器名	図 面 名 称	完成図書 フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
(機器単体)		弁胴弁体他製作図	×	×
	主配管・主ダクト	配管寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		配管製作図	×	×
		伸縮管構造図	B_DEVICE	—
	補助機器	外形寸法図	B_DEVICE	—
		組立断面図	B_DEVICE	—
	電気品全体	システム構成図	B_DEVICE	—
		システム系統図	B_DEVICE	—
		電源系統図	B_DEVICE	—
		単線接続図	B_DEVICE	DRAWINGF
		操作制御フロー図	B_DEVICE	DRAWINGF
		計装フロー図	B_DEVICE	DRAWINGF
		管理項目表	B_DEVICE	—
	盤関係	製作仕様書	B_DEVICE	—
		容量計算書	B_DEVICE	—
		盤外形図	B_DEVICE	DRAWINGF
		盤内配置図	B_DEVICE	—
		規定値一覧表	B_DEVICE	—
		外部端子図	B_DEVICE	—
		三線接続図	B_DEVICE	—
		展開接続図	B_DEVICE	—

項目	機器名	図 面 名 称	完成図書 フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
(機器単体)	コンピュータ	機能設計図	B_DEVICE	—
		システム機器構成図	B_DEVICE	—
		詳細設計図	×	×
	運転管理装置	製作仕様書	B_DEVICE	—
		ネットワーク構成図	B_DEVICE	DRAWINGF
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		内部配置図	B_DEVICE	—
		外部端子図	B_DEVICE	—
	計装機器	機器仕様書	B_DEVICE	—
		外形寸法図	B_DEVICE	—
	除塵装置	全体配図	B_DEVICE	DRAWINGF
		強度計算書	B_DEVICE	—
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
	除塵機	スクリーン詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		上部詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		駆動部詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
		手摺梯子詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		製缶加工組立図	×	×
	コンベア	外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
製缶加工組立図		×	×	

項目	機器名	図 面 名 称	完成図書 フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
(機器単体)	ホツパ	外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		給油装置図	B_DEVICE	—
		手摺架台詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		製缶加工組立図	×	×
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
	クレーン	強度計算書	B_DEVICE	—
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		全体組立図	B_DEVICE	DRAWINGF
		クラブ組立図	B_DEVICE	DRAWINGF
		歩道手摺詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
		輸送計画書	PLAN	—
(工事図)	据付要領書	PLAN	—	
	機器組立要領書	PLAN	—	
	基礎図	B_INST	DRAWINGF	
	基礎詳細図	B_INST	DRAWINGF	
	ピット図	B_INST	DRAWINGF	
	ピット金物詳細図	B_INST	DRAWINGF	
	小配管系統図	B_INST	DRAWINGF	
	小配管図	B_INST	DRAWINGF	
	小配管詳細図	B_INST	DRAWINGF	
	小配管サポート図	B_INST	DRAWINGF	

項目	機器名	図 面 名 称	完成図書 フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
(工事図)		ダクト配置図	B_INST	DRAWINGF
		ダクト取付図	B_INST	DRAWINGF
		盤据付図	B_INST	DRAWINGF
		全体配線図	B_INST	DRAWINGF
		配線表	B_INST	DRAWINGF
		クレーン取付図	B_INST	DRAWINGF
		試運転要領書	B_CHECK	—
(管理用図書)		機器試験表	B_EXAM	—
		据付記録	B_EXAM	—
		施工管理記録書	B_EXAM	—
		試運転記録	B_EXAM	—
		官公庁等届書	B_EXAM	—
		運転操作概要書	B_MANUAL	—
		取扱説明書	B_MANUAL	—
		油脂リスト	B_MANUAL	—
		メーカーリスト	B_MANUAL	—
		予備品リスト	B_MANUAL	—
		工具リスト	B_MANUAL	—
		緊急連絡先	B_MANUAL	—

付属資料 4 場所情報の記入方法

場所情報に関わる記入方法を以下に示す。

(1) 工事件名等

1) 住所コード

CORINS 登録工事の場合は、着工時にそれぞれのシステムに記入した該当データを各管理項目に記入する。CORINS の登録対象外の工事の場合は、下記 URL で公開されているコード表を参照し、該当するコードを記入する。

CORINS 施工場所コード

<http://www.cals-ed.go.jp/calsec/corins.htm>

2) 「住所コード」と「住所」の XML 表記例

- ・対象地区が 1 市区町村内の 1 箇所である場合

```
<住所情報>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所>東京都港区赤坂 7 丁目</住所>
</住所情報>
```

- ・対象地区が 1 市区町村内の 2 箇所である場合

```
<住所情報>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所>東京都港区赤坂 7 丁目</住所>
  <住所>東京都港区新橋 1 丁目</住所>
</住所情報>
```

該当地区の数を繰り返す。

- ・対象地区が複数市区町村の場合（該当する住所が全て列記可能な場合）

```
<住所情報>
  <住所コード>13102</住所コード>
  <住所>東京都中央区日本橋 3 丁目</住所>
</住所情報>
<住所情報>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所>東京都港区</住所>
</住所情報>
<住所情報>
  <住所コード>13109</住所コード>
  <住所>東京都品川区東品川 4 丁目</住所>
</住所情報>
  :           :           :
```

該当市区町村数分繰り返す。

- ・対象地区が複数市区町村の場合（設計図書等の住所で代表する場合）

```

<住所情報>
  <住所コード>13102</住所コード>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所コード>13109</住所コード>
  <住所>東京都中央区日本橋他地内</住所>
</住所情報>
  
```

中央区の他、港区及び品川区に該当する場合

- ・対象地区が 1 都道府県全域の場合

```

<住所情報>
  <住所コード>28000</住所コード>
  <住所>兵庫県</住所>
</住所情報>
  
```

- ・対象地区が発注者の管内全域等の広域に渡る場合

```

<住所情報>
  <住所コード>31000</住所コード>
  <住所コード>32000</住所コード>
  <住所コード>33000</住所コード>
  <住所コード>34000</住所コード>
  <住所コード>35000</住所コード>
  <住所>中国地方整備局管内</住所>
</住所情報>
  
```

住所コードは、管内の該当地域の数を繰り返す
(当該地域の範囲により、県コード・市区町村コードを選択できる)。

- ・特定の地域に該当しない場合

```

<住所情報>
  <住所コード>99999</住所コード>
  <住所>対象地域なし</住所>
</住所情報>
  
```

(2) 場所情報

1) 「対象水系路線名」の XML 表記例

- ・対象地域が特定の水系に位置する場合

```

<水系-路線情報>
  <対象水系路線名>利根川水系</対象水系路線名>
  :
</水系-路線情報>
  
```

- ・対象地域が複数の路線に該当する場合

```

<水系-路線情報>
  <対象水系路線名>津軽自動車道</対象水系路線名>
  :
</水系-路線情報>
<水系-路線情報>
  <対象水系路線名>八戸・久慈自動車道</対象水系路線名>
  :
</水系-路線情報>
  
```

2) 「対象河川コード」のXML表記例

```
<対象河川コード>860604nnnn</対象河川コード>
```

淀川の例である。なお下4桁(nnnn)は河川番号を示しており、「河川コード仕様書」を準拠し、0001から連番により付与する。

3) 「左右岸上下線コード」のXML表記例

- 対象地域が道路の上り線に位置する場合

```
<左右岸上下線コード>10</左右岸上下線コード>
```

- 対象地域が河川の両岸に位置する場合

```
<左右岸上下線コード>01</左右岸上下線コード>  
<左右岸上下線コード>02</左右岸上下線コード>
```

両岸の場合は左岸と右岸を列記する。

4) 「距離標」のXML表記例

- 起点側からの距離標が31K45、終点側の距離標が36K67の場合

```
<起点側距離標-n>031</起点側距離標-n>  
<起点側距離標-m>045</起点側距離標-m>  
<終点側距離標-n>036</終点側距離標-n>  
<終点側距離標-m>067</終点側距離標-m>
```

5) 境界座標（緯度経度）

「境界座標」は世界測地系(日本測地系 2000)に準拠する。その範囲は対象範囲を囲む矩形の領域を示し、西側及び東側の経度と北側及び南側の緯度を各々度(3桁)分

(2桁)秒(2桁)で表される7桁の数値を記入する。特定の地域に該当しない工事については、「99999999」(対象地域なし)を各項目に記入する。「境界座標」は「対象領域の外側」を記入する。なお、対象領域が南緯及び西経の場合は頭文字に「-」(HYPHEN-MINUS)を記入する。

境界座標(緯度・経度)の値が明確である場合は、受発注者間で確認の上、その値を管理項目に記入する。境界座標(緯度・経度)の値が不明確である場合は、地形図等から読み取るなどして、その値を管理項目に記入する。その時の精度は、工事範囲にもよるが100m程度を目安とする(経緯度の1秒は地上距離で約30mに相当する)。工事範囲が大きくなれば一般に精度も粗くなるが、可能な範囲の精度で取得することが望ましい。

なお、座標の調査方法については、次頁に示すような方法により調査できる。

6) 「境界座標」のXML表記例

- 対象地域が明らかな場合

<西側境界座標経度>1380929</西側境界座標経度>
<東側境界座標経度>1381212</東側境界座標経度>
<北側境界座標緯度>0351377</北側境界座標緯度>
<南側境界座標緯度>0350213</南側境界座標緯度>

・特定の地域に該当しない場合

<西側境界座標経度>9999999</西側境界座標経度>
<東側境界座標経度>1381212</東側境界座標経度>
<北側境界座標緯度>0351377</北側境界座標緯度>
<南側境界座標緯度>0350213</南側境界座標緯度>

(3) 境界座標の調査方法(例)

境界座標の調査方法としては、次の 5 つがある。

- 1) 測量成果電子納品「業務管理項目」境界座標入力支援サービス
- 2) 地図閲覧サービス(国土地理院)による境界座標の調査方法
- 3) 地形図による境界座標の調査方法
- 4) 都道府県の東西南北端点と重心の経度緯度の調査方法
- 5) 既知の平面直角座標を変換する方法

各調査方法を以下に示す。

1) 測量成果電子納品「業務管理項目」境界座標入力支援サービス

国土地理院では、業務・工事管理項目の境界座標に関する入力支援サービスのシステムを一般公開しており、インターネットが利用可能な環境であれば無償でサービスを利用することができる。

測量成果電子納品「業務管理項目」境界座標入力支援サービス

<http://psgsv.gsi.go.jp/koukyou/rect/index.html>

境界座標の取得方法を上記 URL の本文を引用して以下に示す。

(A) 境界座標の取得方法

まず、矢印ボタンをクリックします。



矢印ボタンが押された状態で地図中の測量した点をクリックすると、地図中にバツ印が付き、左下にその点の緯度経度が表示されます。



東端:	140° 05' 07"
西端:	140° 05' 07"
北端:	36° 06' 25"
南端:	36° 06' 25"

同様に測量した点をクリックしていくと、測量領域が赤い四角で表示され、左下に境界座標の緯度経度が表示されます。



東端:	140° 05' 07"
西端:	140° 04' 60"
北端:	36° 06' 25"
南端:	36° 06' 20"

画面中に表示されていない領域を測量したときは、虫眼鏡モードや手のひらモードで地図を移動させた後、再び矢印ボタンを押してから地図中の測量点をクリックしてください。(地図の移動のさせ方については「地図の操作」をご覧ください)

地図の操作

http://psgsv.gsi.go.jp/koukyou/rect/manual_mapcontrol.html

測量領域全体をクリックすると、左下に境界座標が表示されます。



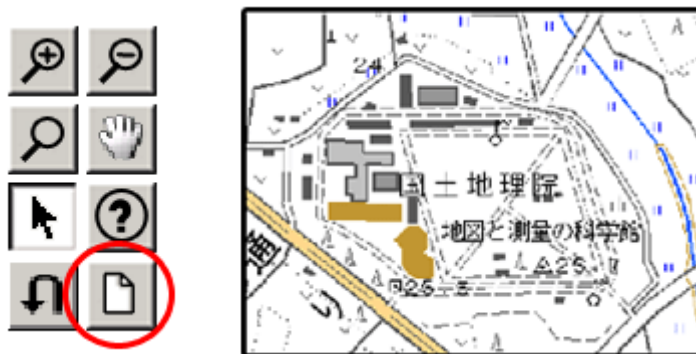
(B) クリックする測量点を間違えたときは...

やり直しボタンをクリックすると、最後の入力を取り消すことができます。



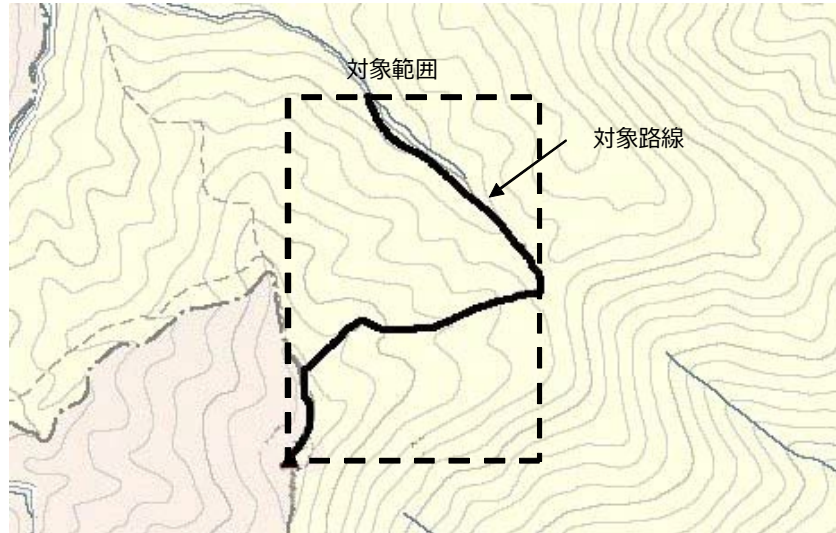
(C) 最初からやり直したいときは...

クリアボタンをクリックすると、すべての入力を消すことができます。



2) 地図閲覧サービス（国土地理院）による境界座標の調査方法

工事対象範囲を地図等におとし、左下隅および右上隅を確認する。対象範囲が路線区間である場合は、対象路線の外側を工事対象範囲とする。



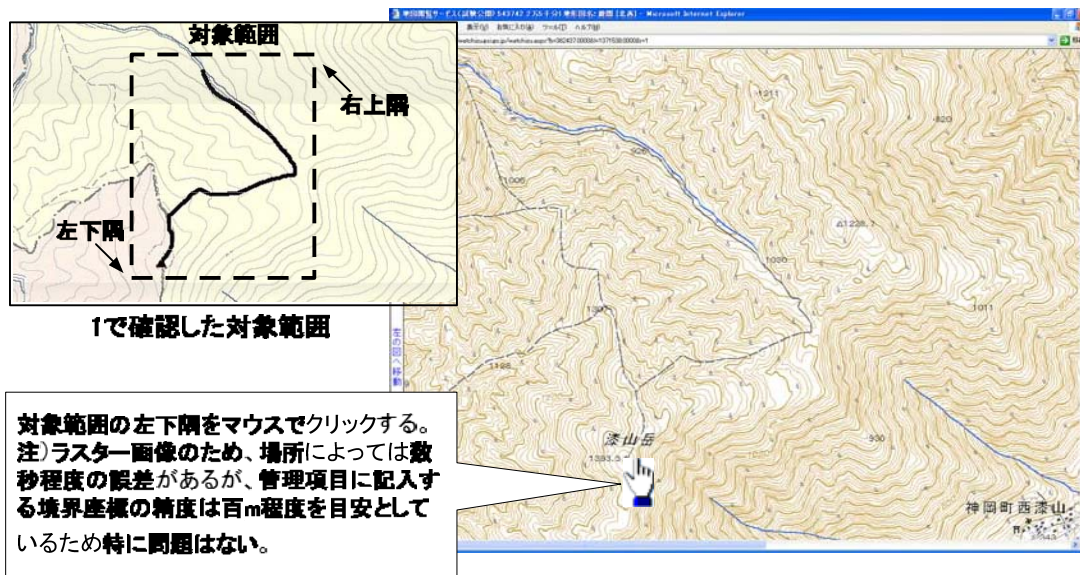
付図 4-1 工事対象範囲の取得方法

Web ブラウザより下記 URL のホームページに接続すると、「地図閲覧サービス ウォッチーズ」が表示される。

<http://watchizu.gsi.go.jp/>

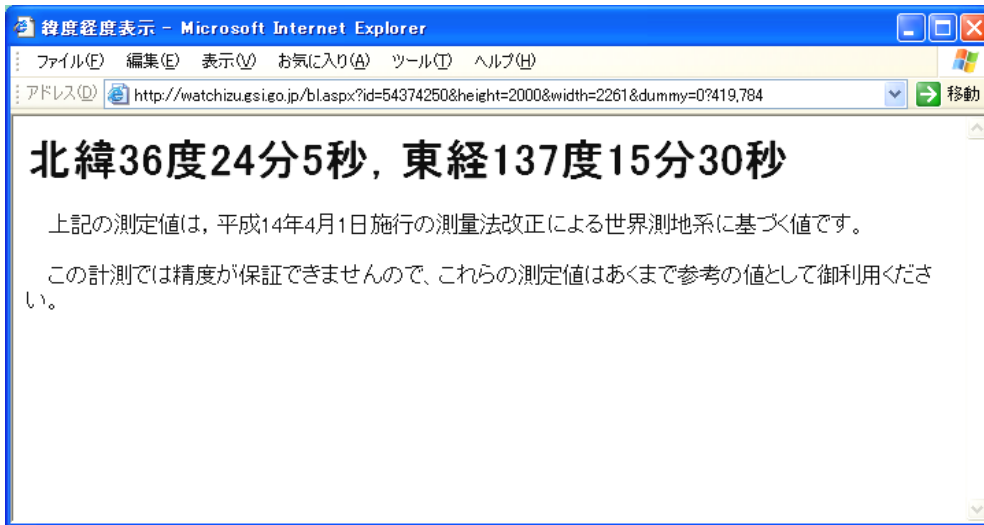
「検索画面」から、該当する地域をマウスで選択する。

表示された地形図上で、対象範囲の左下隅をマウスでクリックする。



付図 4-2 対象範囲の左下の指示

クリックした地点の緯度経度が表示される。表示された北緯を「南側境界座標緯度」、東経を「西側境界座標経度」に記入する。

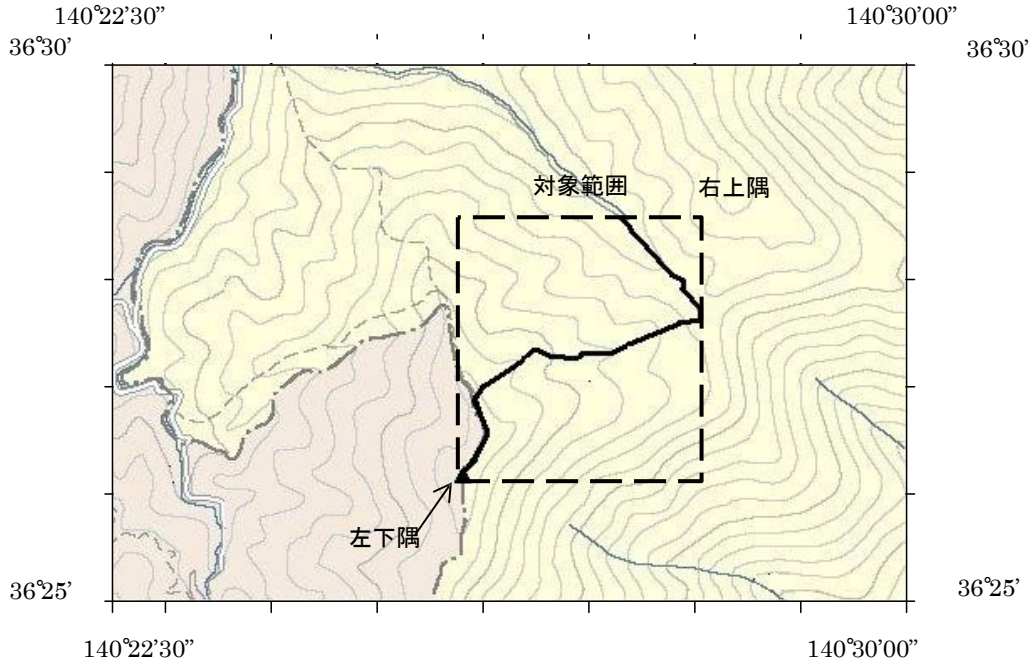


付図 4-3 緯度経度の表示

同様の手順で対象範囲の右上隅をマウスでクリックし、表示された北緯を「北側境界座標緯度」、東経を「東側境界座標経度」に記入する。

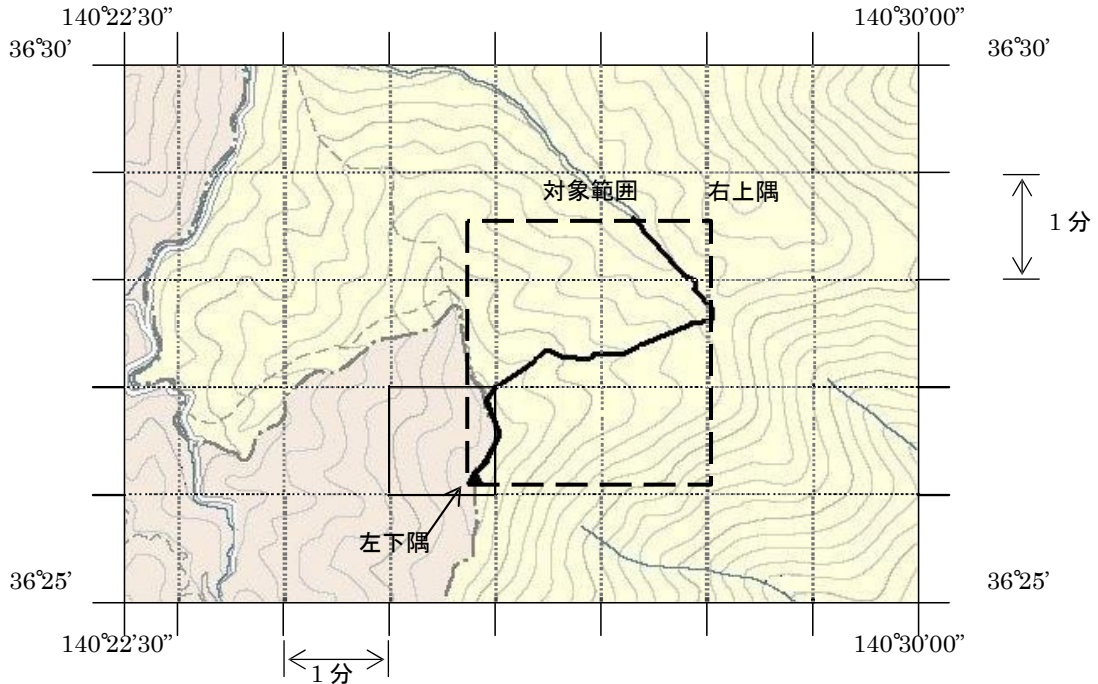
3) 地形図による境界座標の調査方法

1. 工事対象範囲を地形図（1/25,000、1/50,000、1/200,000）におとし、**左下隅**および**右上隅**を確認する。対象範囲が路線区間である場合は、対象路線の外側を工事対象範囲とする。



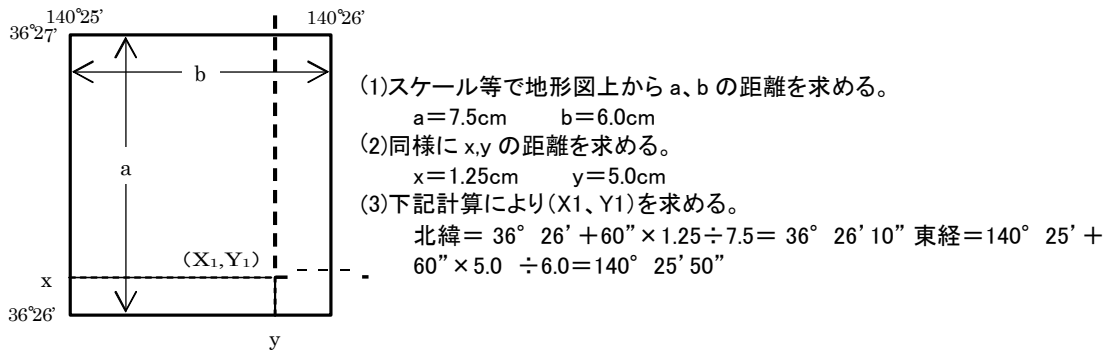
付図 4-4 工事対象範囲の取得方法

2. 地形図が 1/25,000 の場合には、図郭線上に 1 分ごとの目盛りがきざまれているので、これらの目盛りを使用し、下図のように経緯度 1 分ごとのメッシュ（方眼）を作図する。



付図 4-5 メッシュ図（1/25,000 地形図）

3. 対象範囲の左下隅を含むメッシュ（二重線で囲まれた部分）を下図のように取り出し、比例配分等により秒数を計算し、**左下隅**（X₁, Y₁）の座標を求める。求められた北緯 X₁ を「南側境界座標緯度」に、東経 Y₁ を「西側境界座標経度」に記入する。



付図 4-6 メッシュ拡大図

4. 右上隅も同様の手順で、北緯を「北側境界座標緯度」に、東経を「東側境界座標経度」に記入する。

4) 都道府県の東西南北端点と重心の経度緯度の調査方法

各都道府県の東西側の経度、南北側の緯度については、下記 URL のホームページを参照して記入することができる。

(参照先：日本の東西南北端点の経度緯度)

国土地理院

<http://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/CENTER/center.html>

5) 既知の平面直角座標を変換する方法

平面図等で既に対象範囲の平面直角座標が判明している場合は、それらの値を緯度経度に変換して境界座標に記入することができる。

(インターネット上で利用可能な変換プログラム例)

国土地理院

<http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/surveycalc/main.html>

付属資料 5 XML 文書作成における留意点

XML 文書の作成にあたっての留意点を以下に示す。

- XML 文書における文字セットは、「8-2 使用文字」によるものとする。
- XML 文書の文字符号化方式は、XML 文書の標準符号化方式である Unicode 形式の UTF-16、または UTF-8 を基本とすべきであるが、コンピュータシステムの現状を鑑み、Shift_JIS とする。
- 提出する XML 文書には、DTD を埋め込む方式をとらず、外部ファイル参照方式を採用する。
- XML の予約文字（JIS X 0201（ラテン文字用図形文字）の不等号（より小）（<）、不等号（より大）（>）、アンパサンド（&）、アポストロフ（'）、引用符（"））については、実体参照を用いることで使用することができる。以下に実体参照を示す。

表付 5-1 実体参照

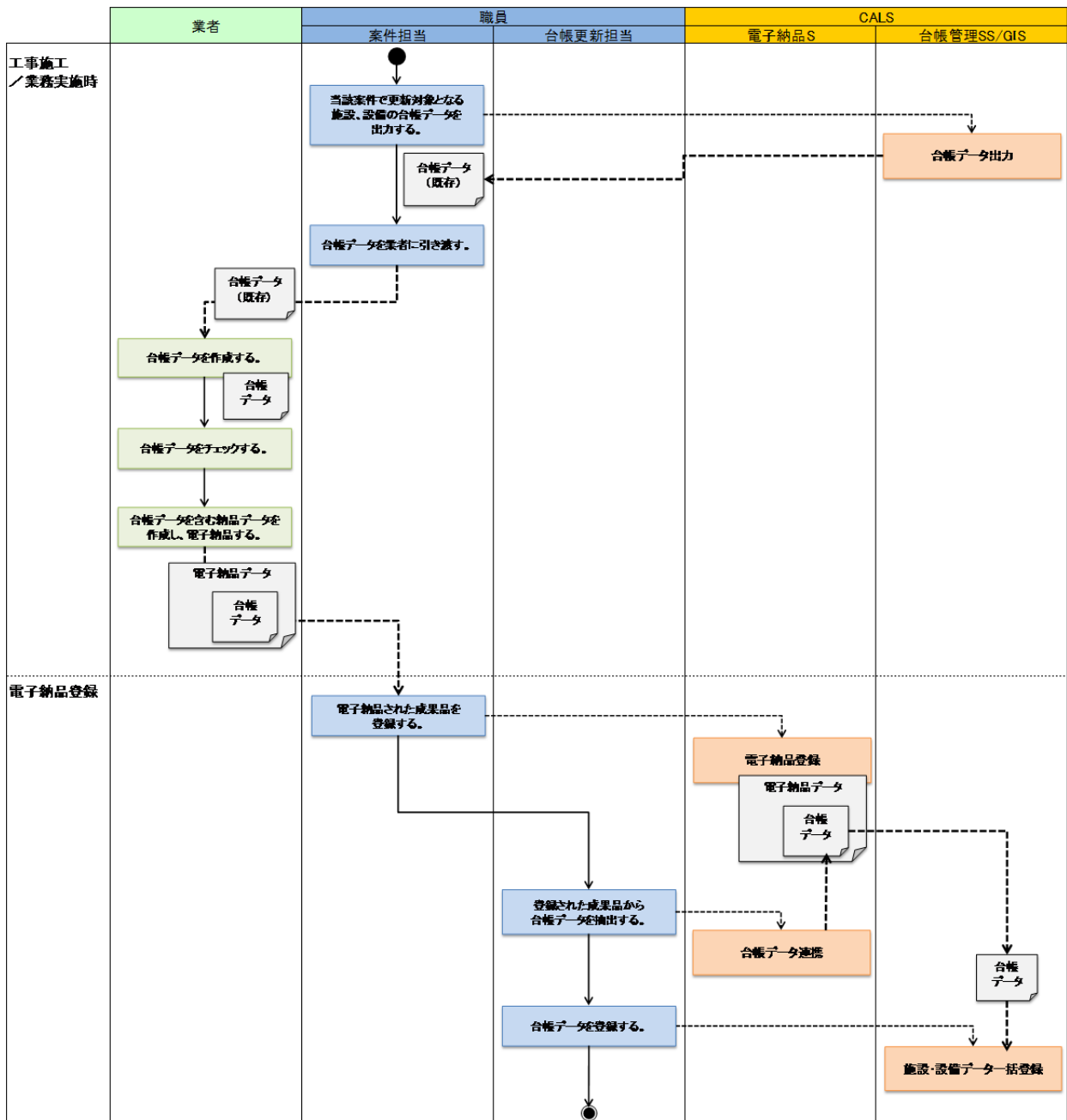
記号	実体参照
”	"
&	&
'	'
<	<
>	>

- XML 文書の作成は、「JIS X 4159:2005 拡張可能なマーク付け言語 (XML)1.0」を参照すること。

付属資料6 「台帳」フォルダの取り扱い

1. 1 概要

「台帳」フォルダは大阪府建設 CALS システムの施設・設備台帳の更新データを格納するためのフォルダである。
この「台帳」フォルダを利用し、電子成果品から大阪府建設 CALS システムの施設・設備台帳を更新する場合に行う作業の流れを以下に示す。

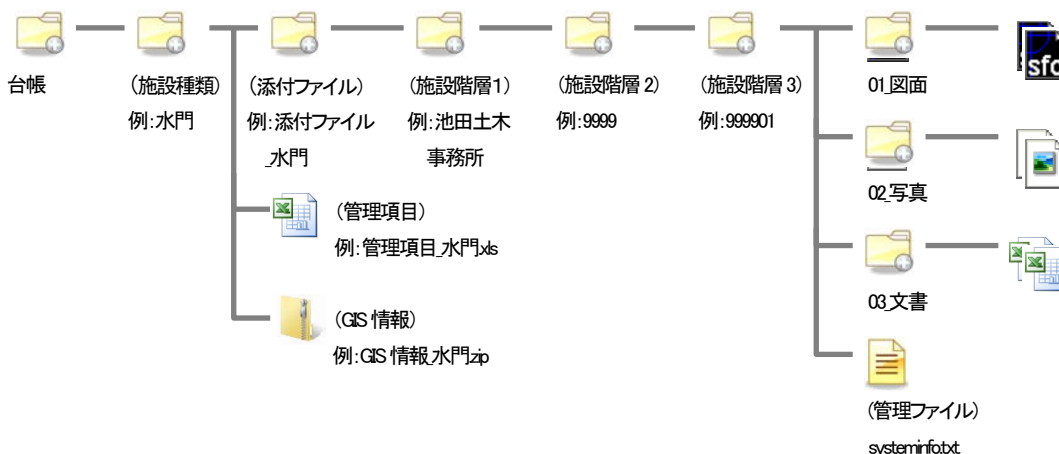


1. 2 「台帳」フォルダ作成要領

電子納品データに含まれる「台帳」フォルダはつぎのとおり作成する。

- 「台帳」フォルダの直下には、施設種類をフォルダ名としたフォルダが並び、それぞれの施設種類に対応した台帳のデータを格納する。
- 施設種類のフォルダに格納するデータには、「管理項目」、「添付ファイル」、「GIS 情報」の 3 種類のデータがある。
- 「管理項目」データは、1 行 1 施設の管理項目情報を記述した Excel (XLS) 形式もしくは CSV 形式のファイルである。
- 「添付ファイル」データは、施設階層をフォルダ化し、個々の施設ごとのフォルダに図面、写真、文書のファイルをそれぞれ「01_図面」、「02_写真」、「03_文書」以下に格納したフォルダである。
- 「GIS 情報」データは、施設の位置情報を表す Shape 形式のファイル一式を ZIP 圧縮したファイルである。
- 台帳フォルダには、複数個の施設種類のフォルダを格納することができる。
- 施設種類のフォルダには、各種複数個のデータを格納することができる。

台帳フォルダイメージ



- 「管理項目」データ
 - ファイル名は「管理項目_施設種類.xls (もしくは csv)」とする。ファイル名に施設名等の情報を含める場合は、施設種類の後ろに「_(アンダーバー)」をつけ、その後に施設名等を付与する。
例) 「管理項目_水門.xls」、「管理項目_水門機器_木津川水門.csv」
 - ファイルに記述する管理項目情報は施設種類に異なるため、大阪府建設 CALS システムから該当施設種類の管理項目データを出力したものを参考にすること。
- 「添付ファイル」データ
 - 先頭のフォルダ名の命名規則は「添付ファイル_施設種類」とする。
 - 「01_図面」、「02_写真」、「03_文書」のフォルダは直下のみファイルを格納するものとする。(それぞれのフォルダに、個別のフォルダを作成し、ファイルを格納することはできない。)
 - 大阪府建設 CALS システムから出力した添付ファイル登録用フォルダ作成バッチにより、施設毎のフォルダに「systeminfo.txt」が作成されている場合は、それを他へのコピー、内容変更を行ってはならない。また、新規施設・設備等で、施設ごとのフォルダを新たに作成する場合、特に「systeminfo.txt」を作成する必要はない。
 - 先頭フォルダ以下のフォルダ階層、フォルダ名は施設種類ごとに異なるため、次ページの表を参照のこと。

- 「GIS情報」データ
 - ファイル名の命名規則は「GIS情報_施設種類.zip」とする。
 - GIS情報の図形情報、属性情報は施設種類ごとに異なるため、次ページの表を参照のこと。

台帳データ作成の際には、下記からダウンロードできる「施設・設備情報更新チェックツール」で、作成した台帳データをチェックすること。使用方法は、同封のマニュアルを参照のこと。

<https://www11.cals.pref.osaka.jp/tools/SetsubiChecker.zip>

「台帳」フォルダからの台帳データ登録に対応する施設種類、及び、それらの「添付ファイル」フォルダの階層情報、GIS情報登録の有無については下表のとおり。

表 1 施設種類一覧

業務区分	施設種類	フォルダ					GIS情報登録
		1層目	2層目	3層目	4層目	5層目	
河川	ダム	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号			-
	堰	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号			○
	堰扉	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号(堰)	整理番号		-
	水門	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号			○
	水門扉	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号(水門)	整理番号		-
	水門機器	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号(水門)	整理番号		-
	陸閘(鉄扉)	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号			-
	鉄扉機器	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号(陸閘(鉄扉))	整理番号		-
	鉄扉扉	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号(陸閘(鉄扉))	整理番号		-
	樋門・樋管	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号			○
	樋門・樋管扉	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号(樋門・樋管)	整理番号		-
	排水機場	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号			-
	排水機場機器	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号(排水機場)	整理番号		-
	排水機場ポンプ	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号(排水機場)	整理番号		-
	観測施設	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号			○
	河川浄化施設	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号			-
	遊水地	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号			-
	遊水地機器	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号(遊水地)	整理番号		-
	流域調節池	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号			-
	流域調節池機器	事務所名	河川番号(河川コード)	整理番号(流域調節池)	整理番号		-
地下河川	事務所名	河川番号(河川コード)	地下河川名			-	
地下河川機器	事務所名	河川番号(河川コード)	地下河川名	整理番号		-	
下水道	機械機器(管渠)	事務所名	流域名	幹線名	データ整理番号		-
	機械補機類(管渠)	事務所名	流域名	幹線名	データ整理番号	補機類データ整理番号	-
	機械機器(水みらいセンター)	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号		-
	電気機器(水みらいセンター)	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号		-
	機械補機類(水みらいセンター)	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号	補機類データ整理番号	-
	保守・修繕(機械機器(水みらいセンター))	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号	管理番号	-
	電気補機類(水みらいセンター)	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号	補機類データ整理番号	-
	保守・修繕(電気機器(水みらいセンター))	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号	管理番号	-
	機械機器(ポンプ場)	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号		-
	電気機器(ポンプ場)	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号		-
	機械補機類(ポンプ場)	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号	補機類データ整理番号	-
	保守・修繕(機械機器(ポンプ場))	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号	管理番号	-
	電気補機類(ポンプ場)	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号	補機類データ整理番号	-
	保守・修繕(電気機器(ポンプ場))	事務所名	流域名	施設名	データ整理番号	管理番号	-
港湾	埠頭保安設備	事務所名	港湾名	施設番号			○
海岸	水門等設備	事務所名	市町名	設備名			-
	排水機場等設備	事務所名	設備名称				-
	遠隔監視制御設備	事務所名	名前(海岸名)	施設番号			○
	津波防災情報システム	事務所名	名前(海岸名)	施設番号			○

GIS情報の図形情報、属性情報は下表のとおり。

施設種類						
堰、水門、樋門・樋管、観測施設						
図形情報						
シンボル						
属性名	項目名	定義	型	様式	必須	備考
ID	ID	事務所コード(2桁) +整理番号(9桁)	文字列	半角11文字	必	
J_NAME	事務所名	事務所名	文字列	半角30文字	必	
K_CODE	河川番号(河川コード)	河川番号	文字列	半角16文字	必	
SEIRI_NO	整理番号	河川コード(4桁) +属性種別コード(2桁) +通し番号(3桁)	文字列	半角9文字	必	属性種別、コードは下記のとおり。 堰:02 樋門樋管:03 水門:04 観測施設:10
SYUBETSU	属性種別	属性種別	文字列	半角12文字	必	
SISETSU	施設名	施設名	文字列	半角40文字		

施設種類						
埠頭保安設備						
図形情報						
シンボル						
属性名	項目名	定義	型	様式	必須	備考
J_NAME	事務所名		文字列	半角30文字	必	
KOWAN_NM	港湾名		文字列	半角10文字	必	
SISETSU_NO	施設番号		文字列	半角60文字	必	
CHIKU_NM	地区港湾名		文字列	半角20文字		

施設種類						
遠隔監視制御設備						
図形情報						
シンボル						
属性名	項目名	定義	型	様式	必須	備考
J_NAME	事務所名		文字列	半角30文字	必	
KAIGAN_NM	海岸名		文字列	半角20文字	必	
SISETSU_NO	施設番号		文字列	半角20文字	必	
SHICHO_NM	市町名		文字列	半角20文字		

施設種類						
津波防災情報システム						
図形情報						
シンボル						
属性名	項目名	定義	型	様式	必須	備考
J_NAME	事務所名		文字列	半角30文字	必	
KAIGAN_NM	海岸名		文字列	半角20文字	必	
SISETSU_NO	施設番号		文字列	半角20文字	必	
SHICHO_NM	市町名		文字列	半角20文字		
SHOKAN	所管		文字列	半角30文字		

施設コード表(大阪府編)

(e) 施設大分類

(f) 施設小分類

施設機器コードについて

詳細は国土交通省「工事完成図書の電子納品要領(案)機械設備工事編」付属資料3による。

このコード表は、施設コードのうちの〔e〕〔f〕を定めるものである。a～dについてはCORINSのコードを記載すること。

下水道施設の場合

	国土交通省区分	国土交通省説明	形 式	表現内容	下水機器台帳分類	
施設コード	a	発注者の大分類	CORINSの大区分	1桁半角数字	大阪府	
	b	発注者の中分類	CORINSの中区分	2桁半角数字	下水道事務所	
	c	発注者の小分類	CORINSの小区分	2桁半角数字	流域下水道事務所	
	d	発注者の細分類	CORINSの細区分	3桁半角数字		
	e	施設大分類	TECRISの業務対象水系・路線名	5桁半角数字	流域下水道	流域名
	f	施設小分類	水門・排水機場等施設の区分	1桁半角英字 + 3桁半角数字	処理場	事業所
機器コード	g	設備大分類	非常用洪水吐設備、分流水門設備等の設備区分	2桁半角英数字	沈砂池設備	大分類名
	h	設備小分類	主ゲート、制水ゲート等の水門扉の区分	2桁半角数字	沈砂設備	中分類名
	i	設備区分番号	水門扉が複数ある場合に区分する数字	2桁半角数字	系列	系列名
	j	機器名(部位)	扉体、戸当たり等の部位の区分	2桁半角数字	自動除塵機	小分類名
	k	機器区分番号	同一機器等が複数ある場合に区分する数字	2桁半角数字	号機	複数ある場合の号機分け
	l	詳細		2桁半角数字	-	
	m	詳細区分番号		2桁半角数字	-	

a～fまでは施設コード、g～mまでは機器コードである。

施設名を表すe、fについては次項以降のコード表を参照のこと。

a～kまでは必須項目

施設大分類(e)	コード	施設小分類(f)	コード
一級河川寝屋川導水路	10001	太間排水機場	P 0 0 1
		寝屋川分水施設	G 0 0 1
		寝屋川導水路	G 0 0 2
一級河川寝屋川	10002	寝屋川分水施設	G 0 0 3
一級河川打上川	10003	打上川治水緑地	G 0 0 4

施設大分類	コード	施設小分類	コード
一級河川安治川(旧淀川)	10101	安治川水門	G 0 0 1
		安治川右岸樋門	G 0 0 2
一級河川尻無川	10102	尻無川水門	G 1 0 1
		尻無川右岸1号鉄扉	G 1 0 2
		尻無川左岸1号鉄扉	G 1 0 3
		尻無川左岸2号鉄扉	G 1 0 4
		尻無川左岸3号鉄扉	G 1 0 5
		尻無川左岸4号鉄扉	G 1 0 6
		尻無川左岸5号鉄扉	G 1 0 7
		尻無川左岸6号鉄扉	G 1 0 8
		尻無川左岸7号鉄扉	G 1 0 9
		尻無川左岸8号鉄扉	G 1 1 0
		尻無川左岸9号鉄扉	G 1 1 1
		尻無川左岸10号鉄扉	G 1 1 2
		尻無川左岸11号鉄扉	G 1 1 3
		尻無川左岸12号鉄扉	G 1 1 4
		尻無川左岸12-1号鉄扉	G 1 1 5
		尻無川左岸13号鉄扉	G 1 1 6
		尻無川左岸14号鉄扉	G 1 1 7
		尻無川左岸15号鉄扉	G 1 1 8
		尻無川左岸16号鉄扉	G 1 1 9
		尻無川左岸17号鉄扉	G 1 2 0
尻無川左岸18号鉄扉	G 1 2 1		
尻無川左岸19号鉄扉	G 1 2 2		
一級河川旧淀川	10103	毛馬排水機場	P 3 0 1
一級河川土佐堀川	10104	天神ポンプ所	P 4 0 1

施設大分類(e)	コード	施設小分類(i)	コード
一級河川木津川	10105	木津川水門	G 2 0 1
		三軒家水門	G 2 0 2
		木津川左岸樋門	G 2 0 3
		木津川左岸樋門(千島土地)	G 2 0 4
		木津川右岸1号鉄扉	G 2 0 5
		木津川右岸2号鉄扉	G 2 0 6
		木津川右岸3号鉄扉	G 2 0 7
		木津川右岸4号鉄扉	G 2 0 8
		木津川右岸5号鉄扉	G 2 0 9
		木津川右岸6号鉄扉	G 2 1 0
		木津川右岸7号鉄扉	G 2 1 1
		木津川右岸8号鉄扉	G 2 1 2
		木津川左岸2号鉄扉	G 2 1 3
		木津川左岸3号鉄扉	G 2 1 4
		木津川左岸4号鉄扉	G 2 1 5
		木津川左岸6号鉄扉	G 2 1 6
		木津川左岸7号鉄扉	G 2 1 7
		木津川左岸9号鉄扉	G 2 1 8
		木津川左岸10号鉄扉	G 2 1 9
		木津川左岸19号鉄扉	G 2 2 0
		木津川左岸21号鉄扉	G 2 2 1
		木津川左岸22号鉄扉	G 2 2 2
		木津川左岸23号鉄扉	G 2 2 3
		木津川左岸24号鉄扉	G 2 2 4
		木津川左岸25号鉄扉	G 2 2 5
		木津川左岸28号鉄扉	G 2 2 6
		木津川左岸29号鉄扉	G 2 2 7
		木津川左岸30号鉄扉	G 2 2 8
		木津川左岸33号鉄扉	G 2 2 9
		西大阪治水事務所	Z 0 0 1

施設大分類(e)	コード	施設小分類(i)	コード
一級河川正連寺川	10106	正連寺川水門	G 3 0 1
		恩貴島右岸鉄扉	G 3 0 2
		恩貴島左岸鉄扉	G 3 0 3
		正連寺川右岸1号鉄扉	G 3 0 4
		正連寺川右岸2号鉄扉	G 3 0 5
		正連寺川右岸3号鉄扉	G 3 0 6
		正連寺川右岸5号鉄扉	G 3 0 7
		正連寺川右岸6号鉄扉	G 3 0 8
一級河川六軒家川	10107	六軒家川水門	G 4 0 1
		六軒家川左岸1号鉄扉	G 4 0 2
一級河川神崎川	10108	出来島水門	G 5 0 1
		旧猪名川水門	G 5 0 2
		旧猪名川排水機場	P 5 0 1
		番田水門	G 5 0 3
		神崎川水質浄化施設	C 0 0 1
		クボタ1号鉄扉	G 5 0 4
		クボタ2号鉄扉	G 5 0 5
		クボタ3号鉄扉	G 5 0 6
		合同製鉄鉄扉	G 5 0 7
		中山興業鉄扉	G 5 0 8
		千北橋左岸鉄扉	G 5 0 9
		千北橋右岸鉄扉	G 5 1 0
		大和田船溜鉄扉	G 5 1 1
		千船大橋左岸鉄扉	G 5 1 2
		千船大橋右岸鉄扉	G 5 1 3
		神崎大橋左岸鉄扉	G 5 1 4
神崎大橋右岸鉄扉	G 5 1 5		
左門橋左岸鉄扉	G 5 1 6		
阪急神戸線左岸鉄扉	G 5 1 7		
阪急神戸線右岸鉄扉	G 5 1 8		
神崎川出張所	Z 0 0 2		

施設大分類(e)	コード	施設小分類(i)	コード
一級河川寝屋川(調節池)	10201	香里西調節池	P 6 0 1
		大正川調節池	P 6 0 2
		志紀調節池	P 6 0 3
		布施駅前調節池	P 6 0 4
		三ツ島調節池	P 6 0 5
		南郷調節池	P 6 0 6
		長瀬調節池	P 6 0 7
		御幸西調節池	P 6 0 8
		中鴻池調節池	P 6 0 9
		一番町調節池	P 6 1 0
		萱島調節池	P 6 1 1
		大久保調節池	P 6 1 2
		東諸福調節池	P 6 1 3
		平野川街路下調節池	P 6 1 4
		古川調節池	P 6 1 5
		加美調節池	P 6 1 6
		久宝寺調節池	P 6 1 7
寝屋川流域(水門)	10202	長瀬川水門	G 6 0 1
		古川浄化水門	G 6 0 2
		古川水門	G 6 0 3
		城北寝屋川口水門	G 6 0 4
		城北大川口水門	G 6 0 5

施設大分類(e)	コード	施設小分類(i)	コード
寝屋川流域(治水緑地)	10203	寝屋川治水緑地	G 7 0 1
		恩智川治水緑地	G 7 0 2
		花園多目的遊水地	G 7 0 3
寝屋川流域(浄化施設)	10204	平野川浄化ポンプ場	C 1 0 1
		御神田川浄化施設	C 1 0 2
		音川浄化施設	C 1 0 3
		花園浄化施設	C 1 0 4
寝屋川流域(その他)	10205	平野川分水路排水機場	P 8 0 1
		寝屋川水系改修工営所	Z 1 0 1
		住道新橋止水用鉄扉	G 8 0 1
		恩智川堰	G 8 0 2
		樋門樋管	G 8 0 3
		深野北ポンプ場(一部)	P 9 0 1

施設大分類 (e)	コード	施設小分類 (f)	コード
泉州海岸	30001	堅川・緑川排水機場	P 0 0 1
		新川排水機場	P 0 0 2
		八軒川排水機場	P 0 0 3
		北境川排水機場	P 0 0 4
		田尻川排水機場	P 0 0 5
		大里川排水機場	P 0 0 6
		車屋川排水機場	P 0 0 7
		新浜川排水機場	P 0 0 8
		谷川港排水施設	P 0 0 9
		阪南3区排水施設	P 0 1 0
	堺市	G 0 0 1	
	高石市	G 0 0 2	
	泉大津市	G 0 0 3	
	忠岡町	G 0 0 4	
	岸和田市	G 0 0 5	
	貝塚市	G 0 0 6	
	泉佐野市	G 0 0 7	
	田尻町	G 0 0 8	
	泉南市	G 0 0 9	
	阪南市	G 0 1 0	
	岬町	G 0 1 1	

施設大分類 (e)	コード	施設小分類 (f)	コード
港湾局	30002	本庁舎	Z 2 0 1
堺泉北港	30003	堺1区	G 2 0 1
		堺2区	G 2 0 2
		堺3区	G 2 0 3
		堺4区	G 2 0 4
		堺5区	G 2 0 5
		堺6区	G 2 0 6
		堺7区	G 2 0 7
		泉北1区	G 2 0 8
		泉北2区	G 2 0 9
		泉北3区	G 2 1 0
		泉北4区	G 2 1 1
		泉北5区	G 2 1 2
		泉北6区	G 2 1 3
		泉北7区	G 2 1 4
阪南港	30004	木材港地区	G 3 0 1
		岸和田旧港地区	G 3 0 2
		阪南1区	G 3 0 3
		阪南2区	G 3 0 4
		阪南3区	G 3 0 5
		阪南4区	G 3 0 6
		阪南5区	G 3 0 7
		阪南6区	G 3 0 8
阪南7区	G 3 0 9		

施設大分類 (e)	コード	施設小分類 (f)	コード
二色港	30005	貝塚地区	G 4 0 1
泉佐野港	30006	泉佐野地区	G 4 1 1
尾崎港	30007	尾崎地区	G 4 2 1
淡輪港	30008	淡輪地区	G 4 3 1
深日港	30009	深日地区	G 4 4 1
		多奈川地区	G 4 5 1
泉州港	30010	北港地区	G 4 6 1
堺(出島)漁港	30011	堺(出島)漁港	G 4 7 1
石津漁港	30012	石津漁港	G 4 8 1
高石漁港	30013	高石漁港	G 4 9 1
岸和田漁港	30014	岸和田漁港	G 5 0 1
佐野漁港	30015	佐野漁港	G 5 1 1
田尻漁港	30016	田尻漁港	G 5 2 1
岡田漁港	30017	岡田漁港	G 5 3 1
西島取漁港	30018	西島取漁港	G 5 4 1
下荘漁港	30019	下荘漁港	G 5 5 1
淡輪漁港	30020	淡輪漁港	G 5 6 1
深日漁港	30021	深日漁港	G 5 7 1
小島漁港	30022	小島漁港	G 5 8 1

施設大分類(e)	コード	施設小分類(f)	コード
流域名		事業所	
猪名川流域下水道	40001	原田処理場	W001
		その他	W099
安威川流域下水道	40002	中央処理場	W100
		岸部ポンプ場	W101
		味舌ポンプ場	W102
		穂積ポンプ場	W103
		摂津ポンプ場	W104
		その他	W199
淀川右岸流域下水道	40003	高槻処理場	W200
		前島ポンプ場	W201
		その他	W219
淀川左岸流域下水道	40004	渚処理場	W220
		石津中継ポンプ場	W221
		その他	W299

施設大分類(e)	コード	施設小分類(f)	コード		
流域名		事業所			
寝屋川北部流域下水道	40005	鴻池処理場	W300		
		菊水ポンプ場	W301		
		太平ポンプ場	W302		
		氷野ポンプ場	W303		
		桑才ポンプ場	W304		
		茨田(古川)ポンプ場	W305		
		茨田(中継)ポンプ場	W306		
		深野北ポンプ場	W307		
		枚方中継ポンプ場	W308		
		寝屋川中継ポンプ場	W309		
		萱島ポンプ場	W310		
		増補幹線設備	W311		
		その他	W349		
		寝屋川南部流域下水道	40006	川俣処理場	W350
				小阪ポンプ場	W351
				新家ポンプ場	W352
				深野ポンプ場	W353
長吉ポンプ場	W354				
寺島ポンプ場	W355				
小阪合ポンプ場	W356				
川俣ポンプ場	W357				
新池島ポンプ場	W358				
植付ポンプ場	W359				
増補幹線設備	W360				
その他	W399				

施設大分類(e)	コード	施設小分類(f)	コード
流域名		事業所	
大和川下流南部流域下水道	40007	狭山処理場	W400
		錦郡中継ポンプ場	W401
		長野中継ポンプ場	W402
		その他	W419
大和川下流西部流域下水道	40008	今池処理場	W420
		今井戸川系ポンプ場	W421
		今井戸系ポンプ場	W422
		西除系ポンプ場	W423
		その他	W439
大和川下流東部流域下水道	40009	大井処理場	W440
		川面中継ポンプ場	W441
		小吹台中継ポンプ場	W442
		その他	W499
南大阪湾岸北部流域下水道	40010	北部処理場	W500
		和泉中継ポンプ場	W501
		その他	W519
南大阪湾岸中部流域下水道	40011	中部処理場	W520
南大阪湾岸中部流域下水道	40011	その他	W539
南大阪湾岸南部流域下水道	40012	南部処理場	W540
		淡輪中継ポンプ場	W541
		深日中継ポンプ場	W542
		その他	W549

機器コード表(大阪府編) ～ 下水設備 ～

- {g} 設備大分類
- {h} 設備小分類
- {j} 機器名(部位)

施設機器コードについて

詳細は国土交通省「工事完成図書の電子納品要領(案)機械設備工事編」付属資料3による。

このコード表は、上記要領に記載のない下水設備の機器コード(g) (h) (j) を定めるものである。(i) (k) については機場ごとに定めること。

下水道施設の場合

	国土交通省区分	国土交通省説明	形 式	表現内容	下水機器台帳分類	
施設コード	a	発注者の大分類	CORINSの大区分	1桁半角数字	大阪府	
	b	発注者の中分類	CORINSの中区分	2桁半角数字	下水道事務所	
	c	発注者の小分類	CORINSの小区分	2桁半角数字	流域下水道事務所	
	d	発注者の細分類	CORINSの細区分	3桁半角数字		
	e	施設大分類	TECRISの業務対象水系・路線名	5桁半角数字	流域下水道	流域名
	f	施設小分類	水門・排水機場等施設の区分	1桁半角英字 + 3桁半角数字	処理場	事業所
機器コード	g	設備大分類	非常用洪水吐設備、分流水門設備等の設備区分	2桁半角英数字	沈砂池設備	大分類名
	h	設備小分類	主ゲート、制水ゲート等の水門扉の区分	2桁半角数字	沈砂設備	中分類名
	i	設備区分番号	水門扉が複数ある場合に区分する数字	2桁半角数字	系列	系列名
	j	機器名(部位)	扉体、戸当たり等の部位の区分	2桁半角数字	自動除塵機	小分類名
	k	機器区分番号	同一機器等が複数ある場合に区分する数字	2桁半角数字	号機	複数ある場合の号機分け
	l	詳細		2桁半角数字	-	
	m	詳細区分番号		2桁半角数字	-	

a～f までは施設コード、g～m までは機器コードである。

下水設備のg, h, jについては次項以降のコード表を参照のこと。

a～k までは必須項目

設備大分類(g)	コード	設備小分類(h)	コード
大分類		中分類	
沈砂池設備	WA	スクリーンかす設備	01
		沈砂設備	02
		ゲート設備	03
ポンプ設備	WB	汚水ポンプ設備	01
		雨水ポンプ設備	02
水処理設備	WC	最初沈殿池設備	01
		反応タンク設備	02
		最終沈殿池設備	03
		消毒設備	04
		用水設備	05
汚泥処理設備	WD	消化タンク設備	01
		洗浄タンク設備	02
		前処理設備	03
		濃縮設備	04
		薬注設備	05
		熱処理設備	06
		脱水設備	07
		焼却炉設備	08
		空気余熱設備	09
		白煙防止設備	10
		集塵設備	11
		排煙設備	12
		燃料設備	13
		汚泥圧送設備	14
高度処理設備	WE	凝集沈殿設備	01
		溶存酸素回復設備	02
		急速ろ過設備	03
		活性炭設備	04

設備大分類(g)	コード	設備小分類(h)	コード
大分類		中分類	
共通	WF	管廊設備	01
脱臭設備	WG	臭気ガス吸引設備	01
		吸着脱臭設備	02
		薬液洗浄式脱臭設備	03
		生物脱臭設備	04
		オゾン脱臭設備	05
		直接燃焼脱臭設備	06
増補幹線	WH	増補幹線設備	01
沈砂池電気設備	WI	高圧受変電設備	02
		自家発電設備	03
		直流電源設備	04
		高圧動力盤設備	05
		低圧動力盤設備	06
		計装設備	07
		中央監視制御設備	08
		通信設備	09
ポンプ電気設備	WJ	高圧受変電設備	02
		自家発電設備	03
		直流電源設備	04
		高圧動力盤設備	05
		低圧動力盤設備	06
		計装設備	07
		中央監視制御設備	08
		通信設備	09
水処理電気設備	WK	高圧受変電設備	02
		自家発電設備	03
		直流電源設備	04
		高圧動力盤設備	05
		低圧動力盤設備	06
		計装設備	07
		中央監視制御設備	08
		通信設備	09

設備大分類(g)	コード	設備小分類(h)	コード
大分類		中分類	
汚泥処理電気設備	WL	高圧受変電設備	02
		自家発電設備	03
		直流電源設備	04
		高圧動力盤設備	05
		低圧動力盤設備	06
		計装設備	07
		中央監視制御設備	08
		通信設備	09
高度処理電気設備	WM	高圧受変電設備	02
		自家発電設備	03
		直流電源設備	04
		高圧動力盤設備	05
		低圧動力盤設備	06
		計装設備	07
		中央監視制御設備	08
		通信設備	09
脱臭電気設備	WN	高圧受変電設備	02
		自家発電設備	03
		直流電源設備	04
		高圧動力盤設備	05
		低圧動力盤設備	06
		計装設備	07
		中央監視制御設備	08
		通信設備	09
増補幹線電気設備	WO	高圧受変電設備	02
		自家発電設備	03
		直流電源設備	04
		高圧動力盤設備	05
		低圧動力盤設備	06
		計装設備	07
		中央監視制御設備	08
		通信設備	09
電気設備	WP	特高受変電設備	01
		高圧受変電設備	02
		自家発電設備	03
		直流電源設備	04
		高圧動力盤設備	05
		低圧動力盤設備	06
		計装設備	07
		中央監視制御設備	08
		通信設備	09

沈砂池設備 : WA

設備小分類 (h)	コード	機器名 (部位) (i)	コード	設備小分類 (h)	コード	機器名 (部位) (i)	コード	設備小分類 (h)	コード	機器名 (部位) (i)	コード	設備小分類 (h)	コード	機器名 (部位) (i)	コード
中分類		小分類		中分類		小分類		中分類		小分類		中分類		小分類	
スクリーンかす設備	01	自動除塵機	01	沈砂設備	02	破碎機	13	ゲート設備	03	レリーフ弁	18				
		ベルトコンベヤ	02			排水ポンプ	14			消音器	19				
		フライトコンベヤ	03			ケースコンベヤ	15			ダンパー	20				
		スキップホイスト	04			排気ファン	16			油圧ユニット	21				
		ホッパ	05			ダンパー	17			計器類	22				
		スクリーンかす洗浄機	06			覆蓋	18			その他弁類	23				
		トラフコンベヤ	07			電動天井クレーン	19			その他	99				
		電動ゲート	08			電動ホイスト	20								
		油ポンプ	09			手動チェーンブロック	21								
		スカム分離機	10			電動チェーンブロック	22								
		潤滑油装置	11			クレーン類	23								
		自動洗浄ストレーナ	12			電動仕切弁	24								
		給水ポンプ	13			電動蝶形弁	25								
		スクリーンかす脱水機	14			電動偏心構造弁	26								
		スクリーン	15			弁類	27								
		破碎機	16			ポンプ類	28								
		排水ポンプ	17			排水タンク	29								
		ダンパー	18			タンク類	30								
		覆蓋	19			サイクロン	31								
		ゲート類	20			給水ユニット	32								
		電動ホイスト	21			スクリーン	33								
		手動チェーンブロック	22			油圧装置	34								
		電動チェーンブロック	23			電動開閉器	35								
		クレーン類	24			水位計	36								
		電動ダイヤフラム弁	25			ストレーナー	37								
		ポンプ類	26			電動弁	38								
		給水タンク	27			空気圧縮機	39								
		排水タンク	28			消音器	40								
		タンク類	29			ダンパー	41								
		可搬式小型空気圧縮機	30			その他	99								
		スラッジ用スクレーパ	31	ゲート設備	03	手動ゲート	01								
		油圧装置	32			電動ゲート	02								
		消音器	33			油圧ゲート	03								
		空気槽	34			油ポンプ	04								
		その他	99			汚泥スクリーン	05								
沈砂設備	02	ベルトコンベヤ	01			排水ポンプ	06								
		フライトコンベヤ	02			ゲート類	07								
		スキップホイスト	03			電動ホイスト	08								
		ホッパ	04			手動チェーンブロック	09								
		沈砂掻揚機	05			電動チェーンブロック	10								
		トラフコンベヤ	06			電動仕切弁	11								
		沈砂洗浄機	07			電動蝶形弁	12								
		手動ゲート	08			可動堰	13								
		電動ゲート	09			スクリーン	14								
		油ポンプ	10			油圧開閉装置	15								
		自動洗浄ストレーナ	11			電動開閉装置	16								
		給水ポンプ	12			手動開閉装置	17								

ポンプ設備 : WB

設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード
中分類		小分類		中分類		小分類		中分類		小分類		中分類		小分類	
汚水ポンプ設備	01	手動ゲート	01	雨水ポンプ設備	02	吐出弁	04	雨水ポンプ設備	02	冷却水ポンプ	51				
		主ポンプ	02			ディーゼル機関	05			蓄電池盤	52				
		主電動機	03			ガスタービン電動機	06			空気圧縮機	53				
		吐出弁	04			歯車減速機	07			ダンパー	54				
		ディーゼル機関	05			流体継手	08			油圧ユニット	55				
		歯車減速機	06			流体継手付歯車減速機	09			始動空気槽	56				
		油ポンプ	07			油ポンプ	10			制御装置	57				
		油タンク	08			油タンク	11			その他	99				
		生汚泥ポンプ	09			消音器	12								
		逆止弁	10			熱交換器	14								
		乾式フィルター	11			給水ポンプ	15								
		その他ポンプ類	12			排水ポンプ	16								
		給水ポンプ	13			給気ファン	17								
		排水ポンプ	14			排気ファン	18								
		給気ファン	15			手動天井クレーン	19								
		排気ファン	16			電動天井クレーン	20								
		その他ゲート類	17			電動ホイスト	21								
		手動天井クレーン	18			手動チェーンブロック	22								
		電動天井クレーン	19			電動チェーンブロック	23								
		電動ホイスト	20			その他クレーン類	24								
		手動チェーンブロック	21			手動仕切弁	25								
		電動チェーンブロック	22			電動仕切弁	26								
		その他クレーン類	23			電動蝶形弁	27								
		手動仕切弁	24			手動蝶形弁	28								
		電動仕切弁	25			空気用逆止弁	29								
		手動蝶形弁	26			その他弁類	30								
		電動蝶形弁	27			その他ファン類	31								
		電動偏心構造弁	28			その他ポンプ類	32								
		その他弁類	29			給水タンク	33								
		その他ファン類	30			その他タンク類	34								
		その他ポンプ類	31			給水ユニット	35								
		給水タンク	32			可搬式小型空気圧縮機	36								
		排水タンク	33			油冷却器	37								
		その他タンク類	34			冷却器	38								
		給水ユニット	35			消火器	39								
		電動機	36			流量計	40								
		開閉装置	37			開度計	41								
		流量計	38			水位計	42								
		水位計	39			電磁弁	43								
		空気抜弁	40			電動弁	44								
		バタフライ弁	41			保護継電器	45								
		空気圧縮機	42			その他盤類	46								
		消音器	43			原動機	47								
		その他	99			燃料ポンプ	48								
雨水ポンプ設備	02	手動ゲート	01			燃料貯油槽	49								
		電動ゲート	02			燃料小出槽	50								
		主ポンプ	03												

水処理設備 : WC

設備小分類(コード)	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	
中分類	小分類		中分類		小分類		中分類		小分類		中分類		小分類		
最終沈殿池設備	01	手動ゲート	01	反応タンク設備	02	手動ゲート	01	反応タンク設備	02	除湿器	48	最終沈殿池設備	03	減速器	41
		電動ゲート	02			電動ゲート	02			可搬式小型空気圧縮機	49			ストレーナ	42
		可動堰	03			主電動機	03			給油装置	50			電磁弁	43
		汚泥掻寄機	04			油ポンプ	04			流量計	51			調整弁	44
		スカムスキマー	05			油タンク	05			電動弁	52			その他(構成機器共通)	45
		スカム分離機	06			ブロワ本体	06			油圧ユニット	53			空気圧縮機	46
		生汚泥ポンプ	07			逆止弁	07			その他	99			ダンパー	47
		逆止弁	08			潤滑油装置	08	最終沈殿池設備	03	手動ゲート	01			空気槽	48
		散気装置	09			乾式フィルター	09			電動ゲート	02			圧力計	49
		吐出弁	10			湿式フィルター	10			主電動機	03			その他	99
		初沈汚泥ポンプ	11			散気装置	11			汚泥掻寄機	04	消毒設備	04	手動ゲート	01
		テレスコピック装置	12			吐出弁	12			スカムスキマー	05			電動ゲート	02
		その他ポンプ類	13			消泡ノズル	13			スカム分離機	06			主ポンプ	03
		給水ポンプ	14			水中攪拌機	14			逆止弁	07			逆止弁	04
		スカム移送ポンプ	15			循環ポンプ	15			消泡ノズル	08			消泡ノズル	05
		排水ポンプ	16			給水ポンプ	16			返送汚泥ポンプ	09			塩素注入装置	06
		給気ファン	17			排水ポンプ	17			余剰汚泥ポンプ	10			塩素ガス中和装置	07
		脱臭ファン	18			給気ファン	18			テレスコピック装置	11			次亜塩素酸注入装置	08
		攪拌機	19			排気ファン	19			マイクロストレーナ	12			排水ポンプ	09
		排気ファン	20			薬品注入ポンプ	20			自動洗浄ストレーナ	13			苛性ソーダ注入装置	10
		その他ファン類	21			覆蓋	21			給水ポンプ	14			攪拌機	11
		覆蓋	22			ゲート類	22			スカム移送ポンプ	15			排気ファン	12
		その他ゲート類	23			手動天井クレーン	23			排水ポンプ	16			紫外線滅菌器	13
		電動ホイスト	24			電動天井クレーン	24			攪拌機	17			薬品注入ポンプ	14
		手動チェーンブロック	25			電動ホイスト	25			薬品注入ポンプ	18			電動ホイスト	15
		電動チェーンブロック	26			手動チェーンブロック	26			その他ゲート類	19			手動チェーンブロック	16
		手動仕切弁	27			電動チェーンブロック	27			電動天井クレーン	20			電動蝶形弁	17
		電動仕切弁	28			手動仕切弁	28			電動ホイスト	21			オゾン発生装置	18
		手動蝶形弁	29			電動仕切弁	29			手動チェーンブロック	22			オゾン反応タンク	19
		電動蝶形弁	30			手動蝶形弁	30			手動仕切弁	23			排オゾン処理装置	20
		電動偏心構造弁	31			電動蝶形弁	31			電動仕切弁	24			原料ガス供給装置	21
		空気作動偏心構造弁	32			油圧蝶形弁	32			手動蝶形弁	25			手動ダイヤフラム弁	22
		電動ダイヤフラム弁	33			その他弁類	33			電動蝶形弁	26			薬品循環ポンプ	23
		その他弁類	34			給水タンク	34			油圧蝶形弁	27			薬品希釈ポンプ	24
		その他ポンプ類	35			薬品タンク	35			電動偏心構造弁	28			その他ポンプ類	25
		除湿器	36			塔類	36			空気作動偏心構造弁	29			給水タンク	26
		可搬式小型空気圧縮機	37			可動堰	37			その他弁類	30			薬品タンク	27
		電動開閉機	38			電動機	38			薬品移送ポンプ	31			薬品塔	28
		減速機	39			給水装置	40			その他ポンプ類	32			可動堰	29
		玉形弁	40			工業計器盤	41			給水タンク	33			塩素酸化器	30
		空気圧縮機	42			温度計	41			汚泥タンク	34			塩素ポンベ計重機	31
		空気槽	43			ヘッドタンク	42			薬品タンク	35			空気圧縮機	32
		流量計	44			油圧ユニット	43			その他タンク類	36			油圧ユニット	33
		圧力計	45			空気槽	44			可動堰	37			その他弁類	34
		その他弁類	46			流量計	45			除湿器	38			その他	99
		その他	99			圧力計	46			電動機	39				
						汚泥ポンプ	47			チェーン	40				

水処理設備 : WC

設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード
中分類		小分類		中分類		小分類		中分類		小分類		中分類		小分類	
用水設備	05	手動ゲート	01												
		電動ゲート	02												
		主ポンプ	03												
		主電動機	04												
		手動天井クレーン	05												
		ブロワ本体	06												
		逆止弁	07												
		散水機	08												
		マイクロストレーナ	09												
		自動洗浄ストレーナ	10												
		砂ろ過機	11												
		給水ポンプ	12												
		排水ポンプ	13												
		給気ファン	14												
		排気ファン	15												
		紫外線滅菌器	16												
		薬品注入ポンプ	17												
		ゲート類	18												
		電動ホイス	19												
		手動チェンブロック	20												
		手動仕切弁	21												
		電動仕切弁	22												
		手動蝶形弁	23												
		電動蝶形弁	24												
		その他弁類	25												
		その他ポンプ類	26												
		給水タンク	27												
		薬品タンク	28												
		給水ユニット	29												
		電動開閉機	30												
		流量計	31												
		電磁弁	32												
		電動弁	33												
		減圧弁	34												
		ダイヤフラム弁	35												
		空気圧縮機	36												
		油圧ユニット	37												
		流量計	38												
		その他	99												

汚泥処理設備 : WD

設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード	設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード
中分類		小分類		中分類		小分類		中分類		小分類		中分類		小分類	
消化タンク設備	0 1	油ポンプ	0 1	前処理設備	0 3	手動ゲート	0 5	濃縮設備	0 4	テレスコピック装置	1 1	濃縮設備	0 4	空気槽	5 8
		油タンク	0 2			主ポンプ	0 6			その他ポンプ類	1 2			圧力計	5 9
		テレスコピック装置	0 3			汚泥掻寄機	0 7			給水ポンプ	1 3			その他	9 9
		センタードーム(タンク本体)	0 4			水中攪拌機	0 8			スクリーンかす脱水機	1 4	薬注設備	0 5	フライトコンベア	0 1
		ガス攪拌装置	0 5			返送汚泥ポンプ	0 9			汚泥かき取り機	1 5			ホッパ	0 2
		脱硫器	0 6			余剰汚泥ポンプ	1 0			汚泥スクリーン	1 6			消石灰注入装置	0 3
		ガス貯留フォルダ	0 7			給水ポンプ	1 1			遠心濃縮機	1 7			塩鉄注入装置	0 4
		蒸気ボイラー	0 8			スクリュコンベア	1 2			消石灰注入装置	1 8			高分子注入装置	0 5
		余剰ガス燃焼装置	0 9			汚泥スクリーン	1 3			汚泥ポンプ	1 9			汚泥ポンプ	0 6
		熱交換機	1 0			汚泥ポンプ	1 4			破砕機	2 0			排水ポンプ	0 7
		給水ポンプ	1 1			破砕機	1 5			排水ポンプ	2 1			定量供給機	0 8
		汚泥ポンプ	1 2			排水ポンプ	1 6			定量供給機	2 2			薬品注入ポンプ	0 9
		補助燃焼装置	1 3			遠心脱水機	1 7			攪拌機	2 3			電動ホイスト	1 0
		給気ファン	1 4			定量フィーダ	1 8			排気ファン	2 4			その他弁類	1 1
		攪拌機	1 5			給気ファン	1 9			薬品注入ポンプ	2 5			その他ファン類	1 2
		排気ファン	1 6			排気ファン	2 0			覆蓋	2 6			薬品供給ポンプ	1 3
		ダンパー	1 7			その他ゲート類	2 1			手動天井クレーン	2 7			薬品移送ポンプ	1 4
		手動チェンブロック	1 8			電動天井クレーン	2 2			電動天井クレーン	2 8			その他ポンプ類	1 5
		電動仕切弁	1 9			電動仕切弁	2 3			手動チェンブロック	2 9			汚泥タンク	1 6
		空気作動蝶形弁	2 0			電動偏心構造弁	2 4			電動チェンブロック	3 0			薬品タンク	1 7
		空気作動偏心構造弁	2 1			その他弁類	2 5			電動ホイスト	3 1			その他タンク類	1 8
		空気作動ダイヤフラム弁	2 2			薬品供給ポンプ	2 6			手動仕切弁	3 2			除湿器	1 9
		その他弁類	2 3			薬品移送ポンプ	2 7			電動仕切弁	3 3			空気圧縮機	2 0
		その他ファン類	2 4			その他ポンプ類	2 8			空気作動仕切弁	3 4			その他	9 9
		その他ポンプ類	2 5			薬品タンク	2 9			電動偏心構造弁	3 5	熱処理設備	0 6	汚泥掻寄機	0 1
		その他タンク類	2 6			排水タンク	3 0			空気作動ダイヤフラム弁	3 6			生汚泥ポンプ	0 2
		その他塔類	2 7			その他タンク類	3 1			その他弁類	3 7			乾式フィルタ	0 3
		給水ユニット	2 8			サイクロン	3 2			その他ポンプ類	3 8			蒸気ボイラ	0 4
		圧力スイッチ	2 9			冷却器	3 3			給水タンク	3 9			熱交換器	0 5
		減圧弁	3 0			スクリーン	3 4			汚泥タンク	4 0			給水ポンプ	0 6
		燃料タンク	3 1			減速機	3 5			薬品タンク	4 1			反応器	0 7
		空気圧縮機	3 2			電磁弁	3 6			その他タンク類	4 2			汚泥ポンプ	0 8
		流量計	3 3			電動弁	3 7			その他塔類	4 3			破砕機	0 9
		その他	9 9			パタフライ弁	3 8			可動堰	4 4			熱濃縮機	1 0
洗浄タンク設備	0 2	手動ゲート	0 1			濃度計	3 9			給水ユニット	4 5			空気予熱機	1 1
		汚泥掻寄機	0 2			油圧ユニット	4 0			除湿器	4 6			給気ファン	1 2
		マイクロストレーナ	0 3			その他	9 9			検出器	4 7			攪拌機	1 3
		給水ポンプ	0 4	濃縮設備	0 4	自動除塵機	0 1			スクリーン	4 8			排気ファン	1 4
		汚泥ポンプ	0 5			ベルトコンベア	0 2			流量計	4 9			電動天井クレーン	1 5
		攪拌機	0 6			ホッパ	0 3			液面計	5 0			電動ホイスト	1 6
		ポンプ類	0 7			手動ゲート	0 4			減速機	5 1			その他弁類	1 7
		減速機	0 8			汚泥掻寄機	0 5			電動弁	5 2			その他ポンプ類	1 8
		その他	9 9			スカム分離機	0 6			濃度計	5 3			汚泥タンク	1 9
前処理設備	0 3	自動除塵機	0 1			生汚泥ポンプ	0 7			汚泥濃度計	5 4			薬品タンク	2 0
		ベルトコンベア	0 2			ブロウ本体	0 8			空気圧縮機	5 5			その他タンク類	2 1
		フライトコンベア	0 3			逆止弁	0 9			ダンパー	5 6			現場操作盤	2 2
		ホッパ	0 4			余剰汚泥ポンプ	1 0			油圧ユニット	5 7			空気圧縮機	2 3

汚泥処理設備 : WD

設備小分類(h)	コード	機器名(部位) (i)	コード
中分類		小分類	
熱処理設備	06	空気槽	24
		その他	99
脱水設備	07	ベルトコンベア	01
		フライトコンベア	02
		ホッパ	03
		手動天井クレーン	04
		電動天井クレーン	05
		電動ホイスト	06
		手動ホイスト	07
		空気圧縮機	08
		生汚泥ポンプ	09
		その他ポンプ類	10
		砂ろ過機	11
		給水ポンプ	12
		汚泥スクリーン	13
		塩鉄注入装置	14
		汚泥ポンプ	15
		真空ろ過機	16
		排水ポンプ	17
		高分子注入装置	18
		加圧脱水機	19
		遠心脱水機	20
		ベルトプレス脱水機	21
		スクリュウプレス脱水機	22
		定量フィーダ	23
		給気ファン	24
		ケースコンベア	25
		定量供給機	26
		乾燥機	27
		攪拌機	28
		排気ファン	29
		薬品注入ポンプ	30
		電動天井クレーン	31
		電動ホイスト	32
		手動チェーンブロック	33
		電動チェーンブロック	34
		電動仕切弁	35
		電動偏心構造弁	36
		その他ファン類	37
		薬品供給ポンプ	38
		薬品移送ポンプ	39
		薬品循環ポンプ	40
		その他ポンプ類	41
		給水タンク	42
		汚泥タンク	43
		薬品タンク	44
		その他タンク類	45

設備小分類(h)	コード	機器名(部位) (i)	コード
中分類		小分類	
脱水設備	07	その他塔類	46
		給水ユニット	47
		除湿器	48
		可搬式小型空気圧縮機	49
		流量計	50
		水位計	51
		フィルター	52
		汚泥濃度計	53
		汚泥界面計	54
		空気圧縮機	55
		消音器	56
		油圧ユニット	57
		空気槽	58
		流量計	59
		その他	99
焼却炉設備	08	自動除塵機	01
		ベルトコンベア	02
		フライトコンベア	03
		ホッパ	04
		トラフコンベア	05
		油ポンプ	06
		油タンク	07
		スカム分離機	08
		ブロー本体	09
		乾式フィルター	10
		次亜塩素酸注入装置	11
		自動洗浄ストレーナー	12
		脱硫器	13
		蒸気ボイラー	14
		熱交換器	15
		給水ポンプ	16
		スクリュウコンベア	17
		破碎機	18
		排水ポンプ	19
		定量フィーダ	20
		空気予熱機	21
		流動床焼却炉	22
		多段式焼却炉	23
		回転式乾燥焼却炉	24
		補助燃焼装置	25
		ケーキ投入機	26
		バグフィルター	27
		排煙処理塔	28
		給気ファン	29
		ケースコンベア	30
		振動機	31
		定量供給機	32

設備小分類(h)	コード	機器名(部位) (i)	コード
中分類		小分類	
焼却炉設備	08	煙突	33
		苛性ソーダ注入装置	34
		排気ファン	35
		薬品注入ポンプ	36
		電動天井クレーン	37
		スクラパー	38
		電動ホイスト	39
		空気作動ダイヤフラム弁	40
		その他弁類	41
		その他ファン類	42
		薬品供給ポンプ	43
		薬品移送ポンプ	44
		薬品循環ポンプ	45
		その他ポンプ類	46
		給水タンク	47
		薬品タンク	48
		その他タンク類	49
		脱臭塔	50
		その他塔類	51
		流動ブロー	52
		昇圧ブロー	53
		汚泥溶融炉	54
		給水ユニット	55
		除湿機	56
		加湿器	57
		液面計	58
		フロースイッチ	59
		圧カスイッチ	60
		電磁弁	61
		電動弁	62
		玉形弁	63
		減圧弁	64
		遮断弁	65
		濃度計	66
		燃料ポンプ	67
		減圧水槽	68
		空気圧縮機	69
		消音器	70
		ダンパー	71
		油圧ユニット	72
		空気槽	73
		汚泥ポンプ	74
		その他	99
空気余熱設備	09	熱交換器	01
		空気予熱機	02
		給気ファン	03
		その他	99

設備小分類(h)	コード	機器名(部位) (i)	コード
中分類		小分類	
白煙防止設備	10	白煙防止予熱機	01
		白煙防止ブロー	02
		その他ファン類	03
		可動堰	04
		その他	99
集塵設備	11	ベルトコンベア	01
		フライトコンベア	02
		ホッパ	03
		乾式フィルター	04
		スクリュウコンベア	05
		ケースコンベア	06
		その他ファン類	07
		サイクロン	08
		サイクロン搬出機	09
		加湿器	10
		その他	99
排煙設備	12	自動除塵機	01
		主ポンプ	02
		ブロー本体	03
		熱交換器	04
		給水ポンプ	05
		反応器	06
		補助燃焼装置	07
		排煙処理塔	08
		煙突	09
		苛性ソーダ注入装置	10
		その他ファン類	11
		薬品供給ポンプ	12
		薬品循環ポンプ	13
		その他ポンプ類	14
		薬品タンク	15
		その他タンク類	16
		その他塔類	17
		サイクロン	18
		湿式電気集塵機	19
		流量計	20
		濃度計	21
		ダンパー	22
		ベルトコンベア	23
		排気ファン	24
		空気用蝶形弁	25
		乾式電気集塵機	26
		流動ブロー	27
		可搬式小型空気圧縮機	28
		濃度計	29
		その他	99

高度処理設備 : WE

設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード
中分類		小分類	
凝集沈殿設備	01	汚泥かき寄せ機	01
		汚泥ポンプ	02
		攪拌機	03
		ゲート類	04
		減速機	05
		薬品タンク	06
		薬品注入ポンプ	07
		その他	99
溶存酸素回復設備	02	散気装置	01
		その他	99
急速ろ過設備	03	トラフコンベア	01
		手動ゲート	02
		電動ゲート	03
		主ポンプ	04
		フロア本体	05
		逆止弁	06
		自動洗浄ストレーナ	07
		砂ろ過機(鋼製)	08
		給水ポンプ	09
		排水ポンプ	10
		砂ろ過装置(三次処理用)	11
		繊維ろ過装置	12
		薬品注入ポンプ	13
		その他ゲート類	13
		手動天井クレーン	14
		手動チェーンブロック	15
		手動仕切弁	16
		電動仕切弁	17
		手動蝶形弁	18
		電動蝶形弁	19
		空気作動蝶形弁	20
		空気用蝶形弁	21
		その他ポンプ類	22
		給水タンク	23
		薬品タンク	24
		可動堰	25
		流動フロア	26
		除湿器	27
		空気圧縮機	28
		消音器	29
		油圧ユニット	30
		その他	99
活性炭設備	04	活性炭吸着等(三次処理用)	01
		再生炉(三次処理用)	02
		その他ポンプ類	03
		その他	99
管廊設備	01	逆止弁	01

共通 : WF

設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード
中分類		小分類	
管廊設備	01	散水機	02
		蒸気ボイラー	03
		給水ポンプ	04
		スクリーンかす脱水機	05
		破砕機	06
		排水ポンプ	07
		給気ファン	08
		排気ファン	09
		電動ホイスト	10
		その他クレーン類	11
		手動仕切弁	12
		手動蝶形弁	13
		手動ダイヤフラム弁	14
		その他ファン類	15
		その他ポンプ類	16
		給水タンク	17
		その他塔類	18
		警報器	19
		電動開閉機	20
		重量計	21
		温度計	22
		ガスフィルター	23
		エアチャンバー	24
		その他盤類	25
		指示計器類	26
		プリンタ	27
		消音器	28
		その他弁類	29
		その他	99

設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード
中分類		小分類	

設備小分類(h)	コード	機器名(部位)(i)	コード
中分類		小分類	

電気設備：WI ~ WP

設備小分類(コード)	機器名(部位) (i)	コード
中分類	小分類	
特高受変電設備	01 検電器	01
	02 断路器	02
	03 遮断器	03
	04 変流器	04
	05 避雷器	05
	06 変圧器	06
	07 接地開閉器	07
	08 計器用変圧器	08
	09 保護継電器	09
	10 保護継電器盤	10
	11 避雷器盤	11
	12 その他盤類	12
	13 変圧器盤	13
	14 コンデンサ盤	14
	15 計器用変圧器盤	15
	16 MOF盤	16
	17 蓄電池盤	17
	18 充電器盤	18
	19 遮断器盤	19
	20 マイクロコントローラー盤	20
	21 情報伝送装置	21
	22 現場操作盤	22
	23 工業計器盤	23
	24 監視盤	24
	25 端子盤(中継・接地等)	25
	26 分電盤(制御電源分岐盤等)	26
	99 その他	99

設備小分類(h)	コード	機器名(部位) (i)	コード	
中分類		小分類		
高圧受変電設備	02	変圧器	01	
		接地開閉器	02	
		保護継電器盤	03	
		その他盤類	04	
		変圧器盤	05	
		コンデンサ盤	06	
		変流器盤	07	
		計器用変圧器盤	08	
		MOF盤	09	
		発電機盤	10	
		蓄電池盤	11	
		高圧コンビネーションスタータ盤	12	
		遮断器盤	13	
		シーケンサー盤	14	
		低圧主幹盤	15	
		現場操作盤	16	
		監視盤	17	
		端子盤(中継・接地等)	18	
		分電盤(制御電源分岐盤等)	19	
		動力制御盤	20	
		高圧負荷開閉器	21	
		制御盤	22	
		その他	99	
	自家発設備	03	ディーゼル機関	01
			ガスタービン機関	02
			空気圧縮機	02
			油ポンプ	03
		油タンク	04	
		消音器	05	
		給気ファン	06	
		排気ファン	07	
		手動チェーンブロック	08	
		電動チェーンブロック	09	
		その他ポンプ類	10	
		給水タンク	11	
		その他塔類	12	
		空気槽	13	
		制御盤	14	
		冷却器	15	
		流量計	16	
		水位計	17	
		その他盤類	18	
		発電機	19	
		原動機	20	
		同期盤	21	
		自動始動盤	22	
		ダミーロード	23	

設備小分類	コード	機器名(部位)	コード	
中分類		小分類		
自家発設備	03	ダミー切換盤	24	
		燃料ポンプ	25	
		燃料タンク	26	
		発電機盤	27	
		冷却水ポンプ	28	
		減圧水槽	29	
		蓄電池盤	30	
		遮断器盤	31	
		コントロールセンター	32	
		補助継電器盤	33	
		現場操作盤	34	
		監視盤	35	
		中央計器盤	36	
		温度計	37	
		工業テレビ	38	
		動力制御盤	39	
		弁類	40	
		その他	99	
	直流電源設備	04	その他盤類	01
			蓄電池盤	02
			充電器盤	03
			インバータ盤	04
			コントロールセンター	05
			現場操作盤	06
			中継箱・電源箱	07
			その他	99
		高圧動力盤設備	05	変圧器
			保護継電器盤	02
	その他盤類		03	
	変圧器盤		04	
	コンデンサ盤		05	
	遮断器盤		06	
	補助継電器盤		07	
	回転数制御装置		08	
	動力制御盤		09	
	その他		99	
低圧動力盤設備	06	制御盤	01	
		その他盤類	02	
		変圧器盤	03	
		遮断器盤	04	
		シーケンサー盤	05	
		プログラマブルコントローラ盤	06	
		情報伝送装置	07	
		コントロールセンター	08	
		補助継電器盤	09	
		低圧主幹盤	10	
	現場操作盤	11		

設備小分類	コード	機器名(部位)	コード	
中分類		小分類		
低圧動力盤設備	06	工業計器盤	12	
		監視盤	13	
		回転数制御装置	14	
		端子盤(中継・接地等)	15	
		動力制御盤	16	
		表示灯類	17	
		その他	99	
	計装設備	07	空気圧縮機	01
			給水ポンプ	02
			検出器	03
		発信器	04	
		制御盤	05	
		重量計	06	
		流量計	07	
		圧力計	08	
		液面計	09	
		開度計	10	
		温度計	11	
		水位計	12	
		PH計	13	
		ミストセパレーター	14	
		濃度計	15	
		避雷器	16	
		その他盤類	17	
		充電器盤	18	
		コントロールセンター	19	
		現場操作盤	20	
		工業計器盤	21	
		中央計器盤	22	
		DO計	23	
		汚泥濃度計	24	
		雨量計	25	
		MLSS計	26	
		汚泥界面計	27	
		風量計(風向風速)	28	
		温度計	29	
		気圧計	30	
	降雨強度計	31		
	ORP(酸化還元電位)計	32		
	導電率計	33		
	濁度計	34		
	残留塩素計	35		
	UV計	36		
	COD計	37		
	TOC(全有機炭素量)計	38		
	中央監視盤	39		
	端子盤(中継・接地等)	40		

設備大分類 沈砂池電気設備以降については設備小分類が共通であるため共通のコード表とした。

